

581
46

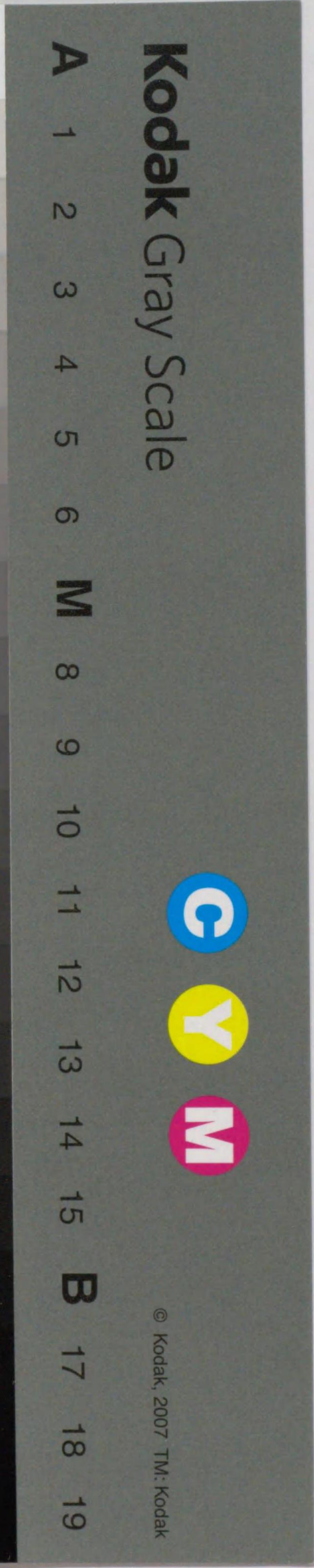
581-146
1200501522246

和五年四月一日發行

製鐵所參考資料

(第四拾參號)

製鐵所總務部



581-146



例言

一、本册子ハ文書課ニ於テ抄譯シタル外字新聞若クハ雜誌中掲載ノ事項及ヒ其他ノ調査資料ニ就キ參考トナルヘキモノヲ撰ミ關係所員ニ頒タンカタメ謄寫ニ代ヘ印刷スルモノトス

二、本册子ハ當務ノ參考ニ供スルヲ以テ目的トシ文字ノ彫琢編纂ノ體裁ニ於テ缺クル所少ナカラサルヘシ讀者之ヲ諒セヨ

製鐵所總務部

製鐵所參考資料第四十三號目次

本邦に於ける耐火煉瓦工業……………七十二

世界の鐵鋼業概觀……………八十

昭和四年中世界の石炭貿易……………九十

西班牙の鐵鋼業……………百三

歐洲粗鋼「カルテル」の更新ニ價格調節の問題……………百八

一九二九年の英國鐵板工業……………百十九

米國層鐵市況（其の一）……………百三十

米國層鐵市況（其の二）……………百三十九

統計……………百三十九

一九二九年十二月及全年に於ける獨逸壓延工場產額……………三〇

獨逸の一九二九年十二月及一九二九年中燃料產額……………三三

亞米利加の一九二九年中機械輸出額……………三三

佛蘭西の十二月及一九二九年中銑鋼產額……………三三

佛蘭西の一九二九年中銑鋼統計……………三三

佛蘭西の一九二九年中壓延工場產額……………三七

獨逸の十二月及一九二九年中銑鋼產額……………三九

亞米利加の一九二九年中モリブデン產額……………四〇

一月中獨逸の銑鐵產額……………四〇

一月中合衆國の石炭產額……………四〇

一月中合衆國の銑鋼產額……………四四

一九二九年中一月中……………一九



二八年に於ける世界鐵鑛石產出高……二四二 一九二九年に於ける英國鐵鑛及鋼塊產額……二四四 一九二九年に於ける合衆國の鋼材輸出額と仕向地……二四六 米國操業高爐數增加……二五三 一九二九年世界鐵鑛產額レコードを作る……二六〇 一九二九年十二月及一九二九年全年に於ける白耳義の石炭及鐵鑛產額……二六七 一九二九年に於けるザール地方鐵鑛產額……二六八 一九二九年に於けるルクセンブルグの鐵鑛石產額……二七〇 ユー、ユス、スチール、コーボレーション及ベスレヘム製鋼會社の收益……二七〇 合衆國の一九二九年中石炭輸出額……二七三 一九二九年中ニッケルの世界消費高……二七四 埃太利の一九二九年中燃料統計……二七五 ユーゴスラビヤの一九二九年中鑛物及金屬產額……二七六 トルコの一九二九年中石炭產額……二七七 ハンガリーの一九二九年中鑛物、鉄鑛產額……二七八 ニューファウンドランドの一九二九年中赤鐵鑛產額……二七九 獨逸の一九二九年中鐵石輸入額……二七九 チュニシヤの一九二九年中鐵鑛石產額……二八二 一九二八年に於けるメキシコの鐵鑛業……二八三 英領印度の一九二九年中鉄鑛輸出入額……二八三 一月中佛蘭西の鐵鑛產額……二八四 一月中白耳義の石炭、鐵鑛產額……二八五 一月中獨逸の鋼產額……二八六

海外雜報……

カルテルに於ては大陸相場を上ぐ……二八六 佛國鋼材輸入額減少……二八六 白國鉄鋼輸出入貿易減少……二八九 佛國生産額減少……二八九 佛國操業生産高不變……二九〇 獨逸鉄鋼貿易不振……二九〇 獨逸鉄鋼生産額減少……二九二 世界市場の分割進捗……二九二 英國鐵鋼市場靜穩……二九三 獨逸のワイヤー

及ネールの對米販賣……二九四 歐洲に於ける諸工場の對米販賣調節……二九四 歐洲の滿庵鑛石ストック……二九四 獨逸鋼取引不振……二九四 外資の管理する獨逸會社七十八社に及ぶ……二九四 スーペリオ湖鐵鑛石の平均鐵含有量増加……二九四 歐洲市場緩慢……二九七 獨逸鋼貿易不振……二九八 獨逸の鋼貿易に新リーダー現はる……二九九 伊太利車輛製造業者輸出シンヂケートを組織す……三〇〇 佛蘭西鉄鋼貿易復興……三〇〇 獨逸壓延工場は殆ど鋼シンヂケートに加入す……三〇二 國際鋼カルテルの價格政策に憤慨し商人は波蘭に引合を求む……三〇三 線材カルテルの第一四半期に對する割當額引上……三〇三 獨逸のフェライニグテ製鋼所は在ウエストファリアンの製鋼所を買収す……三〇三 合衆國に於ける諸工業用石炭ストック増加す……三〇四 ロシアニ八基の鑛鑪を備ふる大製鋼所設立……三〇四 四月第一週白耳義鐵鋼商況……三〇五 國際粗鋼カルテルの輸出協定……三〇八 ベスレヘム製鋼會社の合同……三〇八 亞米利加製鋼會社名、商品名並商標索引表……三二五

附 表

- 一、製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生産高月別表
- 一、各國鐵鋼及石炭月別生産統計
- 一、昭和四年本邦主要製鐵所別鐵鋼生産高表
- 一、昭和四年本邦鐵鋼材輸出入表

- 一、昭和四年英國鐵鋼輸出入統計表
- 一、昭和四年獨逸鐵鋼材輸出入表
- 一、昭和四年佛蘭西鐵鋼材輸出入表
- 一、昭和四年白耳義及ルクセンブルグの鐵鋼材輸出入表
- 一、昭和四年合衆國鐵鋼材輸出入表
- 一、世界主要製鐵國鐵礦需給表
- 一、支那石炭及鐵鋼產額
- 一、英國鐵鋼、石炭其他卸賣相場一覽
- 一、合衆國副產物骸炭能力一覽
- 一、合衆國の副產物骸炭能力一覽

本邦に於ける耐火煉瓦工業

化工部長 黒田泰造

緒言

著者は昨年十月東京に開催せられし萬國工業會議に於て、我國に於ける骸炭工業に耐火煉瓦工業に關する論文を發表したるが、その參考として、一昨年未本邦に於ける主なる耐火煉瓦製造所に對し、左の五項に就き質問を發したり

- 一、貴所(社)の現在耐火煉瓦年總產額
- 二、その生産中製鐵(製鋼)用のものの割合
- 三、貴所(社)の製品の特徴及び歴史
- 四、貴所(社)御使用の原料に就て(産地、耐火度、數量等)
- 五、其他(參考となるべき事)

本集はその返信中の解答部を其儘記載せるものにして、最後に當製鐵所耐火煉瓦工場に關するものを附したり

猶本邦に於ける著名工場にして質問洩れの所及び返信無き所あり。それ等を擧ぐる能はざりしは遺憾なり

本邦に於ける耐火煉瓦工業



內容目次

- 日本耐火煉瓦戶畑工場
- 日本鋼管株式會社
- 日本製鋼所室蘭工場
- 本溪湖煤鐵有限公司
- 戶畑耐火煉瓦製造所
- 東洋耐火煉瓦株式會社刈谷工場
- 釜石鑛業所
- 辻村商店
- 宇野耐火煉瓦株式會社
- 大坂耐火煉瓦製造所(瀨廣)
- 黑崎窯業株式會社
- 神戸製鋼所
- エツチ、エス耐火煉瓦製造所
- 帝國窯業株式會社
- 鞍山製鐵所

- 三保舍
- 九州耐火煉瓦株式會社
- 三井鑛山株式會社(三池製煉所)
- 三石耐火煉瓦株式會社
- 美濃窯業株式會社
- 三菱兼二浦製鐵所
- 品川白煉瓦株式會社
- 製鐵所

附表

主要工場種類別生産高、使用原料產地別等一覽表

日本耐火煉瓦戶畑工場

種類	一、年生産額	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦			
シヤモット煉瓦	二五〇一	三〇〇屯	二七五屯

蠟石煉瓦	三、五〇〇—三、六〇〇"	三、五五〇"
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		
其他(耐火モルタル)		五〇〇屯
計		四、三二五屯

二、製鐵(製鋼)用のもの

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅石煉瓦		
シヤモット煉瓦	八〇—一〇〇屯	九〇屯
蠟石煉瓦	五〇〇—六〇〇"	五五〇"
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		
其 他		
計		六四〇屯

三、製品の特徴及歴史

當工場は明治三十六年の創立に係り爾來引續き今日に到れり。此の間に於ける主なる販賣先は八幡製鐵所

並に海軍各工廠、鐵道院、諸會社等にて引續き今日に至れり
特徴としては特に記すべきものなきも蠟石質並にシヤモット製を主として製造しつゝ、あるを以て此の方面に對しては多少自負する處あり

四、使用原料に就いて

使用原料の主なるものは南滿洲に産する復州粘土及同硬質にして耐火度は三十三番乃至三十七番なり、蠟石質は主として岡山縣三石産を使用し耐火度は三十番乃至三十三番なり、使用數量は滿洲産約一、五〇〇屯、蠟石原料二、八〇〇屯なり
其他尾張方面に産する木節粘土、朝鮮南海岸方面に産する粘土蠟石を使用す。其量は約八〇〇屯なり

日本鋼管株式會社

種 類	何噸乃至何噸	平 均
珪石煉瓦		
シヤモット煉瓦	月 六〇〇—七〇〇	六五〇屯
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		

マグネシヤ煉瓦
其他

計 年 七、八〇〇

平均

二、製鐵(製鋼)用のもの

何噸乃至何噸

平均

矽石煉瓦

シヤモット煉瓦

蠟石煉瓦

クロム煉瓦

マグネシヤ煉瓦

其他

計

七、八〇〇

平均

年 七、八〇〇 (全部製鋼用)

三、製品の特徴及歴史

上記シヤモット煉瓦は全部造塊用湯道煉瓦にして同工場より産出する層煉瓦を原料とし之に適當の耐火粘土を混じ製造するものなり

四、使用原料に就いて

耐火粘土は主に尾張産を使用す。耐火度三〇番以上使用量一ヶ月三五〇屯内外なり

日本製鋼所室蘭工場

一、年 生産額

種 類

何噸乃至何噸

昭和三年度生産高

矽石煉瓦

六一〇屯

シヤモット煉瓦

二、〇三三屯

ノーブル、ストツパー

六〇"

クロム煉瓦

六七"

揚 湯 管

九〇"

ス リ ー プ

一五〇"

計

三、〇一〇"

能力

約四、〇〇〇屯

二、製鋼用のもの

種 類

何噸乃至何噸

矽石煉瓦

六一〇屯

昭和三年度生産高

シヤモット煉瓦	一、二〇三〃	〃
ノーブル、ストツパー	六〇〃	〃
クロム煉瓦	六七〃	〃
揚湯管	九〇〃	〃
スリープ	一五〇〃	〃
計	二、一八〇〃	〃

三、製品の特徴及歴史

當工場に於る煉瓦の自營は大正六年五月より開始せる所にして當時熔鑛爐及加熱爐改修に際し煉瓦使用高多量に上り之を社外に購求するに當りて地理的關係上所要量を圓滑に得るこゝ能はず空しく作業を中止するの狀態を防止するこゝ且つ社内産出煉瓦屑利用の目的を以て自營を開始せるものにしてシヤモット煉瓦製作より遂次成績を擧げ硅石煉瓦其他の製作に及び現在シヤモット類は殆ど自足し得るに至れり。硅石煉瓦類の不足量を購入する所なるも近く自給の域に達し得べき見込なり。而て當工場製品は熔鑛爐用加熱爐用品質形狀一定するも用途による異型種類多様なり

四、使用原料に就いて

品名	産地	耐火度	使用量	備考
復州粘土	大連	三四番以上	一、二〇〇鈔	耐火煉瓦用
木節粘土	尾張	〃	三〃	ストツパー、スリープ、ノツズル耐火磚管用
丹波硅石	丹波	三五番以上	六〇〇〃	硅石煉瓦用
クロム鑛石	北海道	〃	二〇〃	クロム煉瓦用
蠟石	支那博山	〃	七〇〃	ノーブル、ストツパー復州粘土と配合使用
煉瓦屑	社内	〃	一、五〇〇〃	

特記すべきことなし

五、其他參考となるべき事

本溪湖煤鐵有限公司

種類	一年生産額	平均
硅石煉瓦	何願乃至何噸	〃
シヤモット煉瓦	一〇〇噸	〃
蠟石煉瓦	二、二〇〇〃	〃

クロム煉瓦
マグネシヤ煉瓦
其他

計

11,310噸

二、製鐵(製鋼)用のもの

種 類

何噸乃至何噸

平 均

硅石煉瓦

100噸

シヤモット煉瓦

1,980噸

蠟石煉瓦

クロム煉瓦

マグネシヤ煉瓦

其他

計

2,080噸

主として製鐵用に使用せらるゝものにして約九〇%其他雜用(外部註文品ボキラー、ベチカ内巻煉瓦等)なり

三、製品の特徴及歴史

當公司にて耐火煉瓦の製造せられ實際工業的に製品を見しは過去一ケ年間にして専ら熱風爐及骸炭爐「タクマ」式ボキラー等の使用に過ぎず従つて製品に特に記載すべき特徴なく今尙試験時代なり

四、使用原料に就いて

粘土の種類	産 地	一ケ年使用量	耐火度(S.F)
本溪湖粘土(硬質)	當公司内(裏山)	1,000噸	331-34番
煙臺粘土	煙臺炭坑附近	300噸	33番
煙臺粘土	煙臺炭坑附近	800噸	28番
硅 石	南攻鐵山附近	100噸	33番

五、其他の参考となるべき事

創業日尙淺くして世に知らるゝこと少き爲め未だ販路等一定せず昨今奉天及其以北に幾分の註文を見つゝ、あるも現今製品の多くは當公司の自家用品を主とす

戸畑耐火煉瓦製造所

一、年 生 産 額

種 類

何噸乃至何噸

平 均

硅石煉瓦

730噸

800噸

シヤモット煉瓦

5,000噸

5,400噸

蠟石煉瓦	二、五〇〇	二、八〇〇	屯	
クロム煉瓦	少	量		
マグネシヤ煉瓦	八〇	九五	"	
其他	二、〇〇〇	二、九〇〇	"	
計	一〇、三〇〇	一一、九九五	"	

二、製鐵(製鋼)用のもの

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅石煉瓦	四五〇	五〇〇
シヤモット煉瓦	一、〇〇〇	一、五〇〇
蠟石煉瓦	二〇〇	二五〇
クロム煉瓦	少	量
マグネシヤ煉瓦	七八	九二
其他	一、二〇〇	二、〇〇〇
計	二〇、九二八	四、三四二

三、製品の特徴及歴史

當社製品は工場設立當時は製品の種類も蠟石質煉瓦のみに限られたるが歐洲大戰以來一般産業界の革命に

伴ひ爐窯の能率増進、或は經費節約の目的より爐材の撰定は重大なる意義を有し來れるこ且又當社長年月の研究の結果の殆ど爛熟せるに相俟ちて大正十三年工場設備の改善増設を企て今日に於ても未だ逐次改善を加へ半研究的に製作從事せり従つて從來餘り内地に於て製作せられざるアランダム、カーボランダム熱絶縁用煉瓦等にも製作の先鞭をつけ製品の種類頗る多岐に亘れり

又製法に於ても單筒粗末なる工程に余程趣を異にし特に焼成温度は各煉瓦の品種に基き最も適切なるを得せしむる高熱瓦斯爐の設備あり。特に硅石、シヤモット、マグネシヤ煉瓦の如き高温焼成を必要とする製品に於ては製品の優秀なるは確信を抱ける次第なるも設備の都合上數量に制限あるは遺憾とする所なり

四、使用原料に就て

硅石は旅順、白杵、丹波産 マグネシヤは大石橋産 蠟石は三石産
シヤモットに關しては耐火爐材の耐久力は耐火度の有無に關係せずこの當社の持論より耐火力は餘り高きを望まず成丈粘着力強き原料を採用する方針なり
目下は主として木節粘土を使用す

東洋耐火煉瓦株式會社刈谷工場

一、年 生 産 額

種 類	何噸乃至何噸	平 均
-----	--------	-----

種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	三〇〇—五〇〇屯	四〇〇屯
シヤモット煉瓦	八、〇〇〇—九、〇〇〇"	八、五〇〇"
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		
其他	一〇〇—三〇〇"	二〇〇"
計		九、一〇〇"
種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦		一〇〇屯
シヤモット煉瓦		二〇〇"
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		
其他		
計		三〇〇"

二、製鐵(製鋼)用のもの

三、製品の特徴及歴史

當社は後に説明せる如く優良なる木節粘土を豊富に占有せる關係上高級品としてS.K. 34 番程度の純シヤモット質耐火煉瓦の製造販賣を主眼とせり只遺憾なるは木節粘土を高温にて焙焼するに簡單なる方法なく従つて其生産費比較的高價となり外國産原料にして其儘使用し得るものゝ比し販賣上の不利なるを免れず。然れ共純國産の原料を主要原料とせるものなるため一朝有事の際國防上裨益する所あるを信じ以上の方針を持續して今日に及び

四、使用原料に就いて

1 木節粘土	産地	愛知縣西加茂郡猿投村字西枝下
耐火度	各種共全部	S.K. 34~35番
使用數量	一ヶ年約六、〇〇〇吨	
2 匣鉢破片	産地	名古屋 瀬戸 多治見地方
耐火度	S.K. 32~33	S.K. 30 S.K. 28
使用數量	一ヶ年約六、〇〇〇吨	
3 硅石	産地	三重縣志摩産及美濃産
耐火度	S.K. 33	S.K. 35

4 博山燒燻石

(S.K. 35)

三石ギン石

(S.K. 38)

五、其他の參考となるべき事

當會社は建設當時の事情及其他の理由により現在迄は餘り製鋼、製鐵方面の需要に對し意を用ひ居らざりしものなるが今後斯業の發展に伴ひ其方面の需要を充さん事を希望し居れり

附記 會社の經歷

當會社は大正七年五月現重役及其他發起人賛成人に於て緣故募集により資本金壹百萬圓（當時拂込金二十五萬圓）を以て設立せられたるものなり

當時製鐵事業並に各種熱工業最隆盛の時期なりしを以て一日も速かに製品を市場に供給するの急務に迫られ同年名古屋市御器所町に於て既設耐火煉瓦工場を買収し製造販賣を開始せり

大正八年三月現刈谷工場竣工し兩工場の能率を發揮して各方面の需要先に納入せり、其後主力を刈谷工場に集注し内容の充實を計りし結果生産能力増加せるを以て大正十一年末名古屋工場の製造を中止し販賣事務のみを取扱ひたるも更に昭和二年末全く之れを閉鎖し右の事務を一切刈谷工場に於て併せ行ふに至れり

一般耐火物工業は歐洲戰爭の終熄と共に急激なる打撃を蒙り當時勃興せる工場は大方廢業するの止むなきに至り當社も又一時經濟的打撃を蒙りたるも當刈谷工場に於ては幸ひに後記せる如く優良豊富なる原料を擁し工場位置全國の略中央部に位し且海陸運輸の便備り居るに加へ社内上下一致して此難關に處し工場設備の

改善に技術的研究に不斷の努力を振ひたる結果設立の日尙淺きに不拘製品の卓越せること各方面の認めらるる處となり業績茲に揚り夙に鐵道省及陸海軍省及其他各官廳の指定工場として令名を博し凡百の熱工業に對し其販路南は南洋、九州より北は樺太、北海道に及び需要日々に増加し工場設備亦順次擴張増産を計りて今日に及べり

主要原料及製品

一、原料粘土 由來三河、尾張、美濃地方は窯業原料の豊富なる産地にして其の内耐火原料たる木節粘土は品質優良にして産量豊富なること當三河國西加茂郡猿投村字西枝下を以て隨一をなすべし就中當社の主權を有する埋藏區域は實に百町歩に涉り純良粘土層を有し表土五間乃至十間の地下に於て層厚十五尺乃至二十尺の整然たる脈を現出せり。而て其色合可塑性等により之を四種に區別して採掘を行へども其の何れの部分も雖も耐火度の低、三十四乃至三十五番を有し他に聊も弱火性の部分を含まず品質常に均等にして實に國內稀有のものに稱すべく而も現在迄に於て採掘したる區域は其の極少部分に過ぎざるを思はゞ埋藏量の豊富なること推して知るべきなり

從來耐火物原料の優良なるものは當原料地以外には瀬戸地方及三石地方に於て主として採掘せられ其中等下等なるものは島ヶ原、磐城、多治見地方及其他に於て採掘せられ國內各地へ供給せられたり。然るに上記各地方のものは永年採掘を續けたる結果埋藏量漸次減少し品質従つて低下し前途甚だ寒心に堪えざるものあり

りしが當原料地は大正十一年三月農商務省技師清野信雄氏同技手曾我左祐氏の詳細なる調査報告により其の豊富なることを立證せられ續いて一部實業家により各種耐火物原料として使用せられたる結果次第に各方面の注意を喚起し一般に其眞價を認めらるゝに至り最近に於ては官民各會社の主腦技術者相踵いで視察せられ其の採掘の規模及品質の優良豊富なることにつき深く賞讃せられたり特に八幡製鐵所に於ては嚴密なる御試験の結果耐火物原料木節粘土として當地産のものは全國に冠たることを證せられ本年度に於ても多量注文を發せられ引續き納入中なり

右採掘地は省線刈谷驛より分岐せる三河鐵道枝下驛の直上に位し産地より鐵道への積込極めて便利にして如何なる大量の採掘輸送に關しても何等不安なきものとす

次に當社主製品の説明を掲ぐ

一、純シャモット質耐火煉瓦 本耐火煉瓦は既述せる如く枝下産木節粘土を全成分ミせる高級耐火煉瓦にして其の試験結果は別表に示す如く純國産の此種煉瓦にして最上級に屬せり。今其の製造法を略述せん採掘の儘の純木節粘土を煉瓦形に造形乾燥の後「ゼーゲル」錐一四番の火度に焙焼す、然るこきは木節粘土は極度に收縮し質極めて堅硬なる茶褐色の燒塊を生ず、是れ即ち「シャモット」なり、是れを粉碎機により稜角性の細粒に粉碎し一定重量の同質粉末生木節粘土を混合し加水練製せる素地を十數日間貯藏の後所定の成型をなし乾燥後燒成を行ふ。木節粘土は燒成により其成分中の揮發分一三乃至一六%を消失し、耐火煉瓦中

の礬土含有量は四二%内外に向上す。其耐火度は確實に「ゼーゲル」錐三四番を有し質堅硬吸水率僅少にして高熱部に使用して膨脹、收縮の著しき傾向なく又燐滓の浸蝕に堪え何れの用途にも満足なる成績を示すこゝは他品の追従を許さざる所にして就中「キユボラー」内張用、セメント回轉窯内張用、瓦斯レットルト、マツフル其他各種窯爐焚口用として耐久力強く、各方面の好評を博せり

一、普通質耐火煉瓦 當社に於ては既述せる純「シャモット」質の高級品の外一般向として「ゼーゲル」錐三〇乃至三二番の耐火度を有する普通品及三三番を有する中級品等數種の耐火煉瓦を製出し居れり、其原料及製造工程は凡て純「シャモット」質の場合に準ずるも「シャモット」原料中に瀬戸及名古屋、美濃地方に於て産出の匣鉢破片を混用して一層其價格低廉を期し又其の混和の分量に應じ各等級の耐火煉瓦を製造せり右煉瓦は耐火度及び其の他に於て純「シャモット」製品に劣るこ雖も使用の性状甚だしき差違なく收縮龜裂等より來る不結果又は火熱の急變による剝落等少なく各方面に向つて安定の成績を示せり一例を以て示せば機關車用耐火煉瓦試験結果に明かなる如く當會社製品は甚だ優秀なる結果を示せり。此の試験は現に鐵道省に於て採用中の主なる工場納品につき耐久力を比較研究の上報告せられたるものにして其の結果によれば當社製品は相手方製品に比し著しく勝り約二倍の耐久力あることを立證せられ各鐵道省規格により耐久度「ゼーゲル」錐三十番以上を指定せられたるものにして當社製品中最低質のものに屬せり。大さは並形煉瓦の三、五倍に相當する迫煉瓦なり

鐵道省に於ては右煉瓦の消費数は毎年六十萬個以上に及ぶものにして其耐火力の如何は輸送能率に多大の影響あるべし、他の場合にありては上記の如き耐久比較試験は行ひ難き事由あるを以て容易に各種煉瓦の優劣を判定し難き場合多けれども一般需要家各位には焼成不充分にして欠點多き粗製品を値段の安價なるが故にのみ購入せらるゝことなく品質の點につき一層の御考慮を加へらるれば必ず其効果あることを信じて疑はず本質の耐火煉瓦は各方面に涉り需要廣く其主なるものは製鋼用合金爐用セメント回轉爐用石炭瓦斯發生爐用、骸炭爐用各種ボイラー用等にして枚擧に遑あらず

一、矽石煉瓦 矽石煉瓦原料も國內に於て次第に良質のもの欠乏するに至れるに近時三重縣下に於て良質のもの多量に發見せられ當工場に對し海上の運送都合なるを以て現時は専ら是れを使用し居れり製品の耐火度「ゼーゲル」雖三三乃至三四番にして使用時の膨脹著しからず製鋼用並に瓦斯發生爐、高熱部用及分轉瓦斯レトルト等にして好成績を示せり

一、輕量耐火煉瓦 本煉瓦につきては特に製造法及原料に就て永年研究の結果優良品を製出販賣するに至れり右は耐火度「ゼーゲル」雖三四番を有し長時間高温度に曝露するも收縮龜裂を生ぜず熔滓に對し抵抗力強く主として艦船用として又は其他の用途に對して極めて有用にして從來製出せられたる此種煉瓦に比し著しく其の需要の範圍を擴大せり、重量及形狀は使用の目的に應じ如何様にも製作可能なり

一、其他製品 上述の外礬土質耐火煉瓦を始めし各種耐火モルタル、木節粉及「シヤモット」耐火、耐

酸煉瓦等を製作販賣せり

營社原料及耐火煉瓦試驗表

原料木節粘土分析表 (愛知縣工業試驗所但シ〇印、海軍技術研究所)

報告年月日	名	稱	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	CaO	MgO	Alkali	Jg. loss	備考
大正14. 7. 6	校下産木節粘土		46.14%	35.29	1.31	0.45	0.27	-	16.48	〇 Total 99.94
昭和 2.12.22	"	黒木節粘土	46.96	36.45	1.16	-	-	-	-	
" 3. 9. 4	"	白木節粘土	47.56	36.52	1.76	-	-	-	13.28	
" " "	"	鉛木節粘土	47.52	36.38	1.52	-	-	-	13.70	
" 2.12.22	"	青木節粘土	48.63	35.84	2.59	-	-	-	-	

原料木節粘土耐火度檢定表 (愛知縣工業試驗場)

報告年月日	名	稱	耐火度	攝氏温度	報告番號	備考
昭和 2. 4.15	校下産黒木節粘土		S.K. 35弱	1770°C弱	第4557號	
" 2. 6.28	"	鉛木節粘土	"	" 上	" 4739 "	
" 2. 4.15	"	白木節粘土	S.K. 34強	1750°C強	" 4558 "	
" 2.12. 9	"	青木節粘土	S.K. 34	1750°C	" 5097 "	

耐火煉瓦耐火度檢定表

(愛知縣工業試驗場)

報告年月日	名 稱	耐火度	攝氏溫度	報告番號	備 考
大正15.12.2	耐火煉瓦	S.K. 34	1750°C	第4241號	純シヤモット製品
" " "	"	"	"	" 4297 "	"
" " "	挂石煉瓦	"	"	" 4141 "	"
昭和 2.4.28	耐火煉瓦	S.K. 36以上	1790°C以上	" 4593 "	高礫土質煉瓦
" 3.5.20	"	S.K. 35	1770°C	東京高工報告	純シヤモット製品

耐火煉瓦耐壓強度

(愛知縣工業試驗場)

報告年月日	名 稱	每平樞ニツキ耐壓強度	報告番號	備 考
昭和 2.12.10	耐火煉瓦	190.94	第5106號	シヤモット質

耐火煉瓦軟化溫度

(東京高工近藤教授)

事 項	軟化開始溫度	1%壓縮シタル時ノ溫度	2%壓縮シタル時ノ溫度	3%壓縮シタル時ノ溫度	4%壓縮シタル時ノ溫度	5%壓縮シタル時ノ溫度	備 考
昭和3.5.20	1359°C	1456°C	1475°C	1486°C	1494°C	1502°C	純シヤモット製品

但し荷重每平樞2疋 試験体35 立方体とす

釜石鑛業所

一、年 生 産 額

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硃石煉瓦		
シヤモット煉瓦	四、五〇〇—五、五〇〇	五、〇〇〇屯
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		
其 他		
計	四、五〇〇—五、五〇〇	

二、製鐵(製鋼)用のもの (製鋼塊用穴煉瓦及製鋼取瓶用煉瓦)

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硃石煉瓦		
シヤモット煉瓦	四、五〇〇—五、五〇〇	五、〇〇〇屯
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		

マグネシヤ煉瓦 1
 其他 1
 計 四、五〇〇一五、五〇〇

特記すべき事項なし

三、製品の特徴及歴史

四、使用原料

久慈粘土、磐城粘土、木節満洲粘土等

五、其他 (特記事項なし)

此の外硅石煉瓦。クロム煉瓦。マグネシヤ煉瓦等は製造せず

高爐鑛滓より製造する鑛滓煉瓦あるも製鐵用耐火煉瓦にあらざれば本表に計上せず

辻村商店 (日本クロム)

一、年生産額

種 類	何 順 乃 至 何 順	平 均
硅石煉瓦	1	1
シヤモット煉瓦	一〇〇一 二五〇屯	一一〇屯

種 類	何 順 乃 至 何 順	平 均
蠟石煉瓦	六〇〇一 一、〇〇〇屯	七〇〇〃
クロム煉瓦	四、〇〇〇一 八、〇〇〇屯	五、〇〇〇屯
マグネシヤ煉瓦	1	1
クロムモルタル	四五〇一 六〇〇屯	五〇〇屯
耐火モルタル	三〇〇一 五〇〇屯	三五〇屯
計	1	六、六七〇屯

二、製鐵(製鋼)用のもの

種 類	何 順 乃 至 何 順	平 均
硅石煉瓦	1	1
シヤモット煉瓦	一〇〇一 二五〇屯	一一〇屯
蠟石煉瓦	三五〇一 六〇〇〃	四〇〇〃
クロム煉瓦	三、五〇〇一 七、〇〇〇〃	四、〇〇〇〃
クロムモルタル	三〇〇一 五〇〇〃	三五〇〃
耐火モルタル	一〇〇一 三〇〇〃	一五〇〃
其他	1	1
計	1	五、〇二〇〃

三、製品の特徴及歴史

A シヤモット並に耐火煉瓦

(イ) 歴史 大正七年一月

(ロ) 特徴 耐火煉瓦の優劣を論ずるに當り一般單に其の耐火度何番のみにて比較せんとする傾きあり當所製品も此點に付き重きを置くこと勿論なるも其の使用箇所により耐壓、耐熱、消塵、化學的變化、破損、溫度の急變等に特に留意しそれぞれ適材の配合を以て製造す特に耐火煉瓦に於て最も至難とさるる薄型煉瓦(通稱棚板ミ稱す)製造に成功し此種の煉瓦は主に陶器燒成の用に使用せられ特に強堅にして溫度の急變に耐ふるを要し當所に於て始めて製造成功したるものなり

B クロム煉瓦

(イ) 歴史 明治四十三年本邦クロム煉瓦としての最初の歴史を有す

(ロ) 特徴 使用鑛石が酸化クロム三六%の含有量を有し其他クロム煉瓦に必要な成分が天然に極めて巧妙なる配合を爲せるを以て其の燒成せる製品の耐火度は三六番を保證せられ高度の給熱を必要とし且つ耐久性の爐材を求むるに當りては最も適當なる品質なることは夙に世評の一致せるところなり。特に製鐵、製煉、鍛鋼工場に於ては其の化學的變化に耐ふる點に於て必要欠く可からざるものとす。其の生産、需要等本邦クロム界の約七割を占め、品質、形狀、燒締、色澤等常に斯界のリーダーたる權威を持しつゝ、有り、原料

成品等常に豊富なるストックを有し、一時に數百屯の註文に應ずるの準備あり

四、使用原料に就いて

A シヤモット並に蠟石煉瓦

(イ) 岡山産 三石蠟石 S.K. 三〇乃至三三番

(ロ) 愛知産 各種木節粘土 三三番

(ハ) 支那産 復州粘土 三三番

(ニ) 同 山東蠟石 三五番

B クロム煉瓦

クロム鑛石 S.K. 三六番

宇野耐火煉瓦株式會社

一、年 生産 額

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅 石 煉 瓦	1	三、〇〇〇屯
シヤモット煉瓦	1	一、一〇〇〃
蠟 石 煉 瓦	1	三、六〇〇〃

クロム煉瓦	1	50 屯
マグネシヤ煉瓦	1	1
其他	1	1
計	3	7,850 "

二、製鐵(製鋼)用のもの

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅石煉瓦	1	2,500 屯
シヤモット煉瓦	1	1
蠟石煉瓦	1	1,800 "
クロム煉瓦	1	1
マグネシヤ煉瓦	1	1
其他	1	1
計	7	4,300 "

三、製品の特徴及歴史

硅石 耐火力強く高熱に於て軟化する事なく火熱により絶対に收縮せざるは勿論、膨脹を來す事なし酸性
 鑛滓の侵蝕を受けざるのみならず鹽基性熔劑に對する抵抗力も絶大にして耐久力を有す、吳海軍工廠に多數

納入したり

四、使用原料に就いて

硅石	丹波産	S.K.	三四番
粘土	尾張産	S.K.	三三乃至三四番
蠟石	三石産	S.K.	三三乃至三七番

廣 瀬 (大阪耐火煉瓦製造所)

一、年 生 産 額

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅石煉瓦	八〇〇—一,〇〇〇屯	九〇〇屯
シヤモット煉瓦	五,〇〇〇—七,〇〇〇"	六,〇〇〇"
蠟石煉瓦	二,五〇〇—三,〇〇〇"	二,七〇〇"
クロム煉瓦	一,三〇〇—一,五〇〇"	一,四〇〇"
マグネシヤ煉瓦	1	1
其他	1	1
計	九,六〇〇—一二,五〇〇屯	一一,〇〇〇屯

二、製鐵(製鋼)用のもの

種類	何噸乃至何噸	平均
矽石煉瓦	五〇〇—七〇〇噸	六〇〇噸
シヤモット煉瓦	四、五〇〇—五、〇〇〇噸	四、八〇〇
蠟石煉瓦	一、八〇〇—二、〇〇〇	一、九〇〇
クロム煉瓦	一、三〇〇—一、五〇〇	一、四〇〇
マグネシヤ煉瓦	—	—
其他	—	—
計	八、一〇〇—九、二〇〇噸	八、七〇〇噸

三、製品の特徴及歴史

創業 明治二十三年創業以來硝子燐解用煉瓦及び製鐵製鋼用煉瓦を特に研究し湯止棒煉瓦は明治三十三年以來今日に到る迄八幡製鐵所に引續き納入致し居り、ノツヅル、ストツバ、鑄鍋用内張煉瓦は特に硝子用煉瓦と共に大いに研究を重ね居るに就き比較的御需要家に於て當方製品を御使用被下先きは、他工場の製品を御使用無之引續き御使用相成居る事が特徴と致し居る次第なり

四、使用原料に就いて

矽石煉瓦 丹波産赤白壹等石 SK.三五位のもの 約一、〇〇〇噸

蠟石煉瓦 朝鮮普通蠟石 SK.三三三 約一、五〇〇噸 產地 朝鮮竹林

但し代理販賣にて四乃至五、〇〇〇噸取扱

三石 蠟石 SK.三三三 產地 岡山縣三石 約一、〇〇〇噸

クロム煉瓦 SK.三十五番以上 產地 鳥取縣日野郡多里村 約一、五〇〇噸

但しクロム鑛石の自家經營鑛山より採掘年産額三、〇〇〇噸餘自家使用、餘は各需要家へ供給す

シヤモット煉瓦 復州粘土 SK.三四番 產地 奉天省復縣五個嘴 約三、〇〇〇噸

但し復州粘土は大連復州粘土公司代理販賣を致し居るに付一〇、〇〇〇噸餘の取扱を致し各

需用同業者に供給す

朝鮮粘土 SK.三四番 產地 木浦 約一、〇〇〇噸

但し代理販賣にて五一六、〇〇〇噸取扱ふ

尾張木節 SK.三三四番 產地 尾張瀬戸 約三〇〇噸

伊賀木節 SK.三三三番 產地 伊賀島ヶ原 同八〇〇噸

伊賀蛙目 SK.三三三番 同 同二、〇〇〇噸

朝鮮高級蠟石 SK.三六番 同 朝鮮竹林 同九〇〇噸

五、其他の参考いなるべき事

シヤモット煉瓦用朝鮮粘土は煉瓦に混合して極燒締り良きに付きノーズル、ストツパー及鑄鍋内張煉瓦及硝子用には使用して効果あり

蠟石煉瓦用朝鮮普通蠟石は三石産以上同品位のものは安價に付き經濟を認む

黒崎窯業株式會社

一、年 生産 額 (最近三ヶ年の實績)

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硅 石 煉 瓦	一五、三六七—一〇、三八六	一二、八一七屯
シヤモット煉瓦	一、三八一— 九六九	一、二三九〃
蠟 石 煉 瓦	—	—
ク ロ ム 煉 瓦	三— 〇	二〃
マ グ ネ シ ャ 煉 瓦	—	—
モ ル タ ル	一、四八六— 五八七	九六六〃
計	一八、二三七—一一、九四二	一五、〇二四屯

二、製鐵(製鋼)用のもの (最近三ヶ年の實績)

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硅 石 煉 瓦	一〇、九四七— 九、四九九	一〇、三九七屯
シヤモット煉瓦	五— 一 一四九	三三二〃
蠟 石 煉 瓦	—	—
ク ロ ム 煉 瓦	—	—
マ グ ネ シ ャ 煉 瓦	—	—
モ ル タ ル	一、〇一五— 四五二	七二四〃
計	一一、五〇四—一〇、二五二	一一、四三三〃

三、製品の特徴及歴史

創業 大正八年六月

製品 製品の大部分は鐵鋼業用として使用され生産額の七一八割に達す、殘餘の二—三割は瓦斯、硝子、セメント、金屬製鍊、汽罐用として需要せらるる恰も鐵鋼業用耐火材料の専門工場の如き觀あり

主要製品は硅石煉瓦にして八・五割を占む、品質優良を以て稍各方面の賞讃を博し居れり

四、使用原料に就いて

使用原料の主なるもの次の如し、(數量は昭和三年度の分)

大正十三年四月開設
 敷地總坪數 六四〇坪内建坪四六〇坪
 一萬個燒成角窯 一基
 粉 末 機 二臺
 配合は全部足踏
 生産高一ヶ月四萬個(並形容積換算)

二、製鐵(製鋼)用のもの (昭和三年一月—十二月)

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅 石 煉 瓦		一、〇〇〇
シヤモット煉瓦		二、〇〇〇
蠟 石 煉 瓦		二、〇〇〇
クロム煉瓦		一、〇〇〇
マグネシヤ煉瓦		一、〇〇〇
モ ル タ ル		五、〇〇〇
計		

三、製品の特徴及歴史

丹波赤 白硅石	一〇、六五三噸
豊後 同	
旅順 硅 石	
豊前 軟硅石	三、九五二噸
復州 粘土	六〇九噸
博山 蠟 石	三二六噸

神 戸 製 鋼 所

一、年 生 産 額 (自製煉瓦)

種 類	何噸乃至何噸	平 均
硅 石 煉 瓦		二、〇〇〇
シヤモット煉瓦		二、〇〇〇
蠟 石 煉 瓦		二、〇〇〇
クロム煉瓦		一、〇〇〇
マグネシヤ煉瓦		一、〇〇〇
モ ル タ ル		五、〇〇〇
計		

大正十五年八月

一萬五千個燒成角窯増築

生産高一ヶ月八萬一十九萬個

大正十五年十二月

配合土練機二臺設置

昭和三年三月

粉末機一臺増設

生産高一ヶ月一二五、〇〇〇個（並形容積換算）

モルタル 九〇噸

昭和四年六月

三萬個燒成用角窯一基増設の豫定（確定）

昭和三年度（一月―十二月）總生産高

容積にて並形換算 一、四五八、六〇〇個

重量にて 四、〇〇〇噸

モルタル 一、〇〇〇噸

煉瓦重量を蠟石質ミシヤモット質ミに區別すれば

蠟石質 二、〇〇〇噸

シヤモット質 二、〇〇〇噸

當煉瓦工場にては湯道煉瓦（鑄込管を含む）ミ取鍋用煉瓦を主として製作して居ります

四、使用原料に就いて

原料は各工場にて出來たる煉瓦屑を主要原料として使用して居ります、これは一ヶ年約一、五〇〇噸位使用して居ります

其他 伊賀木節粘土 SK 三〇番位 約五〇〇噸

丸山粘土（播州坂越産） 同 二八番位 約五〇〇噸

朝鮮陶土 同 三四番位 約六〇〇噸

白粘土（三石産） 同 三二番位 約八〇〇噸

復州粘土 同 三三番位 約五〇〇噸

赤硅石 同 三三番位 約六〇〇噸

エッチ、エス耐火煉瓦製造所

一、年生產額

種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦		
シヤモット煉瓦		
蠟石煉瓦	九、〇〇〇—一〇、〇〇〇屯	
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		
其他		
計	九、〇〇〇—一〇、〇〇〇屯	
二、製鐵(製鋼)用のもの		
種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦		
シヤモット煉瓦		
蠟石煉瓦	三、六〇〇—四、五〇〇屯	
クロム煉瓦		
マグネシヤ煉瓦		

其他	計
	三、六〇〇—四、五〇〇屯

三、製品の特徴及歴史

大正五年三月當三石町礦山大阪石筆合資會社の姉妹的關係に生れ特に良質原料の採擇に使あれば従而品質一定優良なるを特徴す

四、使用原料に就いて

三石町産蠟石粘土	SK. 110—111番	約四、四〇〇噸
同	同	同
同	三三番	同一、五〇〇噸
同	三三番	同一、八〇〇噸
三石町産蠟石	同	同
同	三四—三五番	同一、五〇〇噸
同	同	同
同	三六番以上	九〇噸
同	同	同
同	三二番	二〇〇噸
同	同	同
同	三三番	二〇〇噸
同	同	同
同	同	同

帝國窯業株式會社

一、年生產額

種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	二〇〇— 二三〇屯	二二五屯
シヤモット煉瓦	二、四〇〇— 二、九五〇"	二、六七五"
蠟石煉瓦	四、五〇〇— 五、〇〇〇"	四、七五〇"
クロム煉瓦	一〇〇— 一二〇"	一一〇"
マグネシヤ煉瓦	—	—
其他	一、六〇〇— 一、九〇〇"	一、七五〇"
計	八、八〇〇— 一〇、二〇〇屯	九、五〇〇屯
二、製鐵(製鋼)用のもの		
種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	—	—
シヤモット煉瓦	六〇〇— 八〇〇屯	七〇〇屯
蠟石煉瓦	三、〇〇〇— 四、〇〇〇"	三、五〇〇"
クロム煉瓦	—	—
マグネシヤ煉瓦	—	—
其他	—	—
計	三、六〇〇— 四、八〇〇屯	四、二〇〇屯

三、製品の特徴及歴史

イ 當地は片山灣沿岸にして三石産其他各地の原料を比較的便利に取寄せ所要に應じ各配合原料を容易に撰擇し得るの便益あり殊に取鍋用、セメント回轉窯用耐酸等の煉瓦は耐久性持續回数に付稍定評あり愚考せり

ロ 當社は耐火煉瓦其他窯業品製造販賣の目的を以て大正五年十月(舊日本窯業會社が品川白煉瓦會社に合併約半年前) 資本金五萬圓の株式會社を設立、翌六年十一月三十萬圓に増資し蠟石質、粘土質、耐火煉瓦、硅石、クロム、耐酸等の各種煉瓦製造に従事せり。而して設立以來十二ヶ年餘作業繼續今日に及ぶ

四、使用原料に就いて

使用原料の主なるものは三石大阪石筆會社、同大平鑛山、同加藤鑛山、其他附近産各種、島ヶ原、瀬戸、美濃の高級、下級各種木節粘土、山口縣徳佐蠟石、山陰クロム鑛石、丹波山城の硅石、復州硬質及軟質粘土、山東、朝鮮蠟石及粘土等にして、耐酸用併に S.K. 二八番程度の粘土は當地二里以内の各地に散在せるもの、ダイアスポーア類は三石、徳佐、朝鮮産を使用せり

鞍山製鐵所

一、年生産額

種類	何噸乃至何噸	平均	能力
硅石煉瓦			一、二〇〇屯
シヤモット煉瓦			六、八〇〇"
蠟石煉瓦			
クロム煉瓦			
マグネシヤ煉瓦			
其他			
計			八、〇〇〇屯
一一、製鐵(製鋼)用のもの			
種類	何噸乃至何噸	平均	
硅石煉瓦			一、二〇〇屯
シヤモット煉瓦			六、八〇〇"
蠟石煉瓦			
クロム煉瓦			
マグネシヤ煉瓦			
其他			
計			八、〇〇〇屯

三、製品の特徴及歴史

工場沿革 大正十四年九月工場建設開始 同十五年九月工場竣工 工場生産能力年産五、〇〇〇噸 大正十五年十月第一回窯出 昭和三年六月擴張工事完成能力年産八、〇〇〇噸 同七月より平常作業及擴張工事用煉瓦を製造中

製品は専ら所内用にて當分所外を引受る能力なし

製品の特徴

シヤモット煉瓦 軟化温度及破壊温度共に高く軟化點及破壊點の距離大なる特徴を有す

硅石煉瓦 結晶變移温度高きため膨脹率大なる嫌あれども弾性率大なる特徴あり

四、使用原料に就いて

煙臺産硬質粘土、同軟質粘土、西鞍山産硅石を使用す其の成分次の如し

減量	珪酸	礬土	酸化鐵	石灰	苦土	計	耐火度
硬質粘土	四、七	四、七	一、二	〇、七	〇、七	一〇、〇	三番
軟質粘土	一、三	四、五	三、五	〇、九	〇、六	六、八	三"
硅石	〇、七	六、六	二、四	一、〇	〇、五	九、八	三"

五、其他の参考となるべき事

昭和三年度は平常用煉瓦の外に鉄鐵二八萬噸計畫工事用の煉瓦の生産を急ぎつゝ、あり

三 保 舍

一、年 生 産 額

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硅 石 煉 瓦	31,719.1, 300	61.50
シヤモット煉瓦	364,216.4, 200	514.3
蠟 石 煉 瓦		
ク ロ ム 煉 瓦		
マ グ ネ シ ャ 煉 瓦		
其 他		
計	395,917.5, 500	575.8

二、製鐵(製鋼)用のもの

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硅 石 煉 瓦		
シヤモット煉瓦		

蠟 石 煉 瓦		
ク ロ ム 煉 瓦		
マ グ ネ シ ャ 煉 瓦		
其 他		
計		

三、製品の特徴及歴史

大正四年頃に於て市場に於ける耐火煉瓦は ⅡⅢ 三四番程度のものを以て最高のものでせられしが特殊の
爐及セメント工業に於ては其壽命短きを以て能率増進に大なる障害あるに鑑み高級耐火煉瓦製作研究に着手
し内地は勿論朝鮮滿洲に於ける原料の調査の結果左記特質を有する煉瓦を容易に製作する事に成功し大正六
年より市場に販賣せり

弊社蠟石煉瓦特質

耐火度 ⅡⅢ 三八番以上

酸化アルミナ含有量 六五%以上

膨脹率 〇、〇〇〇〇〇六六

收縮 攝氏一、六〇〇度に於て零

熱の傳導度 〇、〇〇三四 C.C.S. カロリー
 比重 二・七一二・八
 吸水量 一四%以下
 燒成火度 攝氏一、四〇〇度
 四、使用原料に就いて
 產地 朝鮮、岡山縣

九州耐火煉瓦株式會社

種類	一、年生産額		平均
	何噸乃至何噸	何噸乃至何噸	
硅石煉瓦	昭和二年度 一〇一〇	九三屯	九七屯
シヤモット煉瓦	昭和二年度 六、八八九	六、五八二	六、七三五・五
蠟石煉瓦	昭和二年度 二、三八〇	二、五九八	二、四八九・五
クロム煉瓦	昭和二年度 一一	一一	一一

種類	二、製鐵(製鋼)用のもの		平均
	何噸乃至何噸	何噸乃至何噸	
アルマイト	昭和二年度 六、七九六	四一・二・五	四一・二・五
其他	昭和二年度 五、六〇三	五、六〇三	五、六〇三
計	昭和二年度 一、〇九〇	九、七九〇・五	九、七九〇・五
モルタル各種	昭和二年度 一、〇六九	一、〇六九	一、〇六九
硅石煉瓦	昭和二年度 一、〇二六	七四八・五	七四八・五
シヤモット煉瓦	昭和二年度 一、〇二六	一、〇二六	一、〇二六
蠟石煉瓦	昭和二年度 一、〇二六	一、〇二六	一、〇二六
クロム煉瓦	昭和二年度 一、〇二六	一、〇二六	一、〇二六
マグネシヤ煉瓦	昭和二年度 一、〇二六	一、〇二六	一、〇二六
其他	昭和二年度 一、〇二六	一、〇二六	一、〇二六
計	昭和二年度 一、〇二六	一、〇二六	一、〇二六

三、製品の特徴及歴史

當社は復州粘土を主要原料とし耐火煉瓦の製造販賣を爲す目的にて大正五年七月八幡市枝光に於て創立したるものにして普通一般耐火煉瓦は内地産原料を用ひ製造したるもの其の價格も復州粘土製煉瓦に比し至廉にして旁々當時復州粘土の眞價を知るもの至つて尠く爲に復州粘土製煉瓦は一般向しては更に顧られざりしを以て復州粘土煉瓦を主たる目的とする事は會社經營上甚だ不利益なる状態なりしを以て高級品に復州粘土を普通品には内地産原料を使用する事とし經營し來りたれども爾來十餘年間其用途による復州粘土煉瓦の適否の研究を遂げ適所に向つては絶へず之が宣傳を怠らざりし結果復州粘土煉瓦は數年來高級ボイラー火室用煉瓦として最も適合せるものなること一般に證認せられる處となり近時關西、關東地方に建設せられたる大火力發電所は何れも主要部分用煉瓦として復州粘土煉瓦を採用せられたるに付民間に於ける復州粘土煉瓦の製作者として先驅者なる弊社は製作上他業者に比し一日の長所あり従つて復州粘土煉瓦に就ては各納入先共多大の御賞讃を蒙り創立十年後に於て漸く弊社創立目的を達成するこゝを得たる次第殊に復州硬質粘土を加工したる耐火物（アルマナイト）は其加工方法に付て昭和二年二月特許局より專賣特許の許可あり之を原料として製作せる「アルマナイト」煉瓦は高級ボイラー火室用及セメント回轉窯燒結用煉瓦として好適品にて最近各需要家より多大の好評を得るに至り逐年増産を促されつゝある狀況なり

弊社製品は前記の通り復州粘土及同硬質粘土を原料とする高級シャモット質煉瓦殊に礬土六五%一七〇%を含める耐火度三六番以上のアルマイト煉瓦の製作及内地三石産蠟石を原料とする蠟石煉瓦に於て形狀の正

確なる燒成火度の高き等特徴として一般に認識せられ居る所なり

四、使用原料に就いて

使用原料は（三）項に記せる如く高級煉瓦の主要原料としては復州粘土を使用し普通シャモット質は京都、名古屋地方田五郎及伊賀、三河産木節粘土を其他蠟石質は三石蠟石及朝鮮産蠟石粘土を主として使用し居れり。昭和三年度の購入數量は大體左記の通り

復州粘土	SK. 三三三—三四番	二、七三三噸
同硬質粘土	三五一—三六〇	二、一五六〃
木節粘土	三三三—三四〃	四一六〃
田五郎	三〇一—三二二〃	八九八〃
其他粘土	三〇一—三一一〃	七二四〃
蠟石質原料		
三石蠟石	三三三—三四〃	一、五一七〃
〃	三三二番	二、九三八〃
〃	三三〇〃	一、六三五〃
朝鮮蠟石粘土	三五五〃	一四二〃

計 硅 石 " 三三"
 計 一二六"
 一三、二六五"

五、其他の參考となるべき事

過去一ケ年間に於ける弊社製煉瓦の使用先別割合

御使用先	割合	上記割合中のアルマナイトの割合	アルマナイト煉瓦製作数の使用先別割合
瓦斯發生各爐用	四三、九%	〇、一七%	二、二%
汽 縮 用	二五、七%	七、七六%	五七、八%
セメント回轉窯用	一一、二%	一一、五二%	四〇、〇%
製鋼製鐵用	七、六%		
製紙木釜用	一、四%		
其他 雜用	一〇、二%		
計	一〇〇、〇%		一〇〇、〇%

三井鑛山株式會社 (三池製煉所)

一、年 生 産 額 (三池鑛山株式會社)

種 類	何 噸 乃 至 何 噸	平 均
硅 石 煉 瓦	三、〇〇〇—二、〇〇〇屯	
半 硅 石 煉 瓦	三〇〇—四〇〇"	
シヤモット煉瓦	二、五〇〇—一、五〇〇"	
耐 酸 煉 瓦	五〇—一五〇"	
蠟 石 煉 瓦	一、〇〇〇—七〇〇"	
カーボモンド	三〇—五〇"	
アラモンド	一〇—五〇"	
磁 管	一〇〇—一五〇"	
計	六、〇〇〇—六、〇〇〇屯	

割合 右記之量の五〇乃至二〇% 平均二五%

三、製品の特徴及歴史

大正四年八月亞鉛蒸餾爐及骸炭爐用等の耐火煉瓦自給の目的を以つて工場を創設し大正七年十一月廣く社外の需要に應ずるため設備を擴張し大正十三年一月以來カーボモンド、アラモンド等を原料とする高級耐火煉瓦の製造をも開始し今日に至る

四、使用原料に就いて

名稱	數量	耐火度 S.K.	產地
赤白硅石	三、〇〇〇噸	三四	丹波、若狹、臼杵等の産
赤硅石	五〇〇	三一—三二	熊本縣有佐、三重縣三重、熊本縣佐敷等の産
其他の硅石	一、〇〇〇	三三—三四	滿洲、高藏寺、朝鮮巡威島等の産
砂岩	五〇〇	三三	三池 倉永
内地産蠟石	一、〇〇〇	三〇—三四	山口縣、岡山縣、長崎縣等の産
博山蠟石	五〇〇	三四	支那
外國粘土	一、〇〇〇	三三—三四	復州、博山、朝鮮生氣嶺等の産
内地粘土	五〇〇	三三—三四	尾張、多治見、大村等の産
陶土	二〇〇		天草
カーボモンド			
アラモンド	一〇〇		鹿兒島縣神川にて製造のもの ダイアスポーアは長野産
ダイアスポーア			

三石耐火煉瓦株式會社

一、年生産額

種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	一	
シヤモット煉瓦	四、〇〇〇噸	
蠟石煉瓦	一八、〇〇〇	
クロム煉瓦	一	
マグネシヤ煉瓦	一	
其他	一	
計	一二二、〇〇〇噸	
二、製鐵(製鋼)用のもの		
種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	一	
シヤモット煉瓦	一、八〇〇噸	
蠟石煉瓦	四、〇〇〇	
クロム煉瓦	一	
マグネシヤ煉瓦	一	
其他	一	
計	五、八〇〇噸	

三、製品の特徴及歴史

歴史 明治二十五年創業専ら蠟石煉瓦を作る

大正十二年 兵庫縣那波港に分工場を作る 分工場に於ては目下専らシヤモット煉瓦を作る

大正十四年 三石町所在三石白煉瓦株式會社を買収

大正十五年 三石町所在大谷耐火煉瓦製造所を買収

特長 別に特記する程の事なきも用途により夫々の要求條件を異にするを以て各要求條件に適當なる品を比較的安價に供給せんとする事には大に努力し居れり。尙本邦斯業改良進歩を計らんが爲め設備上工夫考案し近年中に完成を期す

四、使用原料に就いて

岡山縣三石町産蠟石 約二〇、〇〇〇噸

三重縣阿山郡木節粘土 約 二、〇〇〇噸

復州粘土 同 二、〇〇〇噸

耐火度 蠟石 SK二八一三四番 木節粘土 SK三〇一三三番 復州粘土 SK三二一三四番

美濃窯業株式會社

一、年生産額

種類	何噸乃至何噸	平均
矽石煉瓦		五、〇〇〇噸
シヤモット煉瓦		二〇〇〃
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		
マグネシア煉瓦		
其他		
計		五、二〇〇噸
二、製鐵(製鋼)用のもの		
種類	何噸乃至何噸	平均
矽石煉瓦		
シヤモット煉瓦		六〇〇噸
蠟石煉瓦		
クロム煉瓦		
マグネシア煉瓦		
其他		
計		六〇〇〃

記事なし

三、製品の特徴及歴史

四、使用原料に就いて

耐火度

耐火粘土 A	岐阜縣土岐郡土岐津町	S.K. 三〇一三三番
同 B	同 惠那郡鶴岡村	同 三三一三五番
同 C	愛知縣瀬戸町	同 三二一三四番
シヤモット	岐阜縣土岐郡及惠那郡地方	同 二九一三三番
	日本陶器會社製及當社製	同 三二一三四番
蠟石	岡山縣三石町	同 三三一三五番
復州粘土	滿洲産	同 三三一三五番

三菱兼二浦製鐵所

一、年生産額 (三菱兼二浦製鐵所)

種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	(昭和三年度分)	1

シヤモット煉瓦	1	一四九、七九四屯
蠟石煉瓦	1	二九五、八四四"
クロム煉瓦	1	1
マグネシヤ煉瓦	1	1
其他	1	四四五、六三八"
計	1	1

二、製鐵用のもの (製鋼作業休止中に付製鋼用煉瓦使用なし)

種類	何噸乃至何噸	平均
硅石煉瓦	(昭和三年度分)	1
シヤモット煉瓦	1	一四九、七九四屯
蠟石煉瓦	1	二九五、八四四"
クロム煉瓦	1	1
マグネシヤ煉瓦	1	1
其他	1	四四五、六三八"
計	1	1

註 生産能力は年間三、〇〇〇屯 内譯 粘土質及特殊煉瓦 五〇% 硅石煉瓦 五〇%

目下作業休止中にて時々必要に應じて操業するに過ぎざるに付産額少量なり

三、製品の特徴及歴史

操業開始大正七年作業休止大正十一年其間主として製鋼用煉瓦を製造す、作業休止後は必要に應じ骸炭
爐、熔鑛爐用煉瓦を生産せり特に特徴として擧ぐる程のものなし

四、使用原料に就いて

原料として使用せるもの次の如し

矽石類

平安南道瑤浦産矽石 S.K. 三三二番

大分縣産 同 三三二番

耐火粘土及蠟石

關東州復州産粘土 S.K. 三三二一—三三六番

平安南道岐陽産蠟石 同 三三二番

クロム鐵鑛

伯耆産 クロム鐵鑛 S.K. 三三二一—三三三番

原料使用數量は前述の關係上一定せず

品川白煉瓦株式會社

一、年生産額

種類	並形換算數	平均	生産割合(數量比)
矽石煉瓦	四、八〇〇、〇〇〇箇	一三、七〇〇屯	二二、七%
シヤモット煉瓦	一〇、二〇〇、〇〇〇"	二八、二〇〇"	四八、五"
蠟石煉瓦	四、八〇〇、〇〇〇"	一三、七〇〇"	二二、七"
クロム煉瓦	六〇〇、〇〇〇"	二、四五〇"	二、八"
高礬土質煉瓦	一一〇、〇〇〇"	三八〇"	〇、五"
斷熱煉瓦	六〇〇、〇〇〇"	六〇〇"	二、八"
計	二二、一一〇、〇〇〇"	五九、〇三〇"	一〇〇、〇"

此の外 各品種に對應モルタル 耐酸煉瓦 内張用裝飾煉瓦 外張用裝飾煉瓦等

二、製鐵(製鋼)用のもの

種類	並形換算數	平均	年生産に對する割合(數量比)
矽石瓦煉	四、三二〇、〇〇〇箇	一一、三三〇屯	九〇、〇%
シヤモット煉瓦	二、五五〇、〇〇〇"	七、〇五〇"	二五、〇"

蠟石煉瓦	一、六八〇、〇〇〇"	四、八九五"	三五、〇"
クロム煉瓦	三六〇、〇〇〇"	一、三七五"	六〇、〇"
高礬質土煉瓦	1	1	1
斷熱煉瓦	1?	1?	1?
計	八、九二〇、〇〇〇"	二六、六五〇"	四二、二"

三、製品の特徴及歴史

本邦民間に於ける硅石煉瓦の嚆史としての歴史を有するものにして明治より大正の初期に掛けて本邦各種製鋼業、製銅業、瓦斯及骸炭工業、硝子工業に對し相當貢獻せしことを信するものなり。然るに過去數年各種事情のため一部製鋼方面の使用に頓挫を見たるも近時は等の禍根を一掃して再生の機を迎ふるを得たり。而て技術の向上に精進するに共に昨年始め起工せし岡山第二工場に依り製産能力の充實を期したり。實に新設工場は主力を硅石煉瓦に置きたるものなり。特徴としては用途に適應する性質を附與するため製品に自ら種類を生せしめたり。

一、製鋼用硅石煉瓦 (符號 O.H. B.D. D.D.)

真比重	外觀比重	吸水率	氣孔率	殘餘膨脹率	耐火度
2.347	1.942	8.91	17.31	1.0%以下	S.K. 32+

二、骸炭爐用及瓦斯發生爐用 (符號 C 印)

真比重	外觀比重	吸水率	氣孔率	殘存膨脹率	耐火度
2.838	1.730	15.37	26.58	0.7%以下	S.K. 31+

三、製鋼反射爐並に硝子工業用 (符號 A 印)

真比重	外觀比重	吸水率	氣孔率	殘存膨脹率	耐火度
2.402	1.805	14.57	26.30	1.5%以下	S.K. 32+

シヤモット煉瓦

A 福島縣磐城耐火粘土を主體とするもの (當社湯本工場主製品) maturing temperature 低く dense structure を附與し得る事の特徴を有す

B 復州産、博山産、青島産、耐火粘土を主體とするシヤモット煉瓦を又は之等に high alumina の蠟石又は同質粘土を適當に混和せし半蠟石質シヤモット煉瓦 (當社岡山第二工場製品)

高火度焼成による強大なる strength free silica の含有少なり、 expansion curve は滑かにして且 high temperature load bearing resistance の大なるものを特徴とす

蠟石質煉瓦 (當社岡山第一工場主製品)

A 岡山縣産は又朝鮮産の各種蠟石又は同質粘土 (比較的 siliceous のものより alumina rich のもの) に至

る)を主原料ミせるもの

B 前記蠟石及び蠟石粘土焼粉を主要原料ミし伊賀、尾張等の木節粘土を配合せるもの

一般市販蠟石煉瓦は其の製法最も簡單にして製品評價は單に耐火度指數によつて決定され即ち評價の基準が使用原料のみに負荷され其の處理方法の如何は問題視されざる如き傾向なり

世上往々にして蠟石煉瓦は嚴格なる用途に不適當なりとの聲を聽く、是れ此種矛盾の現れに外ならず、蠟石粘土が適當に焼成されたる場合に發揮する堅緻なる組織は他種粘土に其の比を見ざる特徴を有す

吾社今後の理想ミする處は蠟石煉瓦取引上の評價の基準が單に耐火度のみ存ずる現狀を打破し正當なる評價の基礎を確立することを目標ミして進むにあり

現在此の目的を以て各種材料を聚集し研究中なり

クローム煉瓦 (岡山第一工場)

製品品位の一端を記載すべし

Cr ₂ O ₃ の含有量	耐火度	眞比重	外觀比重	吸水率	氣孔率
第一種 三五—三八%	S.K. 三七番以上	三、八三五	二、八五五	八、九四	二五、五〇
第二種 三〇—三三%	三六一三七番以上	三、七八〇	二、七五五	八、五五	二三、五六

高礬土質煉瓦 (岡山第一工場)

長野縣、岡山縣、朝鮮産の diaspore 又は bauxite を主原料ミしたるものにして高火度焼成に依り種々の physical property を安定せしむるものを特徴とするものなり

斷熱煉瓦 (岡山第一工場、湯本工場)

所謂 heat insulating brick (こ)て年々需要を増加す

斷熱有効温度	耐火度	耐壓強度	眞比重	外觀比重	吸水率	氣孔率
第一種 1,000°C 以下	S.K. 27	28 kg/cm ²	0.99	0.443	125.2	55.4
第二種 1,300°C 以下	S.K. 30	100 kg/cm ² 以上	—	0.850	—	—

四、使用原料に就いて

本邦に於ける耐火煉瓦工業

原料名産地	耐火度 (S.K.)	年消費量 (千)
丹波産石 (赤白一等)	34+	12,500
" (赤白二等)	34	
山城産石	34	1,400
復州硬質粘土	36	300
青島粘土	34+	2,500
復州粘土	34-	

兵庫縣蠟石	34+	25,00
蠟石博山産	35	
磐城木節	30~33	30,000
尾張木節	34	750
伊賀木節	32	750
岡山縣産蠟石	28~34	10,800
朝鮮産蠟石	32~35	2,700
鳥取縣産クロム鐵礦	37以上	2,500
長野縣産 diaspore	37~40以上	
岡山縣産 "	38+	400
朝鮮産 "	36~38	
宮城縣産珪藻土		600

製鐵所

一、年産額 (昭和三年度實績)

以上

種類	數量(延)
硅石煉瓦	三四、三七七
シヤモット煉瓦	二八、七七九
蠟石煉瓦	四、〇一一
クロム煉瓦	二、四一六
マグネシヤ煉瓦	六九
輕量煉瓦	六九、六五二
計	二一、五〇三
外にモルタル類	

二、以上の製品は總て所内に於て消費さる

三、工場創設 (明治三十七年五月)

爾來所内の煉瓦類は總て自給自足の方針を以て進みたれば鐵鋼の増産に伴ひ、工場は擴張に擴張を重ねられ、時に例外(歐洲戰亂の影響)あれ共、年々其生産額は増大し、今日の大をなすに至れり。然れ共猶その全需要を滿すに足らず、年々一部を外部よりの購入に仰ぐを以て(昭和三年度約五千屯)下の生産額は略當時の全生産能力に庶幾し

生産額(吨)

年 度	煉瓦類	粉末類
明治三十八年度	五、六三二	二、〇一八
" 四十 年度	六、七二六	二、八五〇
" 四十二年度	一〇、九四四	三、五一一
" 四十四年度	一四、七二三	五、六〇三
大正 二年度	一七、三〇一	八、三五五
" 四年度	二九、六〇〇	九、七六五
" 六年度	三七、三四五	一三、六三〇
" 八年度	三八、六七六	一三、六五九
" 十年度	三七、〇〇五	一五、三六六
" 十二年度	三八、七〇六	一四、九五五
" 十四年度	五二、一二〇	一八、六六三
昭和 二年度	六〇、四一五	二一、二六九

製品の特 徴

※ ドロマイトを含まず

a 硅石煉瓦一級品

原料 丹波及び若狹産硅石中優良なるもの

用途 製鋼部の主要部

トリヂマイト最も多く發達す。熱膨脹少く規則的にして温度の變化に強く且高温度の下に於て特に抵抗性に富み熔融缺損し難し

b 硅石煉瓦二級品

原料 丹波及び若狹産硅石の二級品ニ旅順硅石

用途 主要部以外の製鋼爐、加熱爐等

諸性質前者に劣るも猶硅石煉瓦として相當の品位を有す

c 骸炭爐用硅石煉瓦

原料 丹波及び若狹産硅石の二級品ニ硅石煉瓦屑

耐火度及び機械的強度稍劣るも、殘存石英少く従つて永久膨脹殆ど無し。比較的氣孔に富み温度の變化に強し

d 熔鑛爐用シャモット煉瓦

原料 復州及び博山産粘土

堅硬にして機械的作用に強く鑛滓、熔鐵等の侵蝕に對し最も抵抗大なり

e 一般用シヤモット煉瓦

原料 復州粘土、匣鉢屑

用途 熱風爐其他の爐體及び造塊用

品質 前者に次ぐ

f 湯口、湯栓用煉瓦

原料 磐城粘土

焼き締り可良にして熔鋼の侵蝕によく堪ふ

g 蠟石煉瓦(普通品)

原料 三石産、蠟石質粘土、匣鉢屑、煉瓦屑、復州粘土等

用途 窯爐、煙突其他

諸性質シヤモット煉瓦に劣るも安價なり

h クロム煉瓦

酸化クロム含有量低き原料を多く使用すれ共、特別な處理により、その製品はクロム煉瓦特有の性質をよく保有す

i マグネシヤ煉瓦

原料 南滿洲産マグネサイト

用途 平爐の内張り

その原料は歐洲産のものに比し、煉瓦製造用としては遙かに困難なれ共適應せる製造方法により略適當なる製品を得られつつあり

以上各種煉瓦の成分一例

	灼熱減量	硅酸	礬土	酸化鐵	石灰	苦土	酸化クロム
a	〇、二〇	九五、四〇	〇、八五	一、〇〇	一、九八	〇、三六	
b	〇、一一	九四、六八	一、五八	一、五二	一、七三	〇、三〇	
c	〇、三五	九二、八〇	二、四五	一、三八	二、六一	〇、三六	
d	〇、〇〇	五二、四八	四三、八九	二、五九	〇、一八	〇、二七	
e	〇、一四	六二、〇〇	三五、五八	一、七八	微量	〇、五一	
f	〇、〇〇	五九、一四	三七、六五	二、五五	〇、二四	〇、五一	
g	〇、〇〇	六四、〇六	三三、八五	二、二九	〇、二六	〇、二四	二四、一三三
h	〇、〇四	一一、七〇	二二、五〇	一五、二七	微量	二六、四三	

同上物理的性質

品名	產地	耐火度	數量(越)
a		四一八	二、七
b		三二〇	二、〇
c		二六七	二、四
d		三二〇	一、一
e		一八〇	二、九
f		二三四	二、五
g		一一二	二、八
h		四六七	二、七〇
i		五九五	二、三

四、使用原料(昭和三年度)

品名	產地	耐火度	數量(越)
赤白硅石	兵庫縣、福井縣、大分縣	三〇一三四	二九、二三〇
旅順硅石	關東州旅順	三三一三四	六、七八〇

i 〇、二八 五、九〇 一、七七 六、三五 八五、三四

耐火度(SK) 耐壓強度(室溫) 見掛比重 眞比重 氣孔度

製鐵所	品名	耐火度	數量(越)	見掛比重	眞比重	氣孔度
三池製煉所	高懸土質煉瓦	2,598.	4,000	一、八四	二、三四	二、七
	其他煉瓦	679.	50.	一、八六	二、三五	二、〇
	珪石煉瓦	2,500.	2,000.	一、七二	二、三四	二、四
	珪石煉瓦	850.	650.	二、三二	二、七六	一、一
	其他煉瓦	650.	1,800	二、一六	二、七六	二、一、九
	珪石煉瓦	4,000.	1,800	二、九四	二、五〇	二、三、五
	珪石煉瓦	18,000.	4,000	二、八六	二、五九	二、八、三
	珪石煉瓦	5,000.	600	二、八〇	三、八二	二、七〇
	珪石煉瓦	200.	600	二、七五	三、五七	二、三三
	美濃窯業株式會社	珪石煉瓦	13,700.	12,330	二、八〇	二、七六
品川白煉瓦株式會社	珪石煉瓦	28,200.	7,050	二、八〇	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	13,400.	4,895	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	2,450.	1,375	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	380.	—	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	600.	—	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	34,380.	26,600	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	28,800.	25,500	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	4,000.	3,960	二、七二	二、七六	二、一、三
	珪石煉瓦	2,400.	2,400	二、七二	二、七六	二、一、三
	八幡製鐵所(昭和三年度實績)	珪石煉瓦	282,099.8	162,450	二、七二	二、七六



赤白珪石 兵庫縣 福井縣 大分縣
 旅順珪石 關東州旅順
 三〇一三四 二九、二三〇
 三三三三四 六、七八〇

主要工場種類別生産高使用原料產地別等一覽表

製造所名 (イロハ順)	種類	年産額 (平均)	内製鋼用 (平均)	使用原料產地
日本耐火煉瓦戸畑工場	シヤモット煉瓦	27.5 3,550.	90 550	復州粘土 三石礫石 尾張木節 朝鮮産粘土及礫石
日本製鋼所室蘭工場	シヤモット煉瓦	7,800.	7,800	自製骨煉瓦 尾張木節
本溪湖煤鐵有限公司	シヤモット煉瓦	610.	610	丹波
戸畑耐火煉瓦製造所	シヤモット煉瓦	2,333. 67.	1,503 67	復州粘土 磐城 尾張木節 博山礫石 自製煉瓦屑 北海道
東洋耐火煉瓦	シヤモット煉瓦	100.	100	南丹波山附近
釜石鑛業商店 (日本シヤモット會社)	シヤモット煉瓦	770. 5,200. 2,650. 87.	475 1,250 225 85	本溪湖 (硬質) 粘土 礫合粘土 旅順 白柁 丹波 三石 大石橋
宇野耐火煉瓦	シヤモット煉瓦	400. 8,500. 200.	100 200 —	三重縣志摩産 美濃産 愛知縣(復投)粘土 博山礫石 三石ギツ石 名古屋瀬戸 多治見産 匣鉢屑
大阪耐火煉瓦製造所	シヤモット煉瓦	5,000. 120. 700.	5,000 120 400	久慈 磐城 蒲洲 愛知縣木節 復州 三石礫石 山梨礫石
黒崎窯業株式會社	シヤモット煉瓦	5,000. 3,000. 1,200. 3,600. 50.	4,000 2,500 — 1,800 —	鳥取縣産 丹波 尾張 三石
兼二浦製鐵所	シヤモット煉瓦	900. 6,000. 2,700. 1,400.	600 4,800 1,900 1,400	丹波 復州 朝鮮 (木浦附近) 粘土 尾張木節 伊賀蛙目 朝鮮竹林産礫石 三石礫石
神戸製鋼所	シヤモット煉瓦	12,817. 1,239.	10,397 321	丹波 豊後 旅順 豊前 (軟珪石) 復州粘土 博山礫石
H.S.耐火煉瓦製造所	シヤモット煉瓦	150. 296.	150 296	復州粘土 朝鮮 岐陽産礫石
帝國窯業株式會社	シヤモット煉瓦	2,000. 2,000. 9,500.	2,000 2,000 4,050	自製煉瓦屑 伊賀木節 丸山粘土 (蒲州坂越産) 朝鮮陶土 三石粘土 復州粘土
鞍山製鐵所	シヤモット煉瓦	215. 2,675. 4,750. 110. 1,750.	700 3,500	丹波 山城 島ヶ原 瀬戸 美濃 復州 硬質及軟質 粘土 三石及其附近 山口縣 德佐 山梨 礫石 山陰
三保會	シヤモット煉瓦	1,200. 6,800.	1,200 6,800	西鞍山産 礫合産 (硬質及軟質)
九州耐火煉瓦株式會社	シヤモット煉瓦	61.5 514.3	— —	朝鮮 岡山縣
三池製煉所	シヤモット煉瓦	101. 6,582. 2,598. 679. 50.	471	復州軟質及硬質 木節粘土 圓五郎 其他粘土 三石礫石 朝鮮産礫石及粘土 復州硬質
美濃窯業株式會社	シヤモット煉瓦	2,500. 2,000. 850. 650.	2,500	丹波 若狭 白柁 熊本縣有佐 同佐敷 三重 蒲洲 高藏寺 三池倉 永砂岩 朝鮮 巡威島 珪石 博山礫石 山口縣 岡山縣 長崎縣 尾張 多治見 大村等の粘土 天草陶土 復州 博山 生氣嶺 尾張 鹿兒島 神川にて製造のカーボラソダム 長崎縣ズイナスボア カラソダム等
品川白煉瓦株式會社	シヤモット煉瓦	4,000. 18,000.	1,800 4,000	復州粘土 三重縣阿山郡木節粘土 三石礫石
	シヤモット煉瓦	5,000. 200.	600	岐阜縣土岐津町 同鶴岡町 愛知縣瀬戸町 粘土 岐阜縣土岐郡及惠那郡地方日本陶器會社及自製シヤモット 三石礫石 復州粘土
	シヤモット煉瓦	13,700. 28,200. 13,400. 2,450.	12,330 7,050 4,895 1,375	丹波 山城 復州 硬質及軟質 博山礫石及粘土 兵庫縣礫石 磐城 尾張 伊賀木 岡山縣産礫石 朝鮮産礫石 豊後縣

本溪湖煤鐵有限公司	珪石煉瓦	2,333.	1,503	復州粘土 磐城 尾張木節 博山燧石 自製煉瓦屑 北海道
戸畑耐火煉瓦製造所	珪石煉瓦	67.	67	北海道
	珪石煉瓦	100.	100	南坂鐵山附近
	珪石煉瓦	2,200.	1,980	本溪湖 (硬質) 粘土 燻合粘土
	珪石煉瓦	770.	475	旅順 白杵 丹波
	珪石煉瓦	5,200.	1,250	三石
	珪石煉瓦	2,650.	225	大石橋
	珪石煉瓦	87.	85	三重縣志摩產 美濃產 三重縣後援村粘土 博山燧石 三石ギン石 名古屋瀬戸 多治見產 匣鉢屑
東洋耐火煉瓦	珪石煉瓦	400.	100	久慈 磐城 滿洲
	珪石煉瓦	8,500.	200	
	珪石煉瓦	200.	—	
釜石鑛業商店 (日本コロム會社)	珪石煉瓦	5,000.	5,000	
	珪石煉瓦	120.	120	愛知縣木節 復州
	珪石煉瓦	700.	400	三石燧石 山東燧石
	珪石煉瓦	5,000.	4,000	鳥取縣產
宇野耐火煉瓦	珪石煉瓦	3,000.	2,500	丹波
	珪石煉瓦	1,200.	—	尾張
	珪石煉瓦	3,600.	1,800	三石
	珪石煉瓦	50.	—	—
大阪耐火煉瓦製造所	珪石煉瓦	900.	600	丹波
	珪石煉瓦	6,000.	4,800	復州 朝鮮 (木浦附近) 粘土 尾張木節 伊賀蛙目 朝鮮竹林燧石 三石燧石
	珪石煉瓦	2,700.	1,900	鳥取縣
	珪石煉瓦	1,400.	1,400	
黑崎鑛業株式會社	珪石煉瓦	12,817.	10,397	丹波 豐後 旅順 豊前 (軟珪石)
	珪石煉瓦	1,229.	321	復州粘土 博山燧石
兼二浦製鐵所	珪石煉瓦	150.	150	復州粘土 朝鮮岐陽燧石
	珪石煉瓦	296.	296	
神戸製鋼所	珪石煉瓦	2,000.	2,000	自製煉瓦屑 伊賀木節 丸山粘土 (播州坂越產) 朝鮮陶土 三石粘土 復州粘土
HS耐火煉瓦製造所	珪石煉瓦	9,500.	4,050	三石燧石及粘土 伊賀產木節
帝國鑛業株式會社	珪石煉瓦	215.	700	丹波 山崎
	珪石煉瓦	2,675.	3,500	鳥ヶ原 瀬戸 美濃 復州 硬質及軟質 粘土 三石及其附近 山口縣德佐 山東 朝鮮 燧石 山陰
	珪石煉瓦	4,750.		
	珪石煉瓦	110.		
	珪石煉瓦	1,750.		
鞍山製鐵所	珪石煉瓦	1,200.	1,200	西鞍山產
	珪石煉瓦	6,800.	6,800	燻合產 (硬質及軟質)
三保舍	珪石煉瓦	61.5		朝鮮 岡山縣
	珪石煉瓦	514.3		—
九州耐火煉瓦株式會社	珪石煉瓦	101.		—
	珪石煉瓦	6,582.		復州軟質及硬質 木節粘土 圓五郎 其他粘土 三石燧石 朝鮮燧石及粘土
	珪石煉瓦	2,598.	471	復州硬質
	珪石煉瓦	679.		
	珪石煉瓦	50.		
三池製煉所	珪石煉瓦	2,500.		{ 丹波 若狹 白杵 熊本縣有佐 同佐敷 三重 滿洲 高藏寺 三池倉 永砂岩 朝鮮 巡威島 珪石 山口縣 岡山縣 長崎縣 博山燧石 復州 博山 生氣嶺 尾張 多治見 大村等の粘土 天草陶土 長崎縣 々々 イヤスホーア 鹿兒島 神川にて製造のカーボラソダム カラソダム等
	珪石煉瓦	850.	2,500	
	珪石煉瓦	650.		
三石耐火煉瓦株式會社	珪石煉瓦	4,000.	1,800	復州粘土 三重縣河山郡木節粘土
	珪石煉瓦	18,000.	4,000	三石燧石
美濃鑛業株式會社	珪石煉瓦	5,000.	600	岐阜縣土岐津町 同鶴岡町 愛知縣瀬戸町 粘土 岐阜縣土岐郡及惠 那郡地方日本陶器會社及自製珪石
	珪石煉瓦	200.		三石燧石 復州粘土
品川白煉瓦株式會社	珪石煉瓦	13,700.	12,330	丹波 山崎
	珪石煉瓦	28,200.	7,050	復州 硬質及軟質 博山燧石及粘土 兵庫縣燧石 磐城 尾張 伊賀木 節 岡山縣燧石 朝鮮燧石
	珪石煉瓦	13,400.	4,895	鳥取縣
	珪石煉瓦	2,450.	1,375	長野縣 岡山縣 朝鮮
	珪石煉瓦	380.	—	宮城縣 產珪石
	珪石煉瓦	600.	—	
	珪石煉瓦	34,380.	26,600	丹波 若狹 豊後 旅順
	珪石煉瓦	28,800.	25,500	復州粘土 磐城木節 佐賀蛙目 三石粘土 博山燧石 名古屋及瀬戸匣屑 自製煉瓦屑
	珪石煉瓦	4,000.	3,960	伯耆
	珪石煉瓦	2,400.	2,400	滿洲
八幡製鐵所 (昭和三年度實績)	珪石煉瓦	282,099.8	162,450	



大孤山	大孤山	三五	五一五
軟質白硅石	福岡縣企救郡及び田川郡	三〇一三三	八、六五四
白硅石	全 田川郡及び糸島郡	三五	七九七
生石灰	所 内	1	八〇八
須佐蠟石	山口縣須佐	三〇一三一	八七六
三石蠟石	岡山縣三石	三五以上	四
三石粘土	全 上	二九一三〇	四、七六七
復州粘土	南滿洲復州	三四	一三、五五〇
博山粘土	山東省博山	三五	六一四
尾張粘土	愛知縣猿投村	三三三三五	二、八一七
伊賀粘土	三重縣	三〇一三三	二一八
匣瓦	名古屋、瀬戸	二九一三二	七、一四七
煉瓦	所 内	二八一三三	七、七三八
鋸屑	所 内	1	八
クロム鐵鑛	鳥取縣	三三以上	四、四〇二
マグネサイト	南滿洲大石橋附近	三七以上	八、二三六

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely bleed-through from the reverse side of the page.

焙燒黃鐵礦

所 內

五、其他(參考なるべき事)

製鐵所所有耐火煉瓦原料山次の如し

所 内 地

丹波珪石山

兵庫縣多紀郡畑村

格魯謨鐵鑛山

鳥取縣日野郡日野上村河上

伊豫珪石採取地(未採取)

愛媛縣東宇和郡横取村外四ヶ村

松ヶ江軟珪石採取地(採取休止)

福岡縣企救郡松ヶ江村恒見

世界の鐵鋼業概観

—(英國を除いては各國共進展)—

英國鐵鋼業者組合會長 ウイルアム ラーク氏述

アイアン、エンド、コイル、トレード、レビュー一九三〇年一月廿四日

鐵鋼は近代進歩の基本材料たるを以て鐵鋼業の繁榮は其の國の一般繁榮を正當に測定する計器を見る

ここが出来る。エツケル氏は其の著「石炭と鐵鋼の戦争」の中に一八一〇年より一九一〇年に至る一世紀間の鐵鋼の生産増加率即ち吸收増加率は十年毎に平均六〇パーセントに計上して居るが其の後の年に於ては精確に比較し得られざるも鐵鋼よりも寧ろ鋼の生産増加率を同一進歩を見るここが出来やう

製鋼に屑の使用

一九一〇年迄は鉄鋼は世界鐵鋼使用の精確なる計量器であつた、何となれば鋼が諸種の目的に對し漸次鐵の代りに使用せらるゝに連れ鉄鋼は鋼生産の主成分であつたからである。然し大戦中に於ける經驗の結果として、製鋼用に屑の使用増大せる爲め鋼の生産増加し鐵の生産の釣合を失ふに至つた。近代的發明の結果及工業能率の増大せる結果機械、形物、乗物等は早く屑に破壊せられ或又屑の蒐集迅速になりたる爲め以前より大量の屑が速に手に入るやうになつた。前者に關しては、鋼は吾人の日常生活及活動の基礎を作る建築用材、機械、乗物等に轉化せられ而して發明進歩の結果として是等の品物は、摩損云ふよりも寧ろ退化品として熔爐を経て新形に再轉化せらるゝのである

屑を製鋼に用ゆることは戦時中に刺戟せられたるものであつて當時各種の軍需品製造中に生じたる屑は技術の進歩に依り以前よりも多量に利用せらるるに至り之が爲め戦前に於ては約三〇パーセントに止まれる屑の挿入割合は一躍五〇パーセントに昇騰するに至つた。此の割合は軍需品のストックが平和目的物に轉換せらるゝに至つた爲め戦争直後に於ても維持せられたのである。屑の供給が保持せらるゝや否やは殆んど全く

機械の轉換率に頼るものである。故に近年に於ては鋼の生産を考察して以て經濟的進歩の如何を測定するの
が良策である

世界の生産能力

戦時の鐵鋼生産設備の擴大は世界の需要高よりも大であつた。云ふことは屢々聞く所であるが戦時年間中
減殺されたる需要を世界が直に回復し得たる高より大であつた。云ふことも明かである。然し現在の世界可能
需要高より大でないことは確である。若し戦前に見たるが如き同じ生産年増加率が一九二九年迄持續した
すれば一九二九年の世界鉄産額は九千七百万屯の代りに約一億六千万屯に達したであらう、然るに世界の
生産見積能力は僅に一億千五百万屯であつた、されば製鋼に屑の使用増加を斟酌しても世界の鉄産可能需要
高は世界の見積生産能力よりも大である

翻つて鋼の生産に依つて進歩を測定すれば、一九二九年の鋼生産高は世界の製鋼能力見積一億三千万屯に
對し一億九百万屯に達して居る、然し若し其の生産が一九一〇年以來十ヶ年毎に六〇パーセントの率を以て
増加したとすれば一億四千万屯以上に達したであらう。されば世界鐵鋼業將來の繁榮は極めて好望なるもの
やうである

各國生産狀態の進歩

附表第一表に依つて見るに一九一三年以來最も著しき進歩を示せるは合衆國であつて一九二九年に於ては
鉄鐵の實産額に於て四一パーセント、鋼の産額に於て八七パーセントを増加して居る。一方歐洲諸國に就て
見るに獨逸の増進最も著しきものがある。其の生産高はヴェルサイユ條約に依りて蒙れる喪失を十分相殺する
程度に増加せざるも一九二九年に於ける現在領域内の鉄産額は一九一三年に於ける同一領域内の産額に比
し二二パーセントを、同じく鋼は三五パーセントを増加して居る。佛國はヴェルサイユ條約に依つてアルサ
スローレヌを獲得し、同地を加へたる領域内に於て鉄鐵に於て一五パーセント、鋼に於て三八パーセントの
増加を示して居る、然し英國は鉄鐵に於て二七パーセントの減少を、鋼に於ては二六パーセントの増加を示
したのである

第二表は主要生産諸國の鐵鋼輸入を示すものであつて自由市場の英國は、次位者たる獨逸に約二倍する輸
入高を示して居る、一九二九年に於て英國は約二百七十六萬屯獨逸は僅に百四十七萬屯を輸入せるが後者
の大部分は、國際鋼カルテル協定の附帶協約の下に在る獨、佛、ルクセンブルク間に現存する國際協定に依
つて輸入されたものであるが該協定に依つて獨逸は前記の諸國より、内國年消費高の六パーセント二分の
一に相當する高を輸入するこゝになつて居る

第三表は主要生産國の輸出高であるが獨逸が首位を占めて居る。以前英國は世界に於ける首たる鐵鋼輸出
國であつた然るに一九二九年に於て獨逸の輸出高は英國のそれを超ゆるこゝ約一百万屯に達した。佛國は一

九一三年以來其の輸出高を七倍増加し今や英國に比肩するに至つた。白耳義及ルクセンブルクに就ては、ルクセンブルクが戦前に於ては獨逸關稅同盟に含まれ現在に於ては白耳義に含まるゝを以て精確なる比較を試みるこゝが出来ない、一方合衆國は、其の生産能力に驚くべき増進を示したるに拘らず一九二九年の輸出高は一九一三年より減少を示して居る

一般結論

今迄述べ來つた所を摘記すれば

- 一、世界の鉄鋼生産高は假令戦前の増加率にして大戰の爲に阻止せられなかつたとしても目下存在するであらう可能需要高と一様ではない。然し世界の經濟状態が恢復せられつゝあるこゝは、最近數年間に於ける生産高の増加率が戦争直前の増加率を相々超過して居る事實に依りて立證せらるゝこゝが出来る
- 二、英國を除いては各國共鐵鋼の生産高に長足の進歩を示すこゝ同時に其の輸出貿易の發達に於ても（合衆國を除く）又其の内國市場に於ける吸收力の増加に於ても一大進展を示して居る。是等の數字は重要視すべきものであつて英國に比して經濟的恢復の大を物語るものである
- 三、英國の相對的地位は其他の世界鐵鋼生産諸國の地位に比し劣つて居る

英國の工業政策

英國の保有する天然の利は尙之を利用するこゝが出来、若し爲政者が斯業の繁榮招致に力を集中し以て國富を増進するに努むるならば何にも悲觀するの要はない。工業家は宜しく工業的政策を要求すべきである而して我が工業的缺陷の何たるかを考察し以てあらゆる憲政的手段に依り一意協力斯の如き工業政策の採用の實現に勢力を倒盡するこゝが緊要である

戦後、工業の缺陷に就いては國家的政策の下に未だ十分考究せられてゐない只最近地方自治條例の條規を見たるのみであつてこゝは戦後考へも無く斯業の上に置かれたる重荷を救濟する手ぬるい最初の方法であつたのであるが重荷は即ち工業問題に關係なき人々にさへ明かなるものであつて絶へず増加しつゝある失業問題の指示する通り工業の到底堪へ得らるゝものではない

第一表 世界の鐵鋼産額（百萬屯單位）

鐵鋼別	一九二九年		一九二八年に於ける増減百分比	
	一九一三年	一九二八年	一九一三年に對するもの	一九二八年に對するもの
英國	一〇・二六	六・六一	七・五七	一二七
獨逸	一〇・七三	一一・六二	一三・一〇	一五
佛國	八・九三	九・八二	一〇・三〇	
白耳義	二・四五	三・八四	四・〇〇	十二五

ルクセンブルク	二・五一	二・七三	二・八三			
ザール	一・三五	一・九一	二・一〇			
西歐合計	三六・二三	三六・五三	三九・九〇	十一〇		
合衆國	三〇・九七	三八・一六	四三・五二	十四一		
其他の國	一〇・七〇	一二・二五	一四・一〇	十二七		
世界總計	七七・九〇	八六・九四	九七・〇〇	十二五		
鋼塊及鑄物						
英國	七・六六	八・五二	九・六五	十二六		
獨逸	一一・九九	一四・二九	一六・二五			
佛國	六・八六	九・三五	九・五〇			
白耳義	二・四三	三・八七	四・〇五	十四〇		
ルクセンブルク	一・三一	二・五三	二・六五			
ザール	二・〇五	二・〇四	二・一五			
西歐合計	三三・三〇	四〇・六〇	四四・二五	十三七		
合衆國	三一・三〇	五一・五四	五七・〇〇	十八七		
其他の國	一一・五五	一五・八四	一七・七五	十五一		
英國						
獨逸						
佛國						
白耳義						
ルクセンブルク						
ザール						
西歐合計						
合衆國						
其他の國						
世界總計						

第二表 主要生産諸國の鐵鋼輸入高(千噸單位)

英國	一九二三年	一九二七年	一九二八年	一九二九年(概算)
獨逸	二、二三一	四、四〇六	二、八九六	二、七六〇
佛國	三〇〇	二、一三三	二、〇二〇	一、四七〇
白耳義及ルクセンブルク	一六九	一一六	一三八	一三〇
合衆國	八七五	六四〇	八七四	一、〇〇〇
世界總計	二五三	六九〇	六八九	六八〇

第三表 主要生産諸國の鐵鋼輸出高(千噸單位)

英國	一九二三年	一九二七年	一九二八年	一九二九年(概算)
獨逸	四、九六九	四、二〇〇	四、二六一	四、四〇〇
佛國	六、二〇八	四、二三〇	四、六四六	五、四〇〇
白耳義及ルクセンブルク	六一九	五、六〇三	四、九六八	四、二五〇
合衆國	一、五五〇	四、六〇七	四、四六三	四、四〇〇

備考 △印一九二三年に於けるルクセンブルクは獨逸に包含せらる

合衆國

二、九〇八

一、九四二

二、三四八

二、五〇〇

備考 △印一九二三年に於けるルクセンブルクは獨逸に包含せらる

昭和四年中世界の石炭貿易

モンマウスシヤール及サウス・ウエールス炭鑛主組合會長エフ・エ・ギブソン氏述

アイアン・エンド・コールドレイド・レビウ 一九三〇年一月廿四日所載

一九二九年の世界石炭貿易状態を一般的に言へば大戰以來の何づれの年よりも先づ好況であつたこと云へやう。第一に、斯業の状態は平穩であつた、大陸に於ける大低の炭坑地では賃銀値上の要求があつたが結局殆んど各場合も協定成立し作業の不安を防止するこゝが出来たのである。第二には製造諸工業に一般的活況を呈し就中鐵鋼業最も著しく其の世界の産額は有史以來の最大記録を作つた。第三には國際通商に稍々景氣を呈し従つて石炭の輸出貿易高にも同様の景氣を見せた

年初二三ヶ月間は北歐の輸送力は嚴寒の爲め頗る減退し波蘭及獨逸の輸出貿易は一時難澁に陥つた然し暖氣の加はるに連れ國境並海外貿易好轉し十二ヶ月間に於ける主要輸出國の石炭輸出高は前年の高を凌駕するに至つた。尙價格の堅實に加へ其の平均レベルは前年より高處に上つた。波蘭の石炭市場に於ては、一九二

八年中歐洲の石炭貿易界に價格の大引下を招來せしめたる政策を全然逆用せるか爲め年末に於ける Danzig 及 Gdynia 渡の相場は前年末より相當り約五志の増進を示すに至つた。英及獨逸炭 F、O、B 價格の増進はさまで著しくなかつたが相應の値上りを見せ右二國斯業の財政上に好影響を與へたのである

世界の燃料産額

一九二九年に於ける世界燃料産額の實數を求むることは茲暫らくは不可能であつて或る數ヶ國の數字は向ふ數ヶ月入手難事であるが、國際聯盟其他の權威より發行せる報告に基けば、昨年の世界燃料産額は一九二八年より約五千万屯を増加せるものと見て誤りなく恐らく新記録を作るであらう一九二八年の世界石炭産額は合計十二億二千二百万屯、一九二七年は十二億七千万屯、一九一三年は十一億八千九百七十万屯であつて之に褐炭を合算すれば一九二八年は十四億一千四百八十万屯一九二七年は十四億四千六百三十万屯一九一三年は十三億一千三百万屯を算す、右の數字に依つて見るに一九二七年の世界石炭産額は一九一三年より八千万屯を、一九二八年の産額は三千二百万屯を増加して居る褐炭を合算せる（一屯對四屯の割合で石炭に換算）一九二七年の産額は一九一三年の産額を越ゆること約九千三百万屯、一九二八年は四千万九百万屯を増加して居る。褐炭産額の増加の殆んど全部は獨逸の生産に係はるものであることは言ふまでもない

大陸別及主要國別石炭産額

第一表は一九一三年及一九二八年に於ける大陸別の石炭のみの産額を示し第二表は同しく歐洲主要産炭國

の産額を示す

第一表 世界石炭産額（一九二八年と一九一三年との比較）

資源別	一九一三年		一九二八年	
	噸	百分比	噸	百分比
歐洲	五八九、五六六、〇〇〇	四九	五九八、六三八、五四九	四九
亞細亞	五三、八二四、〇〇〇	五	七七、一六九、八六四	六
亞弗利加	八、五六一、〇〇〇	一	一三、九三三、二五七	一
亞米利加	五二三、四八八、〇〇〇	四四	五一四、八三四、五三〇	四二
オセアニア	一四、二六八、〇〇〇	一	一七、三四二、八〇〇	二

右表に就て見るに兩年間の主なる變化は亞米利加産額の減少である、歐洲の産額百分比は兩年共四九パーセントで變化を見ざるも亞米利加は、合衆國に於ける約九百万噸の減産に因つて四四パーセントより四二パーセントに低下してゐる。歐洲に於ては第二表に示す通り英國のみが一九二八年の産額に約五百万噸の減産即ち二四パーセントより一九パーセントに落下を示して居る

然れども昨年の貿易状態は比較的英國に好況を齎らし全年の数字は恐らく其の産額に大増進を示すべく一九二八年に比較して其の輸出額は其他の歐洲諸國を凌駕する数字を見るであらう

第三表は一九二九年最初十ヶ月間の歐洲主要産炭國の産額と最初八ヶ月間の亞米利加の産額を一九二八年

同期間の数字に比較せる統計である

第二表 歐洲主要産炭國石炭産額（一九二八年と一九一三年）

國別	一九一三年		一九二八年	
	噸	世界總計ニ對スル百分比	噸	世界總計ニ對スル百分比
英國	二八七、四一一、八六九	二四	二三七、四五〇、八七八	一九
△獨逸	一三八、五〇一、一〇七	一一	一四八、四六一、八〇一	一一
佛國	四〇、二二九、四一〇	二	五〇、五四八、〇八〇	四
白蘭	二二、八四一、五九〇	二	二七、一〇二、〇九五	二
波蘭	四〇、〇七五、八三四	二	三九、九四九、四一六	三

備考 △印はザールを除く

第三表 一九二九年最初十ヶ月間に於ける主要産炭國の石炭産額

國別	石炭産額		増加
	一九二八年 十ヶ月	一九二九年 十ヶ月	
英國	二〇〇、九六三、七九九	二二六、九五二、六五一	一五、九八七、八五二
佛國	四二、二〇三、八二九	四四、〇五二、六一一	一、八四八、七八二
獨逸	一二七、八八五、三三二	一三三、四五七、九五六	五、五七二、六二四

波蘭	三三、八四五、四八七	三七、四八四、七一七	四、六三九、二三〇
△合衆國	三二一、二二八、八五六	三四三、九四一、六六九	二二、七二二、八一三

△印は自一月至八月

一九二九年に於ける石炭産額の配分

一九二八年に比して波蘭の産額は約一四パーセント、英國は約八パーセント、佛國は約四・四パーセント、獨逸は約四・三パーセント、合衆國は約七パーセントの増加となつて居る。昨年中一九二八年よりも生産高の減少を示せりと思はるゝは世界中只濠洲あるのみにして其の産額は同地炭坑に於ける長期の争闘に依りて激減したのである。其の減産高は恐らく七八百万屯に上るものと思はる。然れども昨年に於ける石炭消費高が世界的に増加して居るこゝに前述の通り世界合計産炭高が動力發生用油及水力資源利用の増大せるにも拘らず石炭の需要引續いて増進しつゝある事情に依りて新記録を作るべきこゝは事實である。

戦前に於ける世界石炭消費高の増進率は毎年四パーセント強であつた、然し一九二九年に於ける石炭及褐炭の生産高は一九一三年の一、二五五百万屯に對し大約一、三六五百万屯を算し約八パーセントの増進を示して居る。

石炭輸出貿易上の進展

一九二九年中國家的産業利益防護の爲めに採用された手段は前年に於けるよりも廣範圍に亘つた、或は輸

入制限の形を取り（獨逸及西班牙の場合の如く）或は競争市場に對する石炭の輸送に對しては差別的鐵道運賃率を設け或は又直接間接の獎勵金の形式を取つた、然し國際貿易の流れに是等の障礙あるにも拘らず主要國の輸出貿易高は著しき増進を示して居る第四表は一九二九年最初十ヶ月（合衆國は八ヶ月間）の主要國の石炭輸出高を一九二八年の同期と比較せるものである。

第四表 主要國の石炭輸出高（一九二八年及一九二九年）

國別	一九二八年十ヶ月	一九二九年十ヶ月	増	加
英國	四一、六三九、五五七屯	四九、八八四、九六五屯	八、二四五、四〇八屯	
佛國	三、八二三、九七五	四、二一九、六七六	三九五、七〇一	
波蘭	一〇、四八八、四五六	一一、七七八、四八〇	一、二九〇、〇二四	
獨逸	一九、一八四、三四二	二二、七三四、二六九	二、五四九、九二七	
△合衆國	七、九四四、二五七	九、九四三、四五一	一、九九九、一九四	

△印 瀝青炭一八ヶ月間。

英國の地位

本記事中特筆すべきは英國貿易の増進である、英國程取引の回復に犠牲を拂つて努力せる國は外に見當らない昨年十月迄の英國石炭の輸出高は一九二八年の同期に比し約八百二十五万屯を増加し尙全年の數字は屯

數にして一千二十万噸價格にして九百六十万磅の増加を示し一層の好況を招いた
 一九二九年に於ける英國輸出貿易の増加は石炭實産額の増加よりも比較的大である、一九二九年全年の輸出高は一九二八年の五千万噸に對し六千二十万噸に達し二割以上の増進を示して居るが然し戰前即ち一九一三年の輸出高は一九二九年の六千二十万噸に對し七千三百四十万噸を算して居る。一方獨逸及波蘭の輸出高は一九一三年の三千四百万噸に對し一九二九年は四千一百万噸を超へ合衆國の分は兩年共殆んど一様である
 一九二九年に於ける英國輸出貿易の進展は主として大陸に於ける英國炭の消費増加に因るものであつて特に西歐に於て多く消費されて居る

一九二九年全年の獨逸の輸出高は一九二八年の二千四百万佛屯に比し二千六百万佛屯、波蘭の輸出高は前年の一千二百八十万噸に對し千五百万噸、又合衆國の輸出高は前年の千七百七十万噸に對し千八百万噸強に達する見込みである、一九二九年に於ける獨逸及波蘭の輸出高並に主要仕向地は第五表に示す通りである

第五表 一九二九年獨逸及波蘭の石炭輸出（佛噸）

仕向地	獨逸より（九ヶ月）	波蘭より（十ヶ月）
和 蘭	五、二二四、四四五	七六、七五二
佛 國	三、八九九、二三六	五九七、二八八
白耳義	三、四九五、三七三	八、八五六

伊太利	三、六〇四、六七三	四五七、五六〇
丁 抹	一一八、七七六	一、四〇九、〇八八
諸 威	二六、一五七	五三六、二八〇
瑞 典	二〇二、五一九	二、一四七、〇八八
瑞 西	三五二、七五三	一一二、〇一六

合衆國の輸出先は殆んど全部加奈陀に限られたるものであつて昨年は其の前年より大であつた、然し歐洲に對する亞米利加瀝青炭の輸出は合計僅に三一、八八八噸、南米に對しては約一五七、〇〇〇噸に過ぎない（双方共八月迄の計算）然し英國が或る例外の期間に於て歐洲及南米に對する供給を缺く場合に限り此等市場に對する合衆國の輸出が激増せることは事實である従つて亞米利加の石炭か如何に完全に是等の市場より驅逐せられ居ることは次の事實に依りて窺知することが出來やう、即ち罷業年たる一九二六年に於ける歐洲に對する亞米利加の輸出額は千四百三十万噸、又南米に對する分は二百三十万噸に上つて居る
 過去三ヶ年間に於ける英國炭輸出價格次表の如し

第六表 一九二七、一九二八、一九二九年に於ける英國輸出炭月平均價格（F、O、B）

月 別	一九二七年	一九二八年	一九二九年
一 月	二二志 一片	一五志 九片	一五志 七片

伊太利	六、七九二、二四四	六、六二二、三三一	七、〇九四、八〇八
獨逸	四、二四一、〇三二	五、三六七、九〇三	五、五二〇、九四四
丁抹	二、一五〇、一一一	一、七三一、一二三	二、一九四、三八五
瑞典	二、一八二、一九二	一、五三九、七五三	二、三三五、八五五
白耳義	二、二三二、七七二	二、二五九、五八一	四、二三九、六三四
愛蘭自由國	二、四〇七、九〇四	二、四二三、一三四	二、四五六、一二二
西班牙	二、三六一、〇二二	一、八六七、三二〇	一、七八二、六四九
諾威	一、五七四、一〇七	一、一一七、一〇一	一、四四四、四六七
和蘭	二、三二四、四五二	二、四三四、四三八	三、一二三、三六八
葡萄牙	八五〇、三九五	九六一、五三八	一、〇五〇、四六九
希臘	六七八、九五五	六二六、七四六	五八九、二八一
希臘	六七八、九五五	三六九、六〇七	四六二、二六六
芬蘭	五四二、二七五	三七二、六〇一	三四七、八九六
ジブラルタル	三五四、四〇八	三七二、六〇一	三四七、八九六
アイルランド	二二五、〇二四	一九一、九三三	二〇八、六九〇
露西亞	一九、三六二	二四、四五二	三三三、七八七
歐洲合計	三八、一七九、二六五	三六、九八四、七八六	四五、八二九、六五四

尙英國炭の輸出仕向地別及屯數次表の如し

第七表

佛國	一九二七年	一九二八年	一九二九年
平均	一九〇	一九九	一五八
二月	一八五	一八九	一六一
三月	一八六	一九九	一六三
四月	一八四	一九七	一六一
五月	一七三	一九五	一六一
六月	一七〇	一九五	一六一
七月	一六七	一九六	一六一
八月	一六九	一九七	一六一
九月	一六〇	一九四	一六一
十月	一六六	一九七	一六一
十一月	一六一	一九六	一六一
十二月	一六一	一九三	一六一
佛國	九、二六二、〇三二	九、〇六五、二三五	一三、〇四五、〇三三

南米	四、八〇一、七九九	四、七七六、二九九	五、〇四二、七七七
其他の國	八、一六九、一四九	八、二九四、〇三三	九、三九四、一八七
輸出總計	五二、一四九、一九三	五〇、〇五五、一一八	六〇、二六六、六一八

西班牙の鐵鋼業

ビルバオ、モロ探掘會社總支配人 ルイス、パレーロー

アイアン、エント、コール、トレード レビウ一九三〇年一月二十四日所載

西班牙の鐵鋼業は戦後の難局に依る影響を受けつゝ、過去數年間危機に瀕し來れり。若し西班牙製鐵業者に斯業不振の原因を問ふものあらば彼は賃銀の増進、八時間労働、鐵道運賃の高率、重税、石炭及木炭價格の高價並に諸外國の競争激甚に依るものなりと答ふべし、生産費に於ける決定的要素例へば原料費、賃銀率、法定労働時間、租税等の如きは製鐵業者の制御し能はざる所なるも、他面生産費引下に關しては從來に比し大いに努力せられつゝ、あり、多數の製鐵所が各地に散在し而も其の大部分が小規模なる點に専門化及標準化が極めて小範圍に行はれつゝ、ある事情に鑑みる時は現狀に於ける改善の唯一の可能性は二三の製鐵所に生産を集中するにありと云ふを得べし

鉄鋼の製造法は過去二十ヶ年中に長足の進歩を示し同時に燃料の節約産額の増加並に賃銀の低減を齎したり、製鋼所に於ては平爐作業に幾多の改善を見、又特種鋼製造の爲に電氣爐の採用を見るに至り生産能率に於ては一九一三年以來多大の増進を示したり、最新にして有效なる設備の所に設置せられたるものありたるが尙此の外現在工場の改造せられたるもの多數に上り同時に補助機械並に諸種の設備の優秀なるもの設置せられたり

鉄鐵及鋼生産高

一九二八年の初頭に於ける西班牙の高爐數合計は二〇基にして其の中八基は Vizcaya (七基は Altos Hornos de Vizcaya 一基は Echevarria に屬す) に、六基は Alava, Guipuzcoa 及び Navarra 州に、四基は Asturias (Duro-Felguera 2, Mieres 1, and Moreda-Gijon 1) に、一基は Santander (Nueva Montana) に、一基は Valencia (Siderurgica del Mediterraneo) に在る

一九二八年に於ける西班牙の鉄鐵産額は一九一三年の四四五、〇〇〇屯一九二七年の五九〇、四六七屯、一九一六年の五一一、〇〇〇屯に對し五五六、九七四屯を算したり、尙一九二九年の産額は恐らく六〇萬屯以上に達すべし(第一表)

一九二八年に於ける西班牙鋼産額は一六の製鋼所にて七七七、〇四二屯に達し、一九一三年は三一四、二三七屯、一九一六年は三〇六、五四八屯を算したり一九二九年に於ける産額は一九二八年に比し約二〇パー

セントの増加を見るべし(第二表)

一九二六―二八年の銑鋼輸入額を示せば次の如し

銑

一九二六年	三、五〇五屯
一九二七年	一二、三二五屯
一九二八年	一五、五五三屯

鋼

一九二六年	二〇、四一〇屯
一九二七年	一七、三三九屯
一九二八年	一四、九八五屯

鐵 鑛 石

一九二八年に於ける西班牙の鐵鑛石産額は一九二七年の四、九〇六、三〇〇屯より五、七七二、二〇七屯に増加し約一七パーセントを増進したり、一九一三年に於ける産額は九、六一一、六六八〇を算し爾來一度も該數字に達したることなし、戦争以來の最小産額を示したるは英國炭業罷業の勃發せる一九二一年にして爾來再度英國炭業罷工を見たる一九二六年まで漸増したり。一九二九年の産額は大約六、二〇〇、〇〇〇屯

見積らる(第三表)

鑛石は諸國に輸出せらるるが主として英國に輸出し、其の額は總額の五〇パーセント乃至六〇パーセントに相當す。次は獨逸にして三〇乃至三五パーセント、殘額は白呂義、佛蘭西、時としては合衆國に輸出せらる、國內消費高は通例百萬屯強なるも昨年の消費高は約一五〇萬屯に達すべし

西班牙鐵鑛石産額の減少は一部はヴェルサイユ條約に依る經濟上の結果に起因す、ヴェルサイユ條約は獨逸の鐵工業に他の鐵鑛石を使用せしめ而して運賃市場特に北西班牙ビスケー灣岸に於ける運賃に變化を齎したり、(南佛蘭西及北西班牙に對する英國船積炭缺乏の結果) 例へばベニサフ或はメリラ(北亞佛利加)よりロツテルダム或はミッドルスバローまでの運賃はビルバオよりロツテルダム或はミッドルスバロー迄の運賃に比し其の距離頗る遠きに拘らず一志廉價なり
尙其の原因の一部はモロッコのメリラ及びニューファウンドランドのワバナの如き新重要鑛床の開發に依るものなりとす

鐵 鑛 工 業

西班牙鐵鑛總産額の四三パーセントはビルバオ地方に産し、該地方に於ける一九二八年の産額は一九一三年の三、八六四、五九五屯、一八九九年の六、〇〇〇、〇〇〇屯強に對し二、二八七、五五七屯を算せり、ビルバオ鑛山は一八六〇年に採掘に着手し一八八三年産の額は四、五二六、二八七屯に達したり(第四表)

一九二八年末に於ける西班牙全鐵鑛山使用人員は一九一三年の三三、六七八人に對し一五、一〇二人に減少せり、ビルバオ地方鑛山の全國に冠たるは、一九二八年末に於ける該地方備役人員の九、九五六人を示したる事實に依り明かなり

産額の殆んど八〇パーセントはビルバオ港より輸出し一九一三及一九二八年に於ける輸出仕向地は第五表に示す

一八六〇年以來のビルバオ港よりの鐵鑛石總輸出額は約一億七千三百萬屯に達し、内九千萬屯は英國に輸出せられたり、ビルバオ地方(ヴィズカヤ州)の鐵鑛石埋藏量は一九二八年の鐵鑛協會のビルバオ會合に於て鑛山技師ドン・ヨーセ・バルゾラ氏に依り約六千五百萬屯に概算せられたり(其の六〇パーセントはルビオ鑛山四〇パーセントはスバシツク鑛山)而して西班牙の總埋藏量は鐵分五〇パーセント以上のもの約七億屯に概算せらる尙中央西班牙の諸地方には良質の大鐵鑛體あるも現在に於ては運送設備なし

鑛山協會

昨年九月發布の法令に依り西班牙鑛山業を管轄する爲め鑛山協會なるもの設置せられたるが此の新協會は次に示す如く四部に分割擔當することとなるべし

第一部 鑛區のカタログ調製、統計及出版物の公刊

第二部 生産、生産費及斯業の援助方法、國內需要に應じて鑛石輸出入の調節並に國有及シンヂゲート

の統合

第三部 國內に於ける鑛鑛、新工業の設立、輸出に國內消費を管理する "Consorcios" の組織

第四部 市場報告並生産品の取換及之れに關聯する事項を調査する爲國內及外國代理店の管理

新法令の目的とする所は鑛區のカタログを調製し、舊鑛區權を再調して採掘に關する集産政策に依り生ずべき新條件及制限に従はしむるにありとす

鑛業法

現行法は一八六八年より實施せられ鑛業自由の原則に基けり。法規は鑛區の被授與者に對して鑛石の絶對所有權を附與したるものにして該所有權は一ヘクターに付鑛區税を支拂ふ出願者に對しては内外人を問はず讓渡せらる。鑛區税は一ヘクター年六ペセタス(約三志四片)にして一度所有權を得たるものは税金を支拂ふ限りに於ては採鑛稼行は全く自由なりき。斯の如き故に鑛區の稼行せられざるものあるを見る其の理由は明かに稼行不可能に依るものあり又鑛區所有者の怠慢に依るあり或は又特許の下に採鑛權を處理するの希望を懷いて鑛區を保留せるに依るものあり

新法令の第十七條は國利の見地よりこの自由を制限す。鑛區は審査せられて一覽表作製せらるべく徒に稼行せられざる鑛區は條件を附せらるるか或は沒收せらるるに至るべし、目的は疑ひもなく稱讚すべきものなるもこれが適用は恐らく困難を伴ふべし

一九二九年の初頭に於ては全面積二五九、三三三ヘクタールを有する九、八一〇の鐵鑛區ありしが其の中稼行せられたるものは五、七二八ヘクタールの面積を有する二六四の鑛區ありたるに過ぎず

政府の調査員

西班牙鐵鋼業の經濟狀態の攻究及調査報告並に斯業の改善勸告の爲數ヶ月前政府は調査員を任命したるが未だ何等の報告を見ず

政府は主要工業に於て自給自足主義を採り又國産品使用を奨励しつゝあり、而して鐵鋼業の發展を助長する爲め最近關稅の引上げを行ひたり

第一表 銑鐵產額(單位噸)

一九一三年	四四五、〇〇〇
一九二二年	二〇九、七九二
一九二三年	四〇〇、二七〇
一九二四年	四九七、三九〇
一九二五年	五二八、二三七
一九二六年	四八六、八四六
一九二七年	五九〇、四六七

一九二八年	五五六、九七四
一九二九年	七五三、〇〇〇
上半期	三五三、〇〇〇
下半年期	四〇〇、〇〇〇

第二表 鋼產額(單位噸)

年	平爐	轉爐	電氣爐	合計
一九一三年	—	—	—	三一四、二三七
一九二二年	—	—	—	二二〇、八六七
一九二三年	一四四、五八五	—	—	一四四、五八五
一九二四年	一八五、五九四	—	—	一八五、五九四
一九二五年	一八一、〇一八	—	—	一八一、〇一八
一九二六年	一七四、一〇八	—	—	一七四、一〇八
一九二七年	二〇〇、九七九	—	—	二〇〇、九七九
一九二八年	二二六、七九八	—	—	二二六、七九八
一九二九年	—	—	—	—

第三表 鑛石の產額及輸出額(單位噸)

一九二九年	—	—	—	九八一、六六五
-------	---	---	---	---------

年次	產額	輸出額
一九二三年	九、六一一、六六八	八、九〇七、三〇九
一九二〇年	四、七六七、六九三	四、六三〇、六六二
一九二一年	二、六〇二、三六九	一、八二四、八五四
一九二二年	二、七七一、八八八	三、八八〇、九六九
一九二三年	三、四五六、二三三	三、三七〇、五二〇
一九二四年	四、六一二、八一七	三、八二六、六四四
一九二五年	四、四四二、八七二	三、六一七、七五一
一九二六年	三、一八一、五八九	一、八五六、九七五
一九二七年	四、九〇六、三〇〇	四、七五七、五四九
一九二八年	五、七七一、二〇七	五、四二一、二二三
一九二九年概算	六、一〇七、〇〇〇	五、九五〇、〇〇〇
上半期	二、五〇七、〇〇〇	
下半期	三、六〇〇、〇〇〇	

第四表 ビルバオ地方の鐵鑛石產額及輸出額(單位噸)

年次	產額	輸出額
一九二三年	三、八六四、五九〇	二、九九九、〇九二

一九二〇年	二、五六八、五九〇	二、三三三、一六四
一九二一年	一、二二一、四五〇	七四〇、五五三
一九二二年	一、二二六、三八八	一、〇八五、八七五
一九二三年	一、五八三、七八四	一、六〇二、五三九
一九二四年	二、三八三、〇九七	一、七八三、七三一
一九二五年	二、〇八三、七四〇	一、六三七、〇二四
一九二六年	一、四五〇、七四〇	八九三、一九〇
一九二七年	二、二四六、五二一	二、五八六、五四九
一九二八年	二、三七八、〇二六	一、八四九、〇〇三
一九二九年(概算)	二、八〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇

第五表 一九一三年及一九二八年に於けるビルバオよりの

鐵鑛石輸出額(單位噸)

仕向地	一九一三年	一九二八年
英國	△一、九八八、六七五	△一、〇七四、二四一
獨逸	八二四、一五三	七二六、三九二
白耳義	七二、九二五	一九、五四一

佛 蘭 西

一五九、六五四

四四、五七四

三、〇四五、四〇七

一、八六四、七四八

△印 此の合計の六割乃至七割は英國會社所有の鑛山の産出に係るものにして同會社は自己所有の製鐵所へ之を送致したり

歐洲粗鋼「カルテル」の更新と 價格調節の問題

在英大使館商務參事官 松山晋二郎

歐洲粗鋼「カルテル」は今回其協定改訂を機とし其範圍を擴張して最低價格の設定、共同販賣組織の計畫を實施せんことを傳へらるるが其結果鋼價の昂騰を來すべきは勿論にして其英國に於ける影響としては現に大陸方面より鋼板「アングル」等を輸入しつゝ、ある英國造船業者の如き必ずしも採算の餘地なしとせざるも其他の鋼製品工場にて半製鋼材たる「ブルーム」、「ピレット」及「シート、バア」等を大陸より輸入し加工作業をなしつゝ、あるものは其受くる打撃尠少なからざるものあるを以て其成行に就き慎重に注視しつゝ、ある模様なり

右「カルテル」の共同販賣實施により影響を受くるものは單に輸入國たる英國製鋼業者のみならず現に白國及獨逸等に在りて何等特定の製鋼業者と直接連絡なく單なる輸出業者として斯業に従事しつゝ、あるものは若し共同販賣にして實現する曉には自己の營業を喪失するに至るべきを以て目下各國同業者間に連絡を取り之れが對策に付き協議中なりと云ふ

局外の反對事情は右の如くなれども「カルテル」自體としては其組織以來數年に及ぶ今日に在りても尙當初の目的たる生産品の價格調節を實現する事能はざるの實情に在り、鋼塊生産の管理割當は忠實に之れを支持せられつゝ、あるも他方料金を仕拂ふて超過生産をなすもの續々相次ぎ事實に於て生産額は常に割當額を超過しつゝ、あるを以て之れが價格に及ぼす影響は自然に避けがたきものあり、昨年中白國工業一度其安價提供を開始するや低落に次ぐに低落を以てし標準生産品「バア」の如き前年に比しF、O、B、渡一噸に付一磅以上の開きを見るに至れり、此狀勢に鑑み「カルテル」に於ては昨年十一月、十二月中の生産割當額に對し一割の減縮を實行し本年一月以後の三ヶ月に對しても十月實生産額の一割減縮を繼續しつゝ、あり、されど斯かる生産制限方法が白耳義當業者前記の態度を抑制するの力なき事を如實に痛感せる他の關係二國（佛國及「ルクセンブルヒ」）に於ては多年獨逸の主張しつゝ、ありし「生産管理の外別に販賣管理をなすにあらざれば問題の徹底的解決は不可能なり」この言に漸次傾聽するに至り、遂に今回の協定更新に際し販賣「シンデケ「ト」設定の提議を見たる次第なりし協議にして順當に進捗するあらば遅くも本年末に於ては之れが實現を

見るに至るべしと期待せらる

四國營業者は今や「カルテル」内に一委員會を組織し取敢へず半製鋼、「バア」、「ジョイスト」及「アングル」に對する最低價格を實施する事に協定同意し其價格表案を作成せるが其内容には基本價格、特殊の品質又は容積を有する品に對する割増價格、生産品の分類等級、販賣條件、仕拂條件等あり尙價格は市場の狀態に應じ各關係者間に協議の上之れを變更すべき事とせり

右販賣「シンヂケート」の組織は「カルテル」關係四ヶ國（獨、佛、白及「ルクセンブルヒ」）に各一「シンヂケート」を設定する計畫にして此等各國「シンヂケート」の粗鋼生産及價格調節を統轄する爲、別に中央「シンヂケート」を設け其本部は之れを「ルクセンブルヒ」に置く、尙本計畫に依れば各國に於ける各生産者は從來と等しく自己に關係ある商人關係市場及取引關係等を持続すべきも其受取りたる注文は一切之れを其國の「シンヂケート」に回致せざるべからず「シンヂケート」は此等の注文を適當に營業會員間に割當つるものとす

若し一國の「シンヂケート」が受けたる注文額が其國營業會員に配當するに不充分なるときは統制機關たる中央「シンヂケート」は各國間に於ける注文を彼此適當に調節分配するものとす、此方法は既に幾分實際的に行はれつゝあるものにして現に白國工場は注文の引受數なきを以て獨逸及「ルクセンブルヒ」より其注文を轉送しつゝありと云ふ

以上は新たに設定を見るべき販賣統制案の内容なるが現下の狀勢より判じて本計畫が「カルテル」の更新と共に其實現を見るは殆んど疑ひなしと云ふも過當にあらず隨て歐洲斯業の基礎は一層鞏固なるべきは云ふ迄もなき所なるが最低價格にして實施せらるゝの曉には消費者側は唯指定價格に依り購買する外、取引上殆ど掛引をなすの餘地絶無なるべしと云ふ、英國輸入業者間には其前途に關し憂慮を懷きつゝあるもの多きが如し

一九二九年の英國鉄力板工業

アイアン、エンド、コイル、トレード、レビュー一九三〇年一月廿四日

鉄力板、黒板及ターンプレートを生産はサウスウエールズ、モンマウスシャー特にスワンシーを中心にして八哩の半徑以内の地に於ける鐵鋼業の最重要なる一部門であつて其の産額數字を見るべきは容易に斯業の重大を悟るべきが出来るであらう、一昨一九二八年に於ける四八〇工場の鉄力板産額は（能力の七五パーセントを作業して）約八十六萬五千屯に達し内五三二、四二九屯は輸出せられ約三十萬屯は國內にて使用せられた。此の生産高を見る爲めには百十萬屯の鋼即ちサウスウエールズ及モンマウスシャー地方に於ける製鋼高の五割以上を使用したのである。一九二九年の鉄力板輸出高は最大記録を示したが又國內使用高も増進した

ものご見らる

亞米利加との盟約

前記の數字を省みる時には自然如何なる要素が斯くの如き進展を齎したかを考へたくなるであらう、それは、ウエールスと亞米利加製造業者間の協約が故障なく履行せられた爲めである。(兩者間の協約は斯業界に於ては目下俗に American pact と稱す) 本協約の下に於てウエールス製造業者の輸出高は兩國輸出合計の七割を割當られて居る。近年輸出市場に長足の發展を示しつゝ、ある獨逸の製造業者も同様の協約締結せらるゝであらう、既にウエールス及獨逸製造業者の代表者間には非公式に相談行はれつゝ、あることは周知の事實であつて其の結果本年即ち一九三〇年中には又他に國際的協約の成立を見ることは愈々確かなるもの、やうである。佛蘭西の錫力板産額は之れ亦長足の進歩を示しつゝ、あれも今日迄の所では同國の製造業者は輸出市場に於て重大なる競争者たるの實録はない、而して最近非公式に前同様の談合行はれたるも茲暫くは到底實現の望みはないものご見らる

英國錫力板生産増加の其の他の要素として需要の一般的増進を擧ぐるごことが出来る抑も需要の増加は全世界を通じて消費高の増進せるご、主要製造業者が品質向上に努力せるご、品分け及荷造りに一層注意せるご或は又競争的價格に深甚の考慮を拂つたのに起因するものである、工場の能力は近年頗る増大し生産高は需要を越ゆるに至つた爲めにウエールスの製造業者は殺人的競争を避ける爲め再び其の注意を更に満足

なる限産計畫の達成に向けたのである

第一表は主要生産國の錫力板の輸出額を示す

錫力板プール

新プールは一九二九年二月に機能を開始したが錫力板製造業者が試みたる此の種の計畫中最も成功を収めて居るごは明かである、本プールの成功は各製造業者が必要に依つて表はさるゝ箱數を各月割當られ居る事實に因るものごされて居るが如何なる事情があつても各製造業者若は此の割當數を超へないごを誓言して居る故に斯業の生産高は各月共決して豫定需要高を越ゆるごがない、然るに以前のプールに於ては製造業者は思ふ儘に割當額を超過せしむるごが出来たのであつて其の違約に對しては只一定せる少額の罰金をプールに拂込むのみである爲め彼等は決して生産超過に對する手控を眞剣に講じやうごはせなかつたのである。亦此のプール計畫に關聯し最低價格協定なるものがあつて常に一般市價以下に價格を保持するごに注意しつゝ、あるのである。一九二九年初頭に於ける錫力板工場の作業率は能力の七〇パーセント以下であつて價格は一箱當り一八志であつたが十二月には作業率は八〇パーセントに増進し價格は十八志九片ごなつた。國內需要増進の他の一原因として果實並に野菜罐詰工業を助長し振興せしめんごする全國食料罐詰會議の成功を擧げねばならぬ、此の會議ご果實及野菜業者ごの協力は既に有利の結果を齎らし重要にして將來ある工業の基礎を固めつゝ、あるのである

勞力狀態

ウェールズ鋼力板工業の勞力狀態は取り立て、報道する興味がない程常に平穩狀態を辿れるものであつた然し昨年八月より賃銀制度一變せられ新スライディングスケール協定の下に仕拂はるゝ、ここになつて居るが該協定の下に於ては全職工の賃銀は、錫及シートバーの各生産費控除後鋼力板確定販賣價格に依つて左右せらるゝ、ここになつて居る。斯の如きは、斯業の歴史中初めての試みである従つて此の計畫の働き振りを觀察するは又頗る興味あることであらう此のスケールは昨年八月創定以來少しのパーセンテージを示さざるも然しシートバーの外國品が確定の一分子として含まれ居るを以て最近に於ける輸入バー並に錫價の低落が本年第一四半期間にスケール上に如何なる結果を與ふるかが見物である。因に鋼力板の價格は少しも低落してゐない

新錫渡金設備

一九二九年初頭渡金部に於ては一新紀元を劃した即ちラーネリーの一鋼力板工場に設立された二つの新自動フィードポット (Feed Pot) で此れに依つて板の鍍金は磁力にて行はれ鍍金職工の必要を全然認めないものである目下此の二つの鍋は實驗的賃金率にて仲裁判定に依る條件の下で作業を續けて居るが其の結果は一大興味を以て待たるゝであらう、又此の種のフィードポットは合衆國では一般に用ひられて居る

鋼力板業のガントリ焼鈍工の賃銀は最近の仲裁判定に依つて功程拂き定められたが又酸洗工側の功程拂實

施要求に對し勞資の代表者間に目下商議進行中である、鋼力の品質に關する從來の苦情より多分起つたことであらうが此の二三年中に多數のバテント箱が市場に出るやうになつた、其の最近のものは纖維箱の特許であつて纖維から出來木製の枠で圍まれ針金にてしめ付けられたものである、此の纖維箱は大陸に輸出せられ頗る好評を受けてゐる云ふことである

一九三〇年の展望

一九三〇年の斯業の前途に關しては樂觀的傾向の事業狀態を見るこゝが出来る數多の大工場に於ては本年の大半中引渡すべき大量の注文を受けて居る云ふことであるが、者し豫期せざる事件の突發せざる限り一九二九年の數字を超過するものを見る

第一表 主要生産國の鋼力板、黑板及ターンプレートの輸出高(英噸)

年次	英國	合衆國	獨逸	合計
一九二三年	四九三、九二一	五八、九一八	七五八	五五三、五九七
一九二二年	四四八、八三一	七六、六〇七	五、七二六	五三一、一六四
一九二三年	五五一、二二四	一二四、四七七	五、〇五九	六八〇、六六〇
一九二四年	五五五、四一五	一六〇、九九七	三、三九〇	七一九、八〇二

一九二五年	五一一、〇四九	一六一、三八六	一〇、〇三二	六八二、四六七
一九二六年	三七五、〇四一	二五〇、七三七	一九、五二三	六四五、二九一
一九二七年	四七二、〇二九	二五四、一三一	二九、一二六	七五五、二七六
一九二八年	五三二、四二九	二四九、六四二	三四、二二三	八一六、三一七
一九二九年	五七九、七七八			

米國屑鐵市況 (其の一)

昨年十月以來低落、不振、閑散に悲觀氣配濃厚なりし、米國屑鐵市況も一陽來福と共に稍々見直したかの感あり、昨年來不況の一因は製鋼業の減退に在りたるが、一月以來鋼塊產出高は徐々々恢復し、之に伴ひ屑鐵需要増加の期待も暫く確實性を帯ふるこゝ、なつた。茲に市況轉換の機の近づきたるもの云ふべし。ピツバーク、ヴァレー、シカゴ等の主要市場は上旬一齊に市價を引上げたるも、實情未だ之に伴はざるものありたるが、下旬に於ては何れも反落市價を現はした。今少しく主要市價に付て觀察すれば左の如し

ピツバーク

市況好轉の氣配動き、先つ七日に一躍七五仙跳ね、月初の一五弗五〇―一六弗が一六弗二五―一六弗七五

となり、十四日には十六弗―一七弗に進みたるも、月末に至り反動して二五仙下廻り一六弗二五―一六弗七五となつた。今D、M、T紙によりて市況の一斑を見るに一日所報は「數日前輕量の需要を見た後、買入は益々輕少になつた、併し市況は底堅く値上を爲したのもある。商人はヘビイメルチング類を一五弗五〇以下で買出すこゝ能はず、一六弗で辛して少量ながら買付けて居る、引合は相當あり、物によつては高値の申出さへもある。工場は尙市場に寄付かないが、鋼材の受註増加は屑鐵購入を左右するもの見らる。ストックは減少して居るから、鋼生産の轉換は自ら屑鐵の需要を呼ぶべし」云々、七日所報は「ヘビイメルチング一級品一六弗七五……大量買付はなきにも不拘、ヘビイメルチング・スチールスクラップは上伸して來た。一級品に對し或る工場は一六弗五〇を支拂ひ、他の取引に於ては一六弗七五の値を出した。プレツスシート屑は不活潑だが、ヘビイメルチング類に比すれば強含みである、市場の靜穩は一は鐵道の入札が本週済んだのミ、他面平爐作業が輕微なためである」云々。十日所報に於ては「市況不安……市況の動搖は尙止む見込なく、各鐵道の入札は極めて沈靜裡に終つた。ペンシルベニヤ鐵道の入札は八日に済んだが未だ値段の發表はない。製鋼作業の上向は緩慢にして、工場の買付亦徐々たるべしと期待せらる。最近の買値は可なり好値にして、ヘビイメルチングスチール及コンプレツストシートは前月よりは約一弗五〇方の高値を唱えて居る。尤も一六弗七五―一七弗の出來値より後買入はない」云々、更に十四日には「市況漸く強からん……ヘビイメルチングスチールはペンシルベニヤ鐵道の入札では一七弗四〇を示し、地方小商人の賣値

は一七弗となり、市場公定値段は一六弗五〇一七弗を唱えて居る。工場の買付は急速に伸びないが、漸次強氣は加はるべし」を報じ、二十二日所報は「市況動かず……：屑鐵市況は僅少の變化あれども、大勢は變化せず。ヘビイメルチングスチールの追加的取引は一七弗及一六弗五〇の兩値あり。當分市況は一六弗五〇一七弗を續くるが如し。工場中には年初來殆ど買付を爲さざるものあれども、買方は漸次擴大されつゝある。加之ストックも軽減されて來た」云々。然るに三十一日所報は「市況沈靜……：屑鐵市況は數月來の活況を示したが、再び沈靜に復した。ヘビイメルチングスチールは大體變化ないが、最近の値段は前高値の一七弗に對し一六弗七五となつた。商人は依然舊契約の分を一六弗五〇以下で引當つることに困難を感じて居る」を反落氣味を語つて居る。

ヴァレー地方

悲觀氣配は漸く去り、二日に至り五〇仙高となり、十四日には五〇仙一七五仙進みたるも、下旬に入りて反動現はれ、二十日に二五仙、二十九日に更に二五仙落ちて、一六弗一六弗五〇に落着いた。氣配轉換の一過程にあり云ふべく、市況断面を見れば左の如し。即ちD、M、T紙二日所報「十二月末に於ける製鋼業恢復の豫想に基き當地屑鐵市價は硬化を示して來た。ヘビイメルチングスチール一級品は一六弗一六弗五〇となつた。コンプレックスシートも亦五〇仙上げて、一五弗一五弗五〇となつた。製鋼工場の操業旺盛に伴ひ、屑鐵の積出も始つた。又新市價による新規取引も出來た。但し商人は新市價で賣あせる色は見え

ぬが、之は先高を見込んで居る故である」云々。更に七日所報は「ヴァレー地方の屑鐵市況は異常の好轉を爲したを報せらる。ヘビイメルチングスチールは五〇仙高となり、一般氣配は樂觀濃厚にして、需要の増加を見込むもの多し」云々。十四日所報は「市價〇弗五〇一〇弗七五上騰……：引合値段の先高は益々強くなつたが、之は主として次の二原因に負ふものである。其の一は數日前に終つた鐵道の屑鐵入札が高値を示して來たことで、他の一は當地に於ける製鋼業者が新規に創めた平爐の活動が著しいことである。ヘビイメルチングスチールは〇弗五〇上仲して、一六弗七五一七弗となり、コンプレックスシートは一六弗一六弗五〇となつた」云々。然るに二十二日所報は「市況稍々鈍る……：實需を越ゆる現物の出廻の爲に屑鐵市況は反落氣味となつた。消費者への積荷を制限するものも現れて來た。數日間にして商人の手持は推積された。年初以來製鋼作業の恢復は屑鐵需要の旺盛を致し、商人の買出値段も平均一弗一弗五〇の値上りとなつた。併し現物過剩の結果は其の高低を幾何か下廻ることとなりヘビイメルチングスチール一級品は最近の一七弗に對し、一六弗二五一一六弗七五を現はすに至つた。デドロイト地方の自動車製造業の増加に伴ひ、其の出廻屑鐵も増加し、値段の軟化に資することとなつた。從て今後に於ける反落程度の如何は主として自動車製造業にかゝつて居る」云々を報ず

シカゴ

底値に満ちて居た當地市況にも一陽來福ありたるものか、月初より強含みなりしが、二十日に至り二五仙

高の一二弗七五―一三弗二五ミなつた。而して其の動きは手堅きものの如く、D、M、T紙の報ずる所を見るに、六日所報「需要恢復し引合出づ……二ヶ月に亘り不安定の裡に動搖して居た、當市場に於ける屑鐵消費者側の分野は擴められた。引合の増加と共に市價の強調は近來益々加つて來た。多數消費者は早晚購入すべきことを表示し、中には値段の交渉を始めたものすらある。尤も今週迄は實際消費高は大して増加はあるまいが、之は製鋼作業が聲程には屑鐵の使用を増さない爲である。軌條屑は〇弗二五―〇弗五〇程前週の建植より上つた。ヘビイメルチングスチール類は *De Paul* の入札では一四弗であつた」云々、十日所報は「市況強氣配濃し……屑鐵市況は目下商人側の強氣ミ消費者側の約定高輕少ミを以て、特徴付けられて居る。市況の強硬は大部分ピツバーク市況の反映に負ふものである、商人の舊契約充當は近來の消費者値段を上廻つて爲されて居る。而して製鋼業者は尙積出の制限を緩和せず、ヘビイメルチング類の如きは前年十月の約七五%程度の積出である。現在の市價はヘビイメルチングスチール類は變化なく一二弗五〇―一三弗で保合つて居る」云々、超えて十三日所報は「商人の入札値高し……屑鐵商人の工業方面及鐵道出廻物に付ての入札氣配は從來の建植よりは幾分の高値を呼ぶものと思はる。商人は近來の消費者賣渡市價より〇弗五〇―〇弗七五高で買付けて居る。ピツバーク地方の市價高値は當地方からの荷動を誘致して居る。従つて當地に於ける屑鐵賣買の利益は殆ど無く或は原價を割るこなきやを疑ふ。コンプレッストシートの如き當地一二弗五〇―一三弗七五は、ピツバークにては一七弗を唱えて居る。先週後半の風雪の爲、ピツ

バークへの積出は稍々減じたが急需物ミしての申込は相當多し。且つ又製鋼業者は何時迄も市場外に在るもの信じられぬ。ヘビイメルチングスチール物は公稱値段一二弗五〇―一三弗である」云々、更に十七日所報に據れば「メルチングスチール二五仙高に追隨して一般に二五仙―五〇仙市價騰る……ヘビイメルチングスチールの〇弗二五仙高値に應じ市況硬化す。ヘビイメルチング類は商人側に於て最低一三弗二五仙を固執するを以て、一二弗七五―一三弗二五は決定的のものに見て可なり

商人は消費者の高値に對する繼續的抵抗に尙直面して居る。そして消費者の約手高は相對的に減少して來た。ピツバーク及ヴァレー地方に於ける市況硬化は可なりの影響を與へる。平爐用屑鐵の大部分は〇弗二五―〇弗五〇方高くなつたが、之は更に高爐用、電氣爐用及壓延工場用のものの上伸を促した。當地に於て最近買戻の鉄鐵が處分された事實は、屑鐵の購入を制肘して居る。製鋼業買手側は可なり充分な供給を有して居るものの、作業の増進は期待さるるを以て、安値の材料が現るれば、直に市場に入り來るこも明かなり」云々、又三十一日所報に見るも「賣手側は品薄の爲値上りを豫想す……消費者の屑鐵手持高は輕少である、相當數量の註文はないが、市況は依然強調を持續す。消費方面の屑鐵荷動は緩慢であるが之は一部天候の故爲であつて、市價状態にも相當影響を及ぼすものである。商人は現在の買手方の引合値以下で買付を爲すこは甚だ難事であるとして居る。全然豫期されなかつた方面からの註文で相當數量の需要が現れ、他方通常當地に入り來る鐵道物が他の場所に多量に積出さるる有様である。二三種の屑鐵の缺乏は問題ミな

つて居る。大部分の賣手は申込の輕少ミ出廻物の撈々しくない點より觀て、ヘビイメルチングスチール及其他のものは躍進するものも觀て居る。メルチングスチールは一二弗七五―一三弗二五を唱ふるも公稱的のものに過ぎず。工場の買入れは絶無である」云々ミ報じ、尙賣買兩者の對抗持續を傳へて居る

クリーブランド

月初の一三弗―一三弗三五は六日に五〇仙伸びたるも、間もなく引返すに非ざるかミの疑一時あり、月半に至りて漸く安定したものの如し。更に二十二日には二五仙高の一三弗七五―一四弗二五を示すこととなつた。其の間の事情を見るに、D、M、T紙三日所報「市況氣配硬し……地方層鐵市況に於ける硬氣配加つて來たが、著しい活氣は未してある。ブローカーの報する所に依れば、工業方面の出廻縮少ミ不良天候ミの爲に、層鐵受入の困難は増加せりミ。商人はクリーブランド渡一三弗のヘビイメルチングスチールの入手は難く、一三弗五〇―一四弗臺に入つたミ言ふ。使用し得る材料は少ない爲に工場の仕譯が現れたミきは、一般に更に高値を呼ぶべしミ見る向多し。當地の層鐵積荷は依然高爐用のみであるが、商人は之に對し九弗五〇―一〇弗出して居る」云々ミ、十五日所報は「市況不活潑……クリーブランド市場は活況を帶ぶるに至らず。市價は附近の市場に於て著しく躍進したるに不拘、當地に於ては一般的昂騰氣配の響を受くること少なく、正當の活況は尙途上にあるものも見て可なり。一工場は三ヶ月餘りの後、ヘビイメルチングスチール類の積出停止を緩和せり。但し其の數量は小にして、數人のブローカーの間に分割せらる。第二の例を見る

ミ、積出の復舊は短期間のみ之を許すことなるべし。高爐用のものを除いては、市價の變動少なく、ヘビイメルチングスチール一級品は公稱的に一三弗五〇―一四弗である。スチール類に對する確定的需要が現れば直に高値を呼ぶこと疑なし。層鐵の消費は數日來實質的に増加して來た。從來操業して居た平爐は六基であつたが、今や十四基となつた。商人は材料の買付を續けて居る。而して之等の商人の手持は約二五、〇〇〇屯内外ミ推算さるる」云々ミ、三十一日所報は「層鐵の荷動自由ミなる……當地方に於ける一大消費工場の積出停止の緩和に伴ひ、當地の層鐵荷動は稍々自由ミなつた。積出高は一週約一、〇〇〇屯程度であらう。併し荷動の自由恢復は直に市價に響かず、大部分のブローカーは其の契約高に振當を始めて居るが、商人の追加的買付はボツボツある。値段はスチール類一級品に對して一四弗、二級品に對して一三弗二五である。近來の低値に對し市況は稍々改善されたが、ブローカーは此の改善が實質的に高値を招來するに至るべしミは思はず。ヴァレー地方への積出は値段關係で撈々しからず、スチール類及コンプレックスシートは變化なく、夫々一六弗―一六弗五〇及一五弗―一五弗五〇を保合つて居る」云々ミ報ず

デトロイト及ポストン

デトロイトに於ては先月末の一三弗―一二弗五〇が十日頃まで持續されたが、遂に五〇仙を上げて一二弗五〇―一三弗ミ伸びたるも、月末二十九日に至り二五仙引返し、一二弗二五―一二弗七五ミなつた。今D、M、T紙九日所報を見るに「……當地層鐵市況は工場よりの需要増加ミ現物拂底の爲に、二五仙―七五仙

方の躍進になつた市況は數日來可なり敏活になつた。二三の例に於ては、現在の市價よりも高價で買入れられた。殆ど全部の工場は積出制限を解き、自動車業の出廻物少量さえも現在不足を告げて居る。一級ヘビイメルチングスチールは五〇仙跳ね、一二弗五〇―一三弗となり、コンプレッストシートも亦同一割合の高値になつた。併し主要ブローカーは此の異常の活況は一時的であつて、現物の出廻が相當に及べば直に軟化するものと観て居る」云々、既に月末二五仙の引返を見越したるものである。

ボストンに於ても他の市況の反映を受け、十三日に至り五〇仙方進み、二十九日に至り更に二五仙方伸び、月初の九弗五〇―一〇弗は下旬に一〇弗二五―一〇弗八〇に恢復したが、十六日のD、M、T紙は一高値出現……現物取引に關する範圍内に於ては改善の狀極めて少なし雖、一般氣配は條件の好轉を豫期して居る。二三の工場は引合を發したが、遂に成約には至らなかつた。賣手側は手持を負込みながら、尙現在市價では引合はぬこして居る。此の現狀よりして二五仙―五〇仙方の値上がヘビイメルチングスチール一級品に付てあつた。又田舎の商人及ブローカーは手持を持たないから實際の需要あれば更に値上りを見るべし云々―其の間の事情を物語つて居る。

ニューヨーク及セントルイ

ニューヨーク市況は他の主要市場の強含みを反映して、底堅きものあれど未だ表面の市價は變化するに至らず、一〇弗五〇―一〇弗三五に終始した。三十日のD、M、T紙はニューヨーク通信によれば「ニューヨーク市況堅

し……消費的需要の減退は依然繼續して居る。主要商人は茲數日間は曾てなき閑散なりと稱す、併し強調は増して來た之東部地方の工場作業の増進に伴ひ、近き將來に於て相關的に買付の旺盛なるべしとの期待を反映して居るからである。尙月初より日本向ヘビイメルチングスチールの船積二隻ありたる後暫く積出はないが、他の種の屑鐵は引續き本港より積出さるるものと見らる。之等の物は日本に於ける民間製鋼業に使用さるるものなりといふ」云々を報じて居る。

次にセントルイを見るに當市況は稍々例外的傾向を帶び、軟調遂に改らず、月初の一三弗―一三弗五〇は二十日に至り二五仙下廻り、二十九日に更に二五仙崩れ、遂に一二弗二五―一二弗七五の新安値を示すに至つた。市價軟化斷面の一斑を窺ふに、D、M、T紙二十二日所報は「賣買兩者は何れも機を待つて動かすスチール物に在りては急需要品に付き、多少の荷動あるも、工場側及賣手側は共に現狀で取引することを欲せず。二三の例を見れば製鋼業方面は現在市價より稍々低く買はんこし、商人は相當値上りの好取引あることを信じて賣り惜んで居る。ピツバーク、シカゴ其他の地方に於ける強氣配は當市場に効果を及ぼして居るが、供給方面の投機的反動も可なり響いて居る。東部鐵道より相當數量の賣却あつたが、之は他の好値市況の中心地に向つて轉送された。……些細の變動を除き大勢上より見れば市價に於ける變化はない」云々を報じて居る。

シンシナチ其他

シンシナチに於ては月初の一、二弗一、二弗五〇が八日に二五仙、二十一日に二五仙と續騰したが、二十九日に至り二五仙の反落となり二弗二五、二弗七五となつた。バツファロー、フキラデルファイヤー其他の大湖地方は何等の變化を見なかつた

市況一覽表並銑鐵及屑鐵市價比較表は參考として別表に掲ぐるが如し

第二表 屑鐵及銑鐵平均市價比較 (D、M、T紙に據る)

年 月	ビツバーク		グアレー	
	銑鐵用屑鐵	銑鐵用屑鐵	銑鐵用屑鐵	銑鐵用屑鐵
一九二九、一	一九弗九六〇	一九弗〇五九	一七弗五〇〇	一八弗二五〇
" 二	一九、八六〇	一八、六二五	一七、五〇〇	一八、二五〇
" 三	二〇、一〇〇	一八、三八七	一七、六〇〇	一八、三〇〇
" 四	二〇、二六〇	一八、六二二	一八、〇〇〇	一八、五〇〇
" 五	二〇、五六〇	一八、〇〇〇	一八、五〇〇	一八、〇〇〇
" 六	二〇、七六〇	一八、四二五	一八、五〇〇	一九、〇〇〇
" 七	二〇、七六〇	一八、二八八	一八、五〇〇	一九、〇〇〇
" 八	二〇、七六〇	一九、〇八三	一八、五〇〇	一九、〇〇〇
" 九	二〇、七六〇	一八、五三六	一八、五〇〇	一九、〇〇〇

米 國 屑 鐵 市 況 (其の二)

〃	二〇、七六〇	一七、三三〇	一八、五〇〇	一九、〇〇〇	一七、五〇〇
〃	二〇、七六〇	一六、三八七	一八、五〇〇	一九、〇〇〇	一六、三九〇
〃	二〇、七六〇	一五、二七四	一八、五〇〇	一九、〇〇〇	一五、二七〇
一九三〇、一	二〇、七六〇	一六、五二三	一八、五〇〇	一九、〇〇〇	一六、四二〇

一月に引續き、スクラップマーケットは益々活氣を帯びて來た市價方面の改善著しきものあるのみならず、數ヶ月に亘り荷動を抑へて居た積出制限も解かれ、一般に強氣配を煽つて居る。ピツバーク、ヤングストン、シカゴ及クリーブランド等の主要市場は二五仙乃至七五仙高の市價訂正を爲した。而して其の歩調の手堅き點を見れば、投機分子的の極めて少きを知るべし。勿論買手側は尙價格昂騰の抑制に努力を拂つた跡歴然たるものがあるが、一面製鋼作業の旺盛活氣に能く之に打克ちたるものさいふ可く、主要市況に付て個別的に觀れば大略左の如し

ピツバーク

前月に引續き強調を持續し、先月一旦引返したる市價は四日に〇弗二五高となり、十四日に高値側〇弗五

○を上げて再び一六弗五〇―一七弗五〇を唱えた。二十一日には一六弗七五―一七弗二五と變へ高値の幅は縮まつたが、月末に至つて稍弱含みとなり〇弗二五下廻つて一六弗五〇―一七弗二五となつた。前月に比すれば更に強氣を加へたを觀るべく、市況の斷面を見れば略左の如し。即ちD、M、T紙四日所報「メルチングスチール類二五仙高……消費方の大口がヘビイメルチングスチール類を相當數量受入れたので、市況は益々活氣を帯びて來た。鐵道出廻のメルチングスチールは一七弗二五で賣却され、一般市價は一六弗五〇―一七弗を唱えて居る。他の種類の市價は未だ變化ないが、一般に強調を持續して居る」云々。十四日所報は「賣値一七弗五〇唱え……買手動かず……市場は活氣を稍失つた。市場の強調は依然たるものあれども、市價を決定的に導くには至らない。メルチングスチール類は最近の賣買ベースよりは高い市價を唱えて居るが、他の種類は不動である。工場は良質物を希望し始め、鐵道出廻物は益々高値で賣却されて居る、最近のペンシルベニヤ鐵道の入札ではヘビイメルチングスチールスクラップは一七弗四〇であるが、附近の工場賣渡値段は同一物に付一七弗五〇になつた。一般市場は一六弗五〇―一七弗を改めて一六弗五〇―一七弗五〇を示した。近來新規買付は減退し、工場は市場及製鋼業有利轉換を見越して市場に入らず」云々。十八日所報は「荷動は専ら契約引當物のみ……市場は賣買兩者の觀傍状態に陥り、荷動は舊契約の充當物に終止す。最近買付を濟した大部分の工場は當分市場を退き、將來の買付は茲數週間の消費状態如何にかかつて居る市況依然強含にて、商人は最近の一六弗五〇―一七弗五〇の購買に亞く契約の引當として一六弗七五まで

出して居る」云々。二十一日所報に依れば「市場強硬……スチール類一般品平均一七弗、高級物稍弱し……市況は靜穩裡に推移す。市價は一般に堅く、先安の氣配見えず。ヘビイメルチングスチール類は平均一七弗の市價である。……尤も鐵道物入札に於ては良質物一六弗七五であつた。商人は普通物一六弗七五での引合には興味を持たず。デトロイトのシートスクラップは若干年初以降當地に入つて來て居る。しかし湖沼航路の開始と共に此の材料は他地方の消費者へ向けられるだらう」云々。然るに二十八日所報は「メルチングスチール類益々活況。但し二五仙下廻る。……曆鐵市況は諸種類のものに對する需要に關し諸種の條件を伴ひ強調を續けて居る。就中メルチングスチール類は大口物の賣買は一ヶ所に極限されて居るが、益々活況を帯びて來た。此の賣買に於ては市場は一六弗五〇―一七弗の公定値段を採つて從來より二五仙下廻つた。商人も亦一六弗五〇で現物を買出して居る。ヘビイメルチング一級品は充分無いが、コンプレックスシートは自動車業の出廻物としてデトロイト地方から盛んに移入されて居る。しかし湖沼航路が開始されるや、この種材料の移入は止るであらう」云々。報じ、市價の低落は毫も軟弱材料の反映に非ずして居る

ヴァレ地方

當地の市況は尙高低の曲線を描きつつあるも、強調味は増しつあり。十一日に一舉五〇仙上げて一六弗五〇―一七弗となり、月末には再び一六弗―一六弗七五に落ちたが、其の間の事情を窺ふにD、M、T紙十一日所報は「メルチングスチール五〇仙高……ヴァレ地方に於ける曆鐵取引は毎週活氣を増して來た。

今日に於ける此の活氣は舊契約の引當物に對する積出制限を解除した爲に消費者への積出旺盛なつた點に集中されて居る。新規取引は未だ伸びず。現に動いて居る荷はヘビイメルチング物である。平爐の作業は増加するから、屑鐵の需要も増加するものが見らる。當地方には現在利用し得るメルチング類の剩餘物はなく、當地向の積荷を誘ふ爲にヘビイメルチングスチールは五〇仙高くなつた。今日の公定市價はヘビイメルチングスチール一級品一六弗五〇―一七弗三になつた。云々。十九日所報は「スチールスクラップの需要旺盛……工場向屑鐵積出は依然旺盛にして商人を景氣附て居る。特にヘビイメルチング類に於て然りこす、メルチングスチールの需要は實質的のものにして他の地方からの供給盛なるも過剰を來すこみなし。商人は契約を履行する爲に稍高値を出すに至り、中には一六弗七五迄拂つて居る。他方デトロイト自動車工場よりコンプレッストシートの出廻物豊富である。商人はヤングストーン渡で一五弗五〇で買つて居る地方の工場は平爐の作業活潑を極め、先週來作業率一〇〇%を示すものあり。ヘビイメルチングスチール一級品は一六弗五〇―一七弗を保つて居る。其の他の種類のものも變化はない。但しブローカーは當分値段は現高より高値に出づることなかるべしと觀る」云々。然るに月末二十七日所報を觀るに「市價弱含み……良質物はヴァレー地方にては軟弱傾向に在る。ヘビイメルチング一級品は最近の一六弗五〇―一七弗に對し、今や一六弗―一六弗七五臺に入つた

ヴァレー地方の工場向積出は商人にまつて満足するに足る状態である。デトロイト地方からの荷動は適度

に擴められた。工場への賣渡は數量の上に制限付けられ、又契約の完結も遅々として居る。現在の買氣減退及安値傾向は普通重要なる鐵道入札の直前に起る小康に隨伴する現象である。ニューヨーク、セントラル及エリー鐵道の入札は二月二十八日、バルチモアオハヨ鐵道及ペンシルベニヤ鐵道の開札は三月の第二週目中にあるべし。市價の先物見込に付ては主要ブローカーの意見區々であるが、大體は今後數週間は市價の變動ありとするも輕微なるべしとの決論に傾いて居る。既に數週前より現はれて居る所だが、デトロイトの屑鐵出廻の減退は益々良質物の品薄をもたらすであらう。尤も製鋼作業の率の擴大が消滅すればこの間の影響を減殺することとなるべし」云々を報ず

シカゴ

前月より強含の當市況は本月に入りて俄然活況を呈し、四日に二五仙を上げ、十四日に二五仙、十七日に二五仙を續騰し、月初の一、二弗七五―一三弗二五は一三弗五〇―一四弗三になつた。今市況斷面を窺ふに、D、M、T紙三日所報「當地に於ては消費者の購入は數週間來になき活潑になつたが、平爐用屑鐵、銑鐵屑に付ては未だ動かない。取引は専らアイアンホイール、マリヤブル、レールロード、鑄鐵板等である。商人中へビイメルチングスチールを一三弗五〇で引合つて居るものもあるが、一二弗七五―一三弗二五云ふのが大勢である。多數の賣手は最近の消費者建値よりは高値で賣る爲に、永い間屑鐵の保藏を續けて來た。賣手は強い立場に立つに至つたを見て居る。夫は製鋼用の品種に對する需要が久しからずして激増すること期待

して可なる状態になつたからである。又最近では數ヶ月間に亘り供給制限が爲された後であるからである」云々。十四日所報を觀れば「屑鐵市況強調……メルチングの強調に因り荷動益々活潑となり、屑鐵市價は一般に強調を示して來たが、特にメルチングスチール類は續騰の勢を含む。賣手の大部分は最近の消費者買値よりは二五仙一五〇仙高を唱えて居る。當地に於ける製鋼作業の旺盛に刺戟されて、商人はメルチングスチール類一四弗を觀て居る。但し唯一の悪材料も云ふべきは製品價格の低落が響かないかといふ點である。茲數日間のブローカーの買値はシカゴ渡一三弗七五を標準とする。尙商人の鐵道出廻物に對する入札も亦最近の市況に應じて一三弗一三弗五〇の基準以上で爲されて居る」云々、十七日所報は「市況益々好し」……ヘビイメルチングスチールは數日前二五仙上げたるに、更に引續き二五仙高になつた。メルチングスチールの公定市價は一三弗五〇一四弗になつた。しかも一四弗で賣買された量は相當なものである。ブローカーも亦一四弗の好値で買付て居るが、投機的分子は多分に存する。多くの不確實な分子は存するが賣手は手持品をこの値段で處分せんとする意向強し。商人のストックは減少して來た、一方工業方面の屑鐵出廻は撻々しくない」云々。其の後二十日所報を見るに「現物の出廻豊富……工業方面よりの出廻り屑鐵は益々増加して來たが、市場の強調失はれず。市場統制の跡歴然たるものあるを以て、近來の市價躍進にも不拘、崩るるこゝあるべしは信じ難し。メルチングスチール類は尙一四弗臺に保たれ、數週間内は保合堅し。更に賣手側に有利なるは、直に積出を要する物が品薄を告げて居るこゝである。加之メルターによ

つて爲された低値に對する壓迫は商人にこつては一の強味である。消費者の今週中受入高は近來の週平均額を稍超えて居るが平常状態に比すれば尙低し。月末迄の製鋼作業は幾分變化ありするも、二月上旬までには恢復するものを見込まれる」云々を報じ樂觀的である

クリーブランド

異常の活況を演じた一月の後を受けて、本月の市況も依然として堅く、十一日に至りては更に二五仙方を上げて、一四弗一四弗五〇に落着いたが、市況の斷面を見れば、D、M、T紙七日所報「靜穩を持続す……當所に於ける製鋼業の擴張著しきものあるに拘らず、市價は靜穩である。平爐二七基中二二基迄も操業して居る。大消費者は積出制限を徹廢したが未だ市價を動かすには至らず。而して積出の増加は一週間スチール物約一、〇〇〇屯程度である。一三弗九〇の取引後新規買入は近來なし。商人はスチール類一級品一四弗、二級品は五〇仙下りて買付て居る」云々、十一日所報は「市況硬し……ヘビイメルチングスチールスクラップは二五仙高となり、一五弗にて主要消費者に二、〇〇〇屯内外賣渡された。一級品の公定市價は一四弗一四弗五〇である。消費者への荷動は確實になつたか、量は大したものではない。數種類のものに付ての値上はあつたが、クリーブランド市場を決定的に改善するには至らず。商人は相當の注文を有し、中には一二日間差支なき有様であるが、之等の受註は數ヶ月前のものである。商人の報ずる所によれば材料は豊富なりといふ」云々。次に二十五日所報は「氣配弱し……當地屑鐵市況は二三大消費工場の製鋼作業

縮少の聲明により稍軟弱味を帯びて來た。之等工場は將來メルチングスチールの使用を制限するところなるべし。されど市價は依然變化なく、メルチングスチール一級品は一四弗一四弗五〇、二級品は一三弗五〇を保持して居る。ヘビイメルチング類の現物は過剰に非ず、商人は現在標準よりの値下はあるまいと見て居る」云々を報ず

セントルイ及ニューヨーク

月初來市場の強調を報ぜられたるセントルイ市況は遂に十九日に至り一躍七五仙跳ねて、一三弗二五一一三弗七五ミなり、尙強氣配衰へず。D、M、T紙の報ずる所を見るに五日所報は「市況好轉……層鐵需要は靜穩なるに不拘、市況は強調である、其の主要なる兆候としては鐵道の出廻物は過去數週間になき高値で入札されて居る。出廻源からの申込僅少ミ不良氣候に祟られて現物は缺乏して來た。商人の手持中には品切れのものあり。一般商人は現に手持のもの又は入手確實なる物さへ賣惜んで居る」云々ミ、更に十八日所報は市況益々好し……層鐵市況は硬化し、需要も亦伸びた。工場の買入を爲すもの多く若し買手にして現在市價を標準として取引せんとするならば、更に多くの買入を見るであらう。氣配は上向いて居るが實際値上を見たのはスチールカー、アクスル、アイアンカー、ホキール、ヘビイメルチングスチール一級品、マリダブル等である」云々を報ず。

ニューヨーク市況も亦他の市況の影響を受けレールロードスチール類は下旬に至り、一〇弗五〇一一弗三五を一〇弗五〇一一弗五〇に改めたが、其の間の事情を窺へば、D、M、T紙六日所報は「市況鈍狀……層鐵市況は依然閑散を極め、主要消費者は現在市價に對して興味を持たず、商人側も亦大部分は現狀以下の取引を欲せず尤も少くも二三週間中には幾何かの變化あるべしと見る向もある

レールロードスチールは一〇弗五〇一一弗三五で依然保持して居りその他ボーリング及ターニングスクラップ類も七弗一七弗五〇である。ヘビイメルチングスチール及マシーニングキャスト一級品は公稱市價の變化なく靜穩である」云々ミ。二十六日所報は「レールロードスクラップ高し……ルツケン製鋼所はレールロード一級品を工場渡一五弗五〇で買付けたが、其の數量も相當のものであると報ぜらる。此の値段は從來よりも一弗高にして、地方商人の買値も僅かながらも一〇弗五〇一一弗五〇に擴めらるることとなつた。「この種類に對する消費者の關心は相當強きものの如く、ウォース製鋼工場も亦一、〇〇〇屯内外の見積を取り、更に多量の引合を發すべしと云ふ。現物の動は未だ活潑ではないが、市況は強氣である」云々を報ず市況改善を傳ふ

ツローント其他

ツローント市場は數ヶ月に亘りヘビイメルチングスチール一〇弗を固執して動かなかつたが、本月初め他の市場に反對に約一弗方を下げて九弗の建値せり。而して此の市價の低落は必ずしも市況の悪化を物語るものに非るこもD、M、T紙一日所報の如し。即ち「市價低落……層鐵市價は五〇仙一二弗五〇方の低落

を告げた。ヘビイメルチングスチールは一〇弗を固執して居たが、一弗落ちた。此の低落にも不拘市況は稍改善の色あり、大量の新規取引は未だ現れず。されど買手側の申込は相當の高に上り、近來の毎週のレベルを超過して居る。工場、金屬業、其の他の層鐵使用工場の作業は上りつつあり。之に應じ層鐵の消費高も増加した。之等の事實は新規取引を刺戟して居る。引合は遅々たる状態なれども、商人は早晚改善あるべしと見て居る」云々

シンシナチは中旬に二五仙高となりたるも下旬に於て引返し、一二弗五〇―一三弗に終り、バッファローは月初の一四弗五〇が十九日に一四弗―一五弗五〇となり、二十五日に一四弗五〇―一五弗五〇となった。フィラデルフエヤは月末に至つて一四弗五〇を一四弗五〇―一五弗とした。其の他デトロイト、バーミンガム、ボストン、モントリオルの各市場は強含みながら遂に變化を見せなかつた

左に市況一覽表及鉄層鐵市價比較表を添附す

第二表 層鐵及鉄層鐵平均市價比較 (D、M、T紙に據る)

年 月	ピツ		ザ	
	ベッセマー鉄	鑄解用層鐵	鹽基性鉄	ベッセマー鉄
一九二九、一	一九弗九六〇	一九弗〇五九	一七弗五〇〇	一八弗二五〇
二	一九、八六〇	一八、六二二五	一七、五〇〇	一八、二五〇

Table with multiple columns of numerical data, likely representing market prices for various iron products. The text is faint and difficult to read, but appears to be a continuation of the data presented in the summary table above.

米 國 屑 鐵 市 況

二	一	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三
二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、七六〇	二〇、五六〇	二〇、二六〇	二〇、一〇〇
一六、八二六	一六、五二三	一五、二七四	一六、三八七	一七、三三〇	一八、五三六	一九、〇八三	一八、二八八	一八、四三五	一八、〇〇〇	一八、六二二	一八、三八七
一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇	一八、〇〇〇	一七、六〇〇
一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一八、五〇〇	一八、三〇〇
一六、五三一	一六、四二〇	一五、二七〇	一六、三九〇	一七、五〇〇	一九、〇〇〇	一八、一二五	一七、七五〇	一七、七五〇	一七、八七五	一八、一二五	一八、〇〇〇

Table with multiple columns of numbers and text, likely a continuation of market data or a different section. The text is faint and difficult to read.

統計

一九二九年十二月及全年に於ける
獨逸壓延工場産額

附表は一九二八年、一九二九年十二月並に全年の獨逸壓延工場及フオーヂの産額を示す (單位佛屯)

品名	十二月		全年
	一九二九年	一九二八年	
鐵道材料	一一〇、一三六	八九、三五六	一、四四二、〇三一
平鋼及八厘以上の形	六一、七八二	九〇、三八四	九四四、四四四
棒及小形	二一三、七二五	二一三三、九八〇	三、〇四二、六五一
フーパー	三三三、三三八	三三、九九七	四八一、六二六
線材	八四、二一六	九六、二六九	一、一七〇、六八三
厚板(四・五・六・七・八・九・十・十一・十二・十三・十四・十五・十六・十七・十八・十九・二十・二十一・二十二・二十三・二十四・二十五・二十六・二十七・二十八・二十九・三十・三十一・三十二・三十三・三十四・三十五・三十六・三十七・三十八・三十九・四十・四十一・四十二・四十三・四十四・四十五・四十六・四十七・四十八・四十九・五十)	九六、四四七	六三、〇四六	一、二七七、六一〇
薄板(三・四・五・六・七・八・九・十・十一・十二・十三・十四・十五・十六・十七・十八・十九・二十・二十一・二十二・二十三・二十四・二十五・二十六・二十七・二十八・二十九・三十・三十一・三十二・三十三・三十四・三十五・三十六・三十七・三十八・三十九・四十・四十一・四十二・四十三・四十四・四十五・四十六・四十七・四十八・四十九・五十)	一五、八一五	一四、七六九	二二〇、九二〇
薄板(三耗以下)	七三、四九七	六三、九九一	九八八、三四七
鋁力板	一一、三三四	九、四二五	一四三、九七八

獨逸の一九二九年十二月中及一九二九年
年中燃料産額

附表は一九二九年十二月及一九二九年全年に於ける獨逸の燃料産額を一九二八年及一九一三年の分と比較せるものにして一九一三年は現在の國境内(但しザール地方を除く)と戦争前の國境内の双方を示せり(噸)

品名	一九二九年十二月		一九二九年全年	一九二八年	一九一三年
	一九二九年	一九二八年			
チユーブ	六二、〇四三	七〇、六四九	九〇五、九一三	八二七、六四八	
鐵道車輛材料	一一、二四〇	一五、三三七	一六九、五七〇	一五九、八三七	
フオーヂング	一六、〇二九	一六、六九一	二五四、七三八	二二五、一一三	
其他	一一、五九七	四、〇八四	一九九、四六七	六四、七〇九	
合計	八〇二、一九九	七九七、九五〇	一、二九一、九六八	一〇、五六八、三〇六	
販賣用半製品	九四、六一五	六四、七六三	一、一六七、四三四	九九三、三八四	

ザール地方を除く現在獨逸國境内

一九二九年七月

一九二九年七月

一九二九年七月

舊獨逸國境内

一九二九年七月

石炭	十二月	全年
全	一三、六五、三五	一三、四七、〇表
全	一、二八、八八五	一、五〇、八七五、五三
全	一一、三三〇、五三四	一四〇、七五三、一八八
全	一五、五九、六九四	一、二九、一〇九、四四〇

機械 工具	二八、〇八七	一五、八二三
壓 延 機	一、六五八	六三四
其他の金屬作業機械	七、三六五	六、七〇三
空 氣 壓 搾 機	七、五九〇	七、七三八

佛蘭西の十二月中及一九二九年中銑鋼産額

十二月中に於ける高爐操業爐數は一五六基(十一月と變化なし)を數へ銑鐵産額は十一月中の八五二、〇〇〇噸(修正數字)に對し八七四、〇〇〇噸を算せり其の内譯左の如し

鹽 基 性 銑	六六七、〇〇〇噸
含 磷 鑄 物 用 銑	一〇四、〇〇〇噸
半 磷 銑	一〇〇、〇〇〇噸
鑄 物 用 へ マ タ イ ト 銑	三九、〇〇〇噸
轉 爐 及 低 磷 可 鍛 銑	三九、〇〇〇噸
フエロアロイ、スピイゲル其他	一五、〇〇〇噸

十二月中の鋼産額は十一月中の七八六、〇〇〇噸(修正數字)に對し、八一三、〇〇〇噸に達せり、中七九三、〇〇〇噸はインゴット、二〇、〇〇〇噸はキャスチングにして更に細別せば左の如し

鹽基性轉爐鋼	五五四、〇〇〇噸
坩 埚 爐 鋼	一、〇〇〇噸
酸性轉爐鋼	八、〇〇〇噸
電 氣 爐 鋼	一五、〇〇〇噸
平 爐 鋼	二三五、〇〇〇噸

銑 鐵 鋼

一九二九年全年	一〇、四三九、〇〇〇	九、六六四、〇〇〇
一九二八年全年	一〇、〇九七、〇〇〇	九、三八七、〇〇〇

一九二九年度の瑞典銑鋼統計

附表は一九二九年及一九二八年の瑞典銑鋼産額並に輸出入額を示せり

産 額	一九二八年	一九二九年
銑鐵及直接鑄物	三九六、一〇〇	四八三、九〇〇
鍊鐵ブルーム	三三、五〇〇	三五、三〇〇
轉 爐 鋼 塊	六六、九〇〇	八二、八〇〇

製品	六、七六二、〇〇〇 (タイヤ七五、〇〇〇を含む)
フォーチング	六六、〇〇〇
軌條	六一五、〇〇〇
枕木	一四二、〇〇〇
繼目板及底板	四五、〇〇〇
工形及溝形 (8目以上) 鐵矢板其他	八九二、〇〇〇
線材	四五八、〇〇〇
針金	一七八、〇〇〇
フープ及チユープストリップ	二七五、〇〇〇
鋼管用素材	一〇一、〇〇〇
チユープ	二五四、〇〇〇
特殊鋼棒	二一七、〇〇〇
マーチャントバー	二、二四九、〇〇〇
鋇力板	八二、〇〇〇
厚板 (厚サ五ミル以上)	三九三、〇〇〇
薄板 (厚サ五ミル以下)	六四七、〇〇〇

ユニバーサル平鋼

七三、〇〇〇

獨逸の十二月中及一九二九年中鋼産額

獨逸の一九二九年十二月の鋼塊及鑄物の産額は、一、一五六、一〇五噸 (一九二八年十二月一、〇九〇、六一八噸) 尙獨逸鐵鋼製造業者組合の最近報する全年の産額は一六、二四六、〇七八噸 (一九二八年全年一四、五一七、〇一三噸) にして内譯左の如し (噸)

一九二九年十二月

一九二九年全年

鋼塊	五五七、〇七八	七、三九四、四五八
鹽基性轉爐鋼	五六〇、〇九九	八、二二三、八七〇
鹽基性平爐鋼	五、九七二	一四三、九二五
酸性平爐鋼	九、四四八	一五一、〇九九
坩堝及電氣鋼	二、一六一	三五、七二〇
其他の鋼		
鑄物		
鹽基性鋼	一三、七四六	一八六、七二三
酸性鋼	六、一三三	八七、八二五
坩堝電氣鋼	一、四八八	二二、四五八

亞米利加の一九二九年中モリブデン産額

一九二九年に於ける亞米利加のモリブデン産額(金屬)は一九二八年の一、七〇五屯に對し約二、〇〇〇短屯に増加しクライマックス・モリブデン會社は主要生産者として約一、五七〇屯を産せりノールウェイに再び少量の生産を見たるも、産額の大部分はクライマックス會社の鑛山より産したるものなり

一月中獨逸の銑鐵産額

一九三〇年一月中獨逸の銑鐵産額は一、〇九二、二〇六噸に達せり(一九二九年一月一、〇九八、三八〇噸)其の内譯次の如し

ヘマタイト銑	一〇〇、七六六噸
鑄物銑	九五、〇七八
直接鑄物	七九一
鹽基性銑	六八四、二四三
フエアロイ、スピイゲル其他	二二〇、二三二
其他銑鐵	一、一〇六

一月中合衆國の石炭産額

一九三〇年一月中合衆國の瀝青炭産額は四九、七五〇、〇〇〇屯に達し昨十二月に比し七・六パーセント

の増産なるも一九二九年一月に比すれば三・三パーセントの減少なり。一方無煙炭の産額は六、九〇九、〇〇〇屯を算し昨十二月に比し九・七パーセント一月に比し五・八パーセントを減したり

一月中合衆國の銑鋼産額

合衆國の操業高爐は一月中に於て一六基の増加をなし二月一日に於ける操業高爐數は一七三基を數へ日産能力は九六、七五五屯にして一方一月一日に於ける操業高爐數は一五三基日産能力は八八、二五〇屯を示したり

一月中の銑鐵産額は總計二、八二七、四六四屯に達し平均日産額は九一、二〇九屯を算したり

一月中の平爐及轉爐鋼塊産額は昨十二月の二、八九六、二六九屯に對し三、七八六、三一九屯に増加した

り
以上 アイアン、エンド、コトル、トレッドレピウ 一九三〇年二月二十一日

一九二八年に於ける世界鐵鑛石産出高

次表は一九二八年に於ける世界の鐵鑛石見積産出高を英噸を以て示したるものにして最近英帝國學會より發表したる自一九二六年至二八年産出高輸入高及輸出高の統計一覽中より摘出せしものなり

產出國

英帝國

北ローデシヤ

南ローデシヤ

西南アフリカ

南ア聯邦

ニューファウンドランド(船積高)

印

馬來聯邦

濠洲

計

諸外國

埃太利

白耳義

鐵鑛石產出高(滿掩鐵鑛石を含む)
一九二七年 一九二八年

一一、三二一、八二〇

三、四一九

四七〇

二二、四〇九

七六、二九九

一、三三五、四二九

一、八四六、七三五

四五八、二七九

八八四、八〇六

一五、八〇〇、〇〇〇

一、五七三、三二三

一七八、〇三三

一一、二六三、一二九

四、四六六

三、〇六二

二九、九二三

二〇、五六八

一、五四七、八九五

二、〇五五、九八一

六四四、六三五

六七五、〇九二

一六、一〇〇、〇〇〇

一、八九七、七二九

チエツコ、スロバキヤ

佛蘭西

獨逸

希臘

匈牙利

伊太利

ルクセンブルク

諸威

波蘭

葡萄牙

ルーマニヤ

露西亞

スベイン

瑞典

ユーゴスラビヤ

瑞西(輸出高)

一、五六五、四〇七

四四、九四九、六一一

六、五二〇、八六五

一一三、五二二

一九一、三三〇

五二二、六一四

七、一五一、四八九

四七一、七六四

五三七、七四一

七、四九一

九五、六〇四

四、七三六、九九一

四、八九三、一八四

九、五〇八、三九五

三三〇、七九一

八〇、三七一

一、七五一、〇七六

四八、五四八、七七四

六、三七二、三五七

一六四、二六九

一九六、三九五

六三〇、九六三

六、九一五、八五三

六五二、二四一

七二五、一一九

八二、五四四

五、八二九、五〇九

五、四一八、四二〇

四、五九五、〇六四

四三二、五三九

六四、六六四

アルゼリヤ	一、九九八、〇一八
佛領モロッコ	一、〇三三
西領モロッコ	九三六、七七四
チユニス	九〇一、〇〇〇
キユーバ (船積高)	四一四、八四七
米國	六三、一九九、五一八
智利	一、四八四、四六五
日本	一五六、四九四
朝鮮	四一五、八八六
滿洲	六二〇、六四四
計	一五四、〇〇〇、〇〇〇
世界總計	一七〇、〇〇〇、〇〇〇

備考 空欄は報告未受領、露西亞は九月三十日會計年度に終る

一九二九年に於ける英國銑鐵及鋼塊產額 (單位千噸)

スタール ウント アイゼン 一九三〇年 二月十三日所裁

月	銑鐵				年末 操業 爐數	平爐		轉爐	合計	中 鑄 物	鍛 接 鋼
	イヘマ ット銑	ベ ック銑	鑄物銑	攪鍊銑		酸性	鹽基性				
一月	一八四・四	二〇三・三	一七三・三	二四・三	三九	一八二	五五四	六五二	七六八	二二六	二六・五
二月	一〇七・九	二二四・六	一〇五・二	一六・一	一四〇	二五九	五一〇	六〇四	七六七・三	一三一	二二・九
三月	一九三・三	二五五・二	一〇〇・〇	二二・六	一四五	二三三・三	五五〇	七五四	八七三・七	一三九	三〇・六
四月	一九九・四	二六四・五	一二三・八	一九・九	一五二	一九〇・〇	五二八	六三八	八二二・六	一三二	二八・三
五月	二〇六・七	二九〇・四	一二三・二	三三・六	一五九	二三・四	五七八・四	五五・五	八七二・二	一四四	三三・二
六月	二二一・〇	二八一・九	一二五・四	三三・八	一六五	二〇九・五	五六七・六	六七・一	八四四・三	一五六	二九・六
七月	二二一・九	二八八・三	一三四・一	二二・三	一六七	一九九・九	五六二・六	六五・二	八七七・七	一四七	二七・八
八月	二二〇・二	二八四・六	一四二・四	二七・一	一七〇	二〇二・六	五三三・〇	四九・八	七六五・四	一三二	三〇・六
九月	二二一・八	二八九・三	一二三・一	三三・六	一六八	二〇六・六	五八九・三	六五・六	八六一・五	一四七	三〇・二
十月	二二一・四	三〇四・六	一三五・五	三三・〇	一六六	二三七・二	六〇四・一	六二・七	九〇四・〇	一六五	三三・四
十一月	二二二・〇	二八四・四	一二八・一	二四・二	一六三	二三〇・〇	五四四・〇	四四・〇	八二六・〇	一六五	三三・八
十二月	一九三・四	二六三・九	一四六・六	二五・一	一六二	一七四・〇	四九八・三	三九・五	六七七・八	二三五	—
合計	二、三五五・四	三、二五二・〇	一、四九二・七	二七二・六	—	二、四九二・六	六、六〇一・五	七五二・二	九、八〇九・三	一、七一九	—

一九二九年に於ける合衆國の鋼材輸出額と仕向地

アイアン エーヂ 一九三〇年 二月六日所載

九主要鋼材の加奈陀への輸出額六八三、〇九三英噸を最高とし—日本は第二位にして一四四、一七一英噸—アルゼンチナ五七、二五五英噸—フキリツピン五七、二二四英噸—メキシコ四六、五七五英噸—智利四三、六二九英噸

仕向地別九主要鋼材輸出額 (英噸)

仕向地	厚板		亜鉛引薄板		黒鋼板	
	一九二九年 十二月	一九二九年 全年	一九二九年 十二月	一九二九年 全年	一九二九年 十二月	一九二九年 全年
合計	二、三〇五	一八、七三六	二、〇七六	一三、七九一	九、六五五	三、七六六
加奈陀	八、八八六	一五、九三三	一、一九一	二、〇九五	三、〇四五	三、〇三九
日本	八一	一、二六四	六〇	一、六三九	四、〇八四	四、三六一
キユーバ	四一	一、二六四	五六	五、五	六、四四五	五、八八三
フキリツピン	一四	一、二〇六	三、七九二	二、二二六	三、五、九〇二	三、三三三
メキシコ	一六三	一、一八〇	三、八一	七、五	一、二、六八八	八、五四四
アルゼンチナ	一	一	七四	四、五八	六、一七三	七、四六一

仕向地	軌條		棘線		素及亜鉛引ワイヤー	
	一九二九年 十二月	一九二九年 全年	一九二九年 十二月	一九二九年 全年	一九二九年 十二月	一九二九年 全年
合計	一、〇、三三四	二、二、四一四	四、三九七	五、三七一	三、二七五	三、五八八
加奈陀	二、一〇三	六、四四	一八	四、六八	二、五三六	三、六七七
日本	一、二、七一一	三、四六〇	一	一	一	一
キユーバ	一、一、六八	二、八、八六	三、九四	三〇	三、九三三	四、五九〇
フキリツピン	六、七	一、〇、三三	三、八	二、六八	五、八四六	二、八六五
メキシコ	一、〇〇一	四、七	六、八	四、四二	七、〇〇八	六、〇〇八
アルゼンチナ	一	五九	一、〇三三	一、二、七六	九、四一〇	一四、六三二
智利	五、四	一、九、四四	一	一	一	一
コロムビヤ	七	五、四二	三、三	五、四二	五、五三二	四、三二一
ブラジル	二、〇、五一	一、八、三二	五、九	一、〇、三三	二、一、六四	一、七、三六二

仕向地	鐵力板		棒		鋼		大形素建築材料	
	一九二九年 十二月 全年	一九二八年 十二月 全年	一九二九年 十二月 全年	一九二八年 十二月 全年	一九二九年 十二月 全年	一九二八年 十二月 全年	一九二九年 十二月 全年	一九二八年 十二月 全年
合計	二四、五三三	二七、〇七三	八、三六八	一四、七七一	二、四〇〇	一四、七〇六	二、三三〇	一〇、一八四
加奈陀	三、六八一	四、五九四	四、〇四四	九、五五五	三、四四〇	一四、七〇六	一、七二一	三、三九九
日本	五、一四三	四、七五五	八、四四一	一、〇五二	一、三三	三、〇〇	九、四六六	二、三三七
キューバ	二、七五	三、〇	一、八〇	三、八三	一、七	八	二、八三三	五、二八二
メキシコ	一、〇六六	一、〇〇一	二、八	五、一六七	二、〇六	五	一、三五五	一、二七七
アルゼンチナ	二、七三三	一、六九七	六	一、四〇〇	八、五	二、八	五、四四	二、四三六
智利	五、〇六	五、〇	一	一	七、一	一三	九、九七七	三、八五〇
ブラジル	三三	二〇二	一	一	一	一	一	一
支那	二、九四二	二、三三七	一	一	一	一	一	一
英領印度	三、九五	八、八三五	一	一	一	一	一	一
英國	一	一	一、五七〇	一、二六六	二、四、五四	七、八三	一	一
伊太利	二、五	二、七五	一	一	一	一	一	一

仕向地別鉄鐵輸出額 (英噸)

仕向地	一九二九年 十二月 全年		一九二八年 十二月 全年	
	北部、中部亞米利加及西印度諸島	八二、三二九	一、五〇三、五八二	一、四二〇、四六九
加奈陀及ニューファンドランド	六二、三二二	一、二三〇、三七八	一、一八一、〇二〇	
キューバ	四、六六三	六八、三七七	六五、二〇五	
グアテマラ	四五三	七、五四二	八、〇五八	
ホンデユラス	三八五	九、五三二	六、九一五	
メキシコ	一一、三二一	一〇七、七六六	八三、一一六	
パナマ	一、二二三	一九、五四一	一七、一一八	
サルベードー	一七七	六、七〇二	三、二五八	
英領西印度諸島	一、二四〇	一八、〇四六	七、六五一	
其他の西印度諸島	一、二五一	二六、〇六一	三九、六三五	
其他の中部亞米利加	二九四	九、六三七	八、五〇三	
南亞米利加	三三、九五七	三九五、六七五	四三八、三一九	
アルゼンチナ	九、六二八	九四、〇三六	九八、四四三	
ブラジル	六、三六〇	七一、八六四	八三、九〇〇	
智利	三、八九七	六七、九一七	六九、八七五	

極東	七八、五三五	七四九、四二二	七〇八、八三三
英領馬來	四三八	九、五一九	六、四五七
支那	四、一九〇	六八、四〇七	九二、八三七
關領東印度	三、七五四	六一、一四二	四〇、七二六
印度及サイロン	九四一	二一、〇六五	二五、五〇九
日本	五四、三三八	四二七、七五五	四一一、七五四
廣東	五〇五	一一、七〇九	一四、〇二一
フィリッピン	九、四三三	一〇二、三〇一	八四、二二七
濠洲	一、二九六	二二、一一〇	一九、六三三
ニュージーランド	三〇四	五、三七三	二、三〇五
其他の亞細亞及極東	三、三三六	二〇、〇三一	一一、三七四
亞弗利加	五、三九五	三一、六二四	一四、二〇一
南亞弗利加聯邦	三二八	八、一二八	七、二二〇
埃及	四、九七七	一八、五六八	三、七九三
モザムビック	七一	二、九二七	一、三九九
其他の亞弗利加	一九	二、〇〇一	一、七八九
合計	二二五、二四二	三、〇三一、三五二	二、八六五、一〇三

コロムビヤ	二、七二五	四一、〇〇三	六四、八四三
ペル	二、二三四	三五、六七四	二六、五四三
ウルゲイ	一、九三二	一一、一二二	九、〇三八
ヴェネジュエラ	五、五二一	六七、八五一	八〇、四九九
其他の南亞米利加	六七〇	六、二二八	五、一七八
歐羅巴	一六、〇二六	五二、〇五九	二八三、二八一
白耳義	二二一	二、六九〇	一四、〇七九
佛蘭西	六三四	一八、一二〇	九、一二五
獨逸	三〇	二二、〇二七	二二、六二八
伊太利	六、四〇五	一〇九、五二二	九〇、〇一一
和蘭	三四七	三、一一〇	二、三三二
波蘭及ダンチツヒ	四	七五、一〇二	六三、四二二
ルーマニア	一九四	三、九七三	四、六四七
露西亞	二、五四三	一三、六一三	二、七八一
英國	四、五九一	六七、三二七	五四、〇六九
其他の歐羅巴	一、〇五七	三六、六〇五	二〇、二〇七

米國操業高爐數增加

本年一月の純増加は一六基——日産額は昨年十二月に比し
三〇四英噸即ちパーセントの三分の一の減少を示す

アイアン、エーヂ 一九三〇年 二月七日

本年一月に於ける操業高爐數は急激に増加したりしが、産額は其の割に増加せず昨年十二月の産額に比し寧ろ一パーセントの三分の一の減少を示せり

主として電報に依る二月四日に於ける材料より判断すれば一月中の産額は二、八二七、四六四英噸即ち日産額九一、二〇九英噸を算しこれを昨年十二月の二、八三六、九一六英噸即ち日産額九一、五一三英噸に比すれば三〇四英噸即ち一パーセントの三分の一の減少に過ぎず。最小産額を示せるは一九二二年一月の日産額五三、〇六三英噸にして、次位は一九二七年十二月の日産額八六、九六〇英噸なりき因に昨年一月の日産額は一一一、〇四四英噸を示せり

本年一月に於ける純増加高爐數は一六基——一九基の火入れを見たるも三基は閉止せり
次表は一九二六年より一九三〇年一月に至る骸炭銑の月別平均日産額を示せり(英噸)

一月	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
	106,974	100,133	91,553	111,044	91,101

統計

二	106,974	100,133	91,553	111,044	91,101
三	111,041	111,333	101,115	119,813	111,041
四	115,800	114,044	106,183	133,087	115,800
五	111,104	101,385	105,431	135,745	111,104
六	107,844	101,928	101,733	133,087	107,844
上半期平均	109,600	107,351	101,633	119,564	109,600
七	103,978	91,191	99,091	131,100	103,978
八	101,141	91,073	101,180	131,151	101,141
九	104,543	101,496	101,077	126,585	104,543
十	107,553	91,810	108,833	125,745	107,553
十一月	107,890	81,279	110,044	106,047	107,890
十二月	91,711	81,270	108,755	91,523	91,711
年平均	107,043	91,166	100,311	115,851	107,043

地方銑鐵産額次の如し

紐育州及マキチユーセツ州

一月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
二月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
三月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
四月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
五月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
六月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
七月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
八月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
九月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
十月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
十一月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
十二月(辛二日)	111,333	119,813	111,041	119,813
年平均	111,333	119,813	111,041	119,813

レハイヴァレー	八五、八五	七、三四	七、八六	八四、六六
スキュールキルヴァレー	六八、四九	六八、五二	七、三二	七五、〇三
下サスキイハンナ及レバンノンヴァレー	三〇、三〇	三〇、四八	三、三三	三三、四一
ピツバーク地方	六三、七五	六〇九、四八	六四、四六	七二、三三
セナゴヴァレー	四七、五八	四八、四五	六三、二九	四九、九八
西ベンシルベリニヤ州	一〇〇、二五	一〇〇、六九	三三、八三	一四、四五
メリーランド、バージニア及ケンタツキイ州	九、三二	九、二六	二〇、三六	二〇、四八
ホーリング地方	一三、八七	一三、五四	一五、二七	一三、二七
マホーニング地方	三〇、五七	三〇、四三	二五、七〇	三〇、七二
中央及北オハヨ州	二六八、八二	二五四、六一	三六、九六	三〇、六七
南オハヨ州	四九、六七	四、七二	四九、四二	四八、八三
イリノイ及インディアナ州	五三、六一	五九、四五	六四、〇九	七〇、四九
ミシガン、ミネソタ、ミスリ、ウチスコンシン、コロラド及ユータ州	一三〇、四六	一四、八六	一四八、二二	一四八、三七
アルバマ	三〇、七二	三九、八七	三三、〇三	三九、〇五
テネスシー	二、五九	六、四〇	九、三六	九、九二
合計	二、八七、四四	二、八六、九六	三、八一、四二	三、五八、二八

鉄鐵の月別日産額次の如し

一九二九年一月	八五、五三〇	二五、五一四	一一一、〇四四
二月	八九、二四六	二五、二六一	一一四、五〇七
三月	九五、四六一	二四、三六一	一一九、八二二
四月	九五、六八〇	二六、四〇七	一二一、〇八七
五月	一〇〇、一七四	二五、五七一	一二五、七四五
六月	九九、九九三	二三、九一五	一二三、九〇八
七月	九八、〇四四	二四、〇五六	一二一、一〇〇
八月	九八、九〇〇	二二、二五一	一一一、一五一
九月	九五、四二六	二二、一五九	一一六、五八五
十月	九三、六四四	二二、一〇一	一一五、七四五
十一月	八三、二七六	二二、七七二	一〇六、〇四七
十二月	六八、一五二	二二、三六一	九一、五二三
一九三〇年一月	七一、四四七	一九、七六二	九一、二〇九

鉄鐵(製鋼所)

△マーチャント鉄鐵

合計

備考 マーチャント鉄鐵には製鋼所にて産出せる市場向鉄鐵を含む

操業爐數次の如し

地方別	二月一日現在		一月一日現在	
	操業爐數	日産額(英噸)	操業爐數	日産額(英噸)
紐育州				
バツファロー	一〇	五、二〇〇	九	四、五一五
其他の紐育地方及マサチユース	三	一、〇三〇	三	一、〇六五
ニュージャージー州	〇	一	〇	一
ペンシルベニア州				
レハイヴァレー	六	△三、二五〇	五	△二、四七〇
スキュールキルヴァレー	六	二、七五五	四	二、〇五五
サスキイハンナヴァレー	二	九八〇	二	一、二〇五
レバノンヴァレー	〇	一	〇	一
フェロマンガニース	〇	一	〇	一
ピツバーク地方	三〇	一九、四六〇	三〇	一九、〇〇〇
フェロ及スピイゲル	三	五〇〇	三	六二五
セナンゴヴァレー	四	二、〇八〇	二	一、一九〇

西ベンシルベニア州	六	二、九四五	六	二、九五五
フェロマンガニース	二	二九〇	二	四〇五
メーリーランド州	五	三、二〇〇	四	二、六六五
ホイーリング地方	六	三、六七五	六	三、六二〇
オハヨ州				
マホーニングヴァレー	一四	八、三二五	一〇	六、三九〇
中央及北部	一五	八、六七五	一五	九、七〇〇
南部	四	一、六〇〇	四	一、四四〇
イリノイ及インディアナ州	三〇	二〇、六一五	二六	一七、六七〇
ミシガン、ウキスコンシン及ミネソタ州	五	二、三八〇	五	二、四〇〇
コロラド、ミズリー及ユータ州	四	一、八二〇	三	一、四七五
フェロマンガニース	〇	一	一	七〇
南部				
バージニア州	一	二四〇	一	二二〇
フェロマンガニース	一	九五	一	九五
ケンタツキイ州	〇	一	〇	一

アラバマ州	一六	七、六四〇	一四	六、八二〇
テネシー州	〇	一	一	二〇〇
合計	一七三	九六、七五五	一五七	八八、二五〇

備考 △印は鏡鐵を含む

一九二八年一月より一九三〇年一月に至る骸炭銑の月別産額次の如し

一九二八年	一九二九年	一九三〇年
一月	二、八六九、七六一	三、四四二、三七〇
二月	二、九〇〇、一二六	三、二〇六、一八五
三月	三、一九九、六七四	三、七一四、四七三
四月	三、一八五、五〇四	三、六六二、六二五
五月	三、二八三、八五六	三、八九八、〇八二
六月	三、〇八一、〇〇〇	三、七一七、二二五
上半期合計	一八、五二〇、九二一	二一、六四〇、九六〇
七月	三、〇七一、八二四	三、七八五、一二〇
八月	三、一三六、五七〇	三、七五五、六八〇
九月	三、〇六二、三一四	三、四九七、五六四

製鋼會社の自家用産額次の如し

備考 △印は木炭銑鐵を含み、一九二八年の木炭銑鐵は一四二、九六〇噸を算せり

十月	三、三七三、八〇六	三、五八八、一一八	一
十一月	三、三〇二、五二三	三、一八一、四一一	一
十二月	三、三六九、八四六	二、八三六、九一六	一
△年合計	三七、八三七、八〇四	四二、二八五、七六九	一

銑鐵合計

スベイゲル及フェロマンガニース

△フェロマンガニース

一九二八年	一九二九年	一九三〇年
一月	二、一五三、三三	二、二四八、八五
二月	二、七四、八〇	二、四九、九二
三月	二、五八、一五	二、九九、九五
四月	二、五五、五〇	二、八六、〇八
五月	二、六五、八七	三、一〇五、四四
六月	二、四八、九五	二、九九、七九
上半期合計	一四、六七、四八	一七、〇〇、八四
七月	二、四六、八六	三、〇〇、三〇

八月	二、六一、九四	三、〇五、八七	一	二、四、五三	一、六、八一	一
九月	二、四七、六五	二、八二、七九	一	三、二、七六	二、七、〇五	一
十月	二、七九、五九	二、九〇、九六	一	三、三、九三	三、一、〇八	一
十一月	二、六四、二一	二、四九、二九	一	三、元、七三	三、八、六六	一
十二月	二、六七、八三	二、二二、七四	一	三、六、六八	二、六、六四	一
年合計	三〇、二一、六〇	三、五三、八〇	一	三三、一、〇三	三、九、三〇	一

備考 △印はマーチアント爐の産額を含む

一九二九年世界鐵鋼産額レコードを作る

鋼合計一億千八百萬屯——亞米利加は約四八%

鐵鐵は九千六百萬屯以上——世界輸出額はレコード

アイアン エーヂ 一九三〇年一月二日

一九二九年の世界鐵鋼産額は從來のレコードを破り、鉄鐵の増大は鋼より多し……一九二八年はこれに反對せり。二ヶ國の鋼産額は一一七、八五〇、〇〇〇英噸に達し一九二八年の一〇八、二二〇、〇〇〇英噸に比し九パーセントの増加を示せり

亞米利加に於ける鑄物鋼を含む鋼産額は五、六〇〇萬英噸以上に達し好レコードを作り鉄鐵に於ても一

九二三年に於ける四〇、三六一、一四六英噸のレコードを破り五、八パーセントの増加なり主要國の鐵鋼輸出高も亦レコードを作り

一九二九年の亞米利加鐵鋼産額は共に著しき増加を示し其の結果世界レコードを作り詳細は倫敦鐵鋼製造業者聯合會よりの主として電報に依り作製せる附表に示せり

一九二九年の鉄鐵産額は約九六、一八〇、〇〇〇英噸に達し一九二八年の八六、九六〇、〇〇〇英噸より約一〇・五パーセントの増加なり、而して一九一三年の七七、七二〇、〇〇〇英噸に比すれば殆んぎ二四パーセントの増加を示したり

鋼の世界産額は鉄鐵程の増加を見ざるも概算一一七、八五〇、〇〇〇英噸に達したりこれを一九二八年の一〇八、二二〇、〇〇〇英噸に比すれば殆んぎ九パーセントの増進なるも一九一三年に比すれば約六〇パーセントの増加なり

歐洲諸國は皆増加を示す

一九二九年に於ける一五の歐洲諸國の鉄鐵産額は四八、六六〇、〇〇〇英噸に達し世界産額の五〇・五パーセントを示すも一九二八年に於ては四四、三六〇、〇〇〇英噸を算し四八・五パーセントを示せり一方鋼に於ては一四の歐洲諸國にて五七、〇五〇、〇〇〇英噸を産出し世界産額の四八・五パーセントを

示す、一九二八年に於ては五二、五三〇、〇〇〇英噸を算し共に四八・五パーセントを示したり
 獨逸は主要製鐵鋼中に於て、鐵鋼共に戦争後の新レコードを作れり、露西亞の恢復は注目し、加奈陀の増産は顯著なり

世界輸出額増進

一九二九年に於ける六の主要諸國の鐵鋼輸出業は活況を呈し一九二八年に於ける二〇、七〇〇、〇〇〇英噸に對し概算二〇、九九九、〇〇〇英噸に増加したり、亞米利加は一九二〇年以來のレコードを作れり
 一方是等諸國の輸入は一九二八年に於ける六、六一〇、〇〇〇英噸に對し六、一四〇、〇〇〇英噸に減少せり、米・英・獨は減少し佛・伯國は増加を示す

一九二九年の獨逸輸出額は一九二八年の四、六四〇、〇〇〇英噸に對し五、四〇〇、〇〇〇英噸の著しき増進を示し、輸出の第一位を佛蘭西に交代せり、獨逸は戦争前最大輸出國なりしが再び其の位置を獲得するに至れり、英國の恢復も亦著し

世界鉄産額 (佛磅換算單位百萬磅)

國名	一九二三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
英國	10,433	6,336	21,492	7,850	6,771	7,271

統計

獨逸	佛蘭西	白耳義	ルクセンブルグ	ザル	露西亞	波蘭	諸威	瑞典	伊太利	埃太利	匈牙利	チエコスロバキヤ	西班牙	合衆國	加奈陀
16,761	5,321	2,248	2,255	1	4,565	1	1	0,744	0,433	0,433	2,271	0,441	0,441	31,486	10,101
10,177	8,499	2,254	2,255	1,455	1,551	0,311	0,000	0,455	0,450	0,370	0,000	1,310	0,446	37,618	0,600
9,655	9,422	3,400	2,256	1,633	2,222	0,311	0,000	0,440	0,510	0,370	0,170	1,000	0,550	40,000	0,811
13,310	9,291	3,774	2,273	1,766	2,222	0,611	0,000	0,441	0,533	0,433	0,291	1,255	0,600	37,618	0,766
11,800	9,921	3,290	2,277	1,944	3,277	0,666	0,000	0,455	0,566	0,433	0,330	1,166	0,566	36,777	1,000
13,311	10,486	5,000	2,287	2,133	4,255	0,711	0,110	0,448	0,566	0,446	0,288	1,253	0,611	43,618	1,191

波	瑞	西	伊	埃	匈	チエコスロバキヤ	合衆	加	濠	印	日	支	合
蘭	典	班	太	太	利	利	國	陀	洲	度	本	那	計
1	0.56	0.30	0.33	0.33	2.33	3.00	3.00	1.05	1	1	1	1	6.03
0.78	0.47	0.57	1.78	0.47	0.33	1.50	4.11	0.77	0.55	1.34	0.10	0.56	9.56
0.79	0.49	0.69	1.77	0.55	0.10	1.57	4.06	0.79	0.55	1.50	0.10	0.56	9.56
1.24	0.49	0.66	1.59	0.55	0.47	1.31	4.56	0.53	0.52	1.71	0.10	1.01	10.76
1.43	0.57	0.79	1.66	0.64	0.47	1.66	5.36	1.35	0.41	1.66	0.10	1.95	10.95
1.47	0.61	0.81	2.18	0.66	0.47	2.03	5.70	1.47	0.43	2.03	0.16	2.19	11.74

備考 △印 一部分概算、ローレンの産額は一九二三年に於ては獨逸に、一九一八年以來は佛蘭西に包含せらる
 ◇印 其他の諸國を含む

世界鋼塊及鑄物産額 (單位百萬噸)

露	ザ	ルク	白	佛	獨	英	國	合	支	日	印	濠
西	1	ク	耳	蘭	逸	國	名	計	那	本	度	洲
亞	ル	セン	義	西	國	國	一九二三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
4.83	1	1.33	2.47	4.68	1.76	7.76	1923	1925	1926	1927	1928	1929
2.24	1.57	2.81	2.55	7.44	3.29	7.50	1925	1926	1927	1928	1929	1930
3.22	1.73	2.24	3.37	8.43	3.34	3.65	1926	1927	1928	1929	1930	1931
3.58	1.88	2.47	3.71	8.27	2.63	9.24	1927	1928	1929	1930	1931	1932
4.24	2.07	2.57	3.95	9.50	1.51	8.65	1928	1929	1930	1931	1932	1933
4.73	2.18	2.69	4.11	9.60	1.51	9.85	1929	1930	1931	1932	1933	1934

備考 △印 一部分概算、ローレンの産額は一九二三年に於ては獨逸に、一九一八年以來は佛蘭西に包含せらる
 ◇印 其他の諸國を含む

主要國の鋼輸出入額 (單位百萬噸)

輸出入	輸出				
	一九三三年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
合衆國	二・三	一・七〇	二・〇元	一・九	二・三
英國	五・〇四	三・六	三・〇三	四・六	四・三
獨逸	六・元	三・六	四・八九	四・元	四・七
佛蘭西	〇・五	三・二	四・一九	五・六	五・〇七
白耳義	一・五七	三・二〇	三・六	四・六	四・五
合計	一六・四	一五・八	一七・九	二〇・九	二二・三
輸入					
合衆國	〇・五	〇・八五	一・〇三	〇・七〇	〇・七〇
英國	二・二	二・七	三・八〇	四・四	二・五
獨逸	〇・三	一・九	一・〇四	二・六	二・〇五
佛蘭西	〇・七	〇・七	〇・八	〇・三	〇・一四
白耳義	〇・八	〇・五	〇・六〇	〇・五	〇・八
合計	三・八	五・五	六・六	八・三	六・七
輸出超過	一二・六	一〇・三	一一・三	一一・六	一四・三

備考 一部分概算、ルクセンブルグは白耳義に含まる、層は計上せず

一九二九年十二月及一九二九年全年に於ける
白耳義の石炭及鐵鋼産額 (單位噸)

	一九二九年十二月	一九二九年十一月
石炭	二、一三六、六二〇	二、三〇五、九一〇
骸炭	四九四、一三〇	四八九、五四〇
特許燃料	一六三、五八〇	一六六、六七〇
山元ストツク	三二一、八八〇	三〇四、五五〇

十二月末に於ける自耳義の操業爐數は五八基を數へ前月と變りなし十二月の産額次の如し

計	銑鐵	鋼塊	鋼鑄物	鋼製品	鐵製品
	三四〇、一五〇 (十一月三四〇、〇六〇)	三一、五四〇 (十一月三三三、四三〇)	一〇、三六〇 (十一月九、六一〇)	二八三、七三〇 (十一月二八五、八五〇)	一五、七二〇 (十一月一一、九二〇)

一九二九年全年の産額次の如し

	一九二九年	一九二八年
石炭	二六、九三一、四六〇	二七、五四二、七八〇
特殊燃料	五、九九一、一〇〇	五、九二六、六〇〇
銑鐵	二、〇一八、一九〇	一、九六〇、八〇〇
鋼塊	四、〇九五、〇〇〇	三、九〇五、三二〇
鋼鑄物	四、〇九五、九四〇	三、九〇五、三〇〇
鋼製品	一一一、二〇〇	一一三、六〇〇
鐵製品	三、五五六、四〇〇	三、三九三、四〇〇
鐵製品	一六三、二〇〇	一七四、七〇〇

一九二九年に於けるザール地方鐵鋼產額

昨年中のザール地方製鐵所の銑鐵產額は二、一〇四、九四〇噸に達し、中二〇七、二〇〇噸は鑄物銑及直接鑄物、一、八九七、七四〇噸は鹽基性銑にして、年末四ヶ月間の高爐操業爐數は三〇基の中二六基を數へたり、鋼產額次の如し(噸)

鋼(鑄物を含む)	二、二〇八、九〇九
鹽基性轉爐鋼塊	一、六四二、三四五

壓延工場の產額次の如し(噸)

鹽基性平爐及電氣爐鋼塊	五四四、四〇三
鹽基性及電氣鋼鑄物	一六、一六二
酸性鋼鑄物	五、九九九
販賣用半製品	一五六、六七九
鐵道材料	一、六〇二、七二四
形物(八寸以上)	二二九、八七〇
棒及小形物	二五二、三〇四
棒	四九七、三一四
線	一二〇、三九七
厚板及ユニバーサル平鋼	一五七、一〇〇
薄板及鋇力板	一六〇、六三四
練鐵チユーブ	九六、六九六
フォージング	八三、七六六(一部概算)
其他の製品	四、〇〇七
	六三六

一九二九年に於けるルクセンブルグの鐵鑛石産額

一九二九年のルクセンブルグの鐵鑛石産額は六二八、九一七噸に達したり
因に一九二八年の産額は五八五、五〇〇噸、一九一三年は六一一、〇八三噸を算せり

ユー、エス、スチール、コーポレーション 及ベスレヘム製鋼會社の收益

ユー、エス、スチール、コーポレーションの收益は一株當り二一弗を超ゆ

第四四半期の收益は一九二八年同期の收益に優る

一九二九年に於けるユー、エス、スチールコーポレーションの收益は優先株配當支拂後に於て普通株一株當り約二一、一八弗に達したり、第四四半期の收益次の如し

ユー、エス、スチールコーポレーションの收益(一九二九年第四四半期收益)

一九二九年十月	二二、〇六六、三二五弗
" 十一月	一八、三六七、一〇七
" 十二月	一五、九五二、九〇二
總 收 益	

諸費用、税金及利息控除總收益	五六、三八五、三三四弗
減價償却資金	一五、八一六、八九二
純 收 益	四〇、五六八、四四二
控除額一社債利子	五九六、〇八四
殘 額	三九、九七二、三五八
配 當 金	
優先 株 13% 六、三〇四、九一九	
普通 株 24% 一四、五四一、〇一三	
當期剩餘金	二〇、八四五、九三三
九ヶ月間剩餘金	一九、一二六、四二五
何れの特別支拂期にも屬せざる特別收入	七九、八〇四、四五六
年間總剩餘金	九、九七二、三五一
一九二九年に於けるベスレヘム製鋼會社の收益	一〇八、九〇三、二二三

(年收は平均一株當り一五、五〇弗 社長グレース氏の意見は漸次向上の見込)

合衆國の一九二九年中石炭輸出額 (英噸)

	一九二九年	一九二八年
コーポレーション及其の附屬會社の總收益	一六、四四、五九弗	一七、七〇、七弗
利息	二、九四、四九	二、七五、五四
殘高	一三、五〇、一〇〇	一四、九一、六三九
減價償却資金	三、四三、九三	三、五六、九〇九
支拂期間中の純収益	一〇、〇六、一七	二、三八、七三〇
配當金		四三、二四、九六〇
優先株	一七五〇、〇〇〇	一、七五〇、〇〇〇
普通株	四、八〇〇、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇
計	六、五〇、〇〇〇	六、五〇、〇〇〇
後期繰越金	三、四六、一九七	四、八四、七〇〇
無煙炭	一九二九年 三、〇四一、四〇一	一九二八年 二、九七八、八一四

以上 アイアン エーチ 一九三〇年一月三十日

瀝青炭	一五、五六一、八七三	一四、四三三、五七六
骸炭	一、一〇五、三八八	九八〇、〇五九
バンカー炭	三、八二七、二四九	三、八三四、二二八

輸出先次の如し

統	計
加祭陀へ	一三、〇七五、八九四
ニューファウンドランド及ラブラダーへ	一四八、二三九
佛蘭西へ	一八、六八〇
伊太利へ	四八六、一六五
其他の歐洲諸國へ	一、六五四
埃及へ	四一、〇三四
パナマへ	三〇四、三五六
メキシコへ	七三、六四三
英領西印度及バムダムへ	二一三、七六〇
キューバへ	五三九、九一九
佛領西印度へ	一三一、九九六
米領西印度へ	一二六、九九四
	二二、四六三、三五八
	七三、八四二
	二〇、六三七
	二〇四、一六七
	二、八五四
	三〇、七四五
	二六四、三四六
	八一、五三五
	一八九、六二一
	五三五、三五七
	一三七、五一一
	一一二、二二九

其の他の西印度へ	三〇、四三七	四三、七九二
アルゼンチンへ	四三、三〇五	三二、二九〇
ブラジルへ	一一三、三七三	一五四、二八一
ウルゲイへ	一七、〇二九	一七、二三八
其他の南アフリカへ	三〇、九八七	三九、九八〇
其他の諸國へ	七四、四〇八	一九、九〇三

一九二九年中ニッケルの世界消費高

加奈陀の國際ニッケル會社社長ロバート・シー・スタンレイ氏の株主への報告に依ればニッケルの世界消費高は一億三千六百万封度に達しこれを一九二八年に比すれば一六パーセント、戦時中の最高記録に比すれば二九パーセントの増加なり

澳太利の一九二九年中燃料統計

一九二九年に於ける澳太利の燃料供給は總計一〇、三〇〇、九八一噸（一九二八年九、二二二、八七八噸）に達したり。其の内譯次の如し

石炭	一九二九年	一九二八年
	五、五一七、六〇七	四、八〇六、二八三

更に自國産ミ輸入別に示せば次の如し

褐炭	四、〇三五、三四四	三、六七〇、〇〇二
石炭	七四八、〇三〇	六四六、五九四

自國産

石炭	一九二九年	一九二八年
	一九九、二〇二	二〇一、六〇四
褐炭	三、四四三、五三二	三、二〇九、五四九

輸入

石炭	五、三二八、四〇五	四、六〇四、六七九
褐炭	五九一、八一二	
石炭	七四八、〇三〇	六四六、五九四

石炭の輸入先次の如し

波蘭上部シレシア	二、九一九、八二九
波蘭のドムブロワ	三八二、八四五
チエコスロバキヤ	一、三五一、四八三
獨逸	六五二、六三九